平成 26 年度
先導的大学改革推進委託事業

人文社会系の大学院（修士・博士課程）における教育内容及び修了者のキャリアパスの実態等に関する調査研究

報　告　書

平成 27 年 5 月
株式会社 浜銀総合研究所

目　　次

事業・調査研究結果の概要 1

（1）調査、集計・分析の目的 1
（2）調査実施方法等の概要 1
（3）集計・分析結果の概要 1

1．事業・調査研究の枠組み 5
（1）事業・調査研究の趣旨・目的 5
（2）事業・調査研究の内容 5
（3）事業・調査研究の実施方法等の概要 6

2．調査手法の検討・開発 9
（1）調査手法の枠組みの検討 9
（2）「大学院向け調査」に関する検討過程・考え方 10
（3）「修了者向け調査」に関する検討過程・考え方 12
（4）「企業向け調査」に関する検討過程・考え方 15

3．調査の実施 17
（1）調査の実施・依頼の方法 17
（2）実施期間・調査票の回収 19
（3）調査回答者に関する基本情報 20
（4）集計・分析の枠組み・内容 22

4．修了者の進路・就職等の状況に関する分析 24
（1）修了者の進路・キャリアパスの実態に関する分析 25
（2）企業における大学院修了者の採用状況に関する分析 37
（3）大学院の各研究科での人材育成・排出の考え方等に関する分析 42

5．大学院の教育内容の見直し・改善の必要性等に関する分析 47
（1）仕事等で求められる能力と大学院で身に付けられる能力との関係性に関する分析 47
（2）大学院で実施されていることと今後充実が求められていることとの関係性に関する分析 56
（3）修了者の満足度と大学院の教育内容等の関係性に関する分析 64
（4）就職状況等の改善のために必要と考えられることに関する分析 70

6．まとめ・考察 75
（1）分析結果のまとめ 75
（2）今後講じるべき施策の在り方についての検討・考察 82

＜参考資料＞ 85
（1）調査票 87
（2）単純集計結果 101
（3）クロス集計結果 111

事業・調査研究結果の概要

（１）調査、集計・分析の目的

本事業・調査研究では、主に次の（A）（B）の点を明らかにすることを目的として定めた。なお、それぞれ、「一般化可能な定量的な分析が行えるような調査データを収集する」こと、また、「課程・専門分野による差異等を明らかにする」ことに留意しつつ、検討・分析を行った。

(A)人文・社会科学系の大学院修了者の進路・就職等の状況について、大学・修了者・産業界のそれぞれから情報を把握し、多角的な視点から現状を明らかにするとともに、課題点等を明確にする

(B)大学・修了者・産業界のそれぞれの立場から、人文・社会科学系の大学院の教育内容等のどのような点を見直し・改善する必要があると考えられているのかを把握し、三者に共通して見られる点や差異等を明らかにする

（２）調査実施方法等の概要

上記のように定めた事業・調査研究の目的に対して、適当と考えられる調査・分析手法等の検討を行った。検討の結果、本事業・調査研究では、「大学院向け調査」「修了者向け調査」「企業向け調査」のそれぞれについて、以下のような方法にて調査を実施した。

大学院向け調査	・学校基本調査のデータに基づき抽出した、「人文科学」「社会科学」に該当する研究科を有する大学（289 大学）に依頼し、「人文科学」「社会科学」に該当する各研究科（計 621）を対象に実施 ・紙媒体の調査票を送付し、各研究科長に回答を依頼
修了者向け調査	・上記大学院向け調査を依頼した大学から、電子メールにて修了者に対して回答依頼文を送付 ・各修了者は回答用 WEB ページにアクセスの上調査に回答 ・対象は平成 21 年度、平成 23 年度、平成 25 年度の修士・博士課程修了者 （専門職学位課程修了者や現在他の大学院等に在学中の者は対象外、留学生・社会人経験のある者は対象とし、博士課程修了者には単位取得退学者も含む）
企業向け調査	・東証一部上場企業 1,829 社（会社四季報 2014 年 4 集掲載企業）に対して紙媒体の調査票を送付 ・対象となる企業が持株会社の場合には、傘下の企業のうち、学生の採用数が最も多い企業について回答いただくよう依頼

（３）集計・分析結果の概要

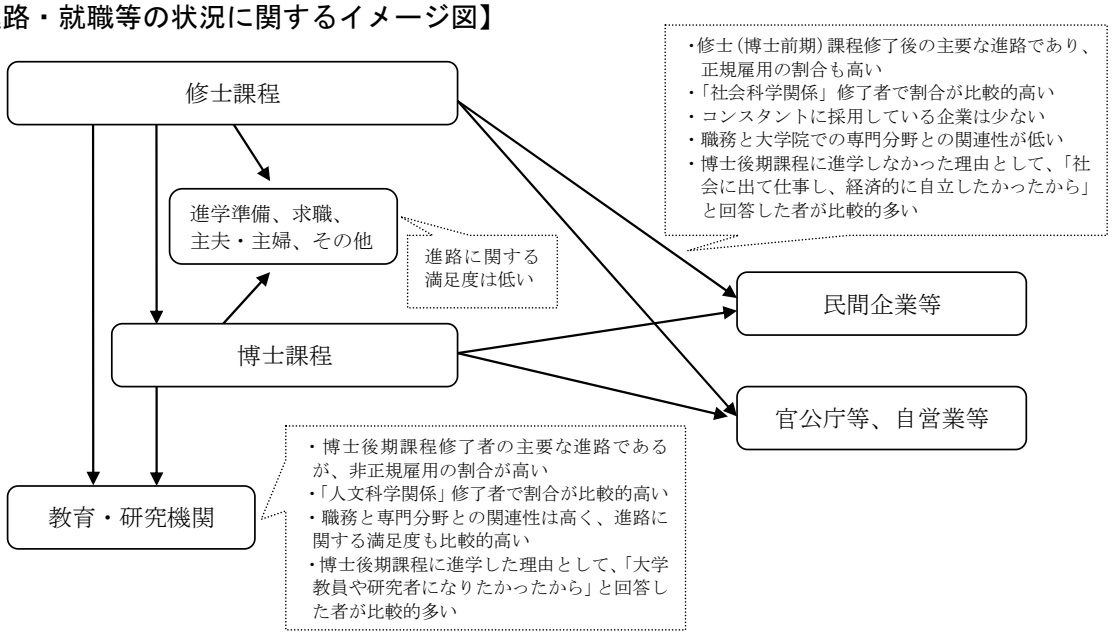
①進路・就職等の状況

人文・社会科学系大学院の修了者の進路・就職等の状況に関して、集計・分析の結果、次のようなことが明らかになった。

＜修了者向け調査結果の一例＞

○修士（博士前期）課程修了者では、「人文科学関係」「社会科学関係」ともに、「民間企業等」で働いている者の割合が最も高い。
○博士後期課程修了者については「高等教育機関」で働いている者の割合が最も高い。
○雇用形態が「非正規雇用」である割合は、修士（博士前期）課程修了者よりも博士後期課程で高い。
○「非正規雇用」の割合は、「民間企業等」で働いている者では約 1 割と比較的低いが、「高等教育機関」で働いている者では約 4 割と高くなっている。
○「仕事の職務内容と修了した大学院の専門分野との関連性」については、「公的研究機関」「高等教育機関」で働いている者では「とても関係している」との回答割合が高いが、「民間企業等」で働いている者では、「あまり関係していない」「全く関係していない」との回答割合が比較的高い。

【進路・就職等の状況に関するイメージ図】



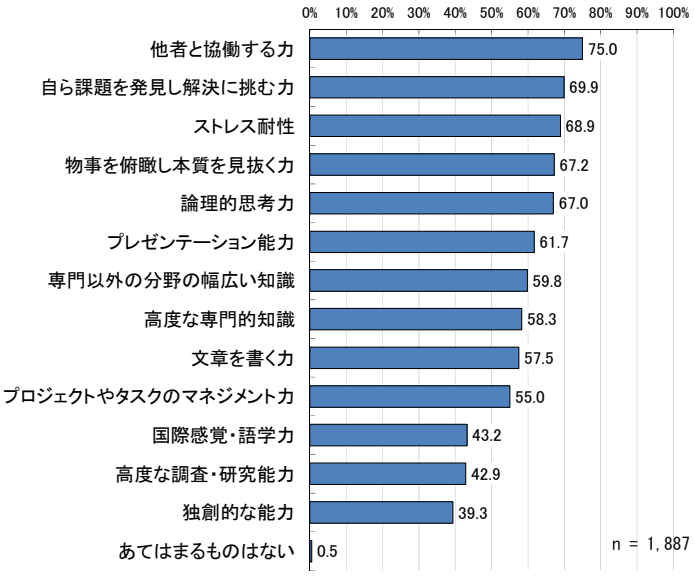
②教育内容等に関する改善点等

人文・社会科学系大学院の教育内容等の改善点等に関して、「大学院修了者に求められる能力等と大学院で身に付けられる能力等」「大学院の教育内容等で充実が求められること」の 2 点について把握した。この点について、主に次のようなことが明らかになった。

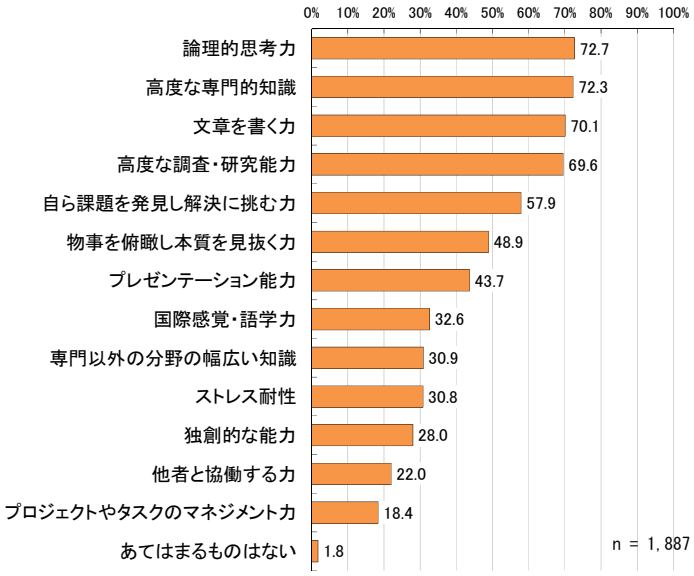
＜大学院修了者に求められる能力等と大学院で身に付けられる能力等＞

○修了者自身が「仕事をする上で特に強く求められていると考える能力等」としては、「他者と協働する力」をはじめ、「自ら課題を発見し解決に挑む力」「ストレス耐性」「物事を俯瞰し本質を見抜く力」「論理的思考力」に関する回答割合が相対的に高い。
○これらの 5 点については、企業から、「入社を希望する文系の大学院生に特に高い水準で期待すること」としても、回答割合が高い。
○「論理的思考力」については、修了者から「大学院教育を通じて身に付いた」との回答割合が高いが、「他者と協働する力」や「ストレス耐性」に関しては、その割合は低い。
○「他者と協働する力」や「ストレス耐性」は、大学院として「身に付けさせることを重視している」との回答割合も比較的低く、求められることと身に付けられることとの間にギャップが見られる。

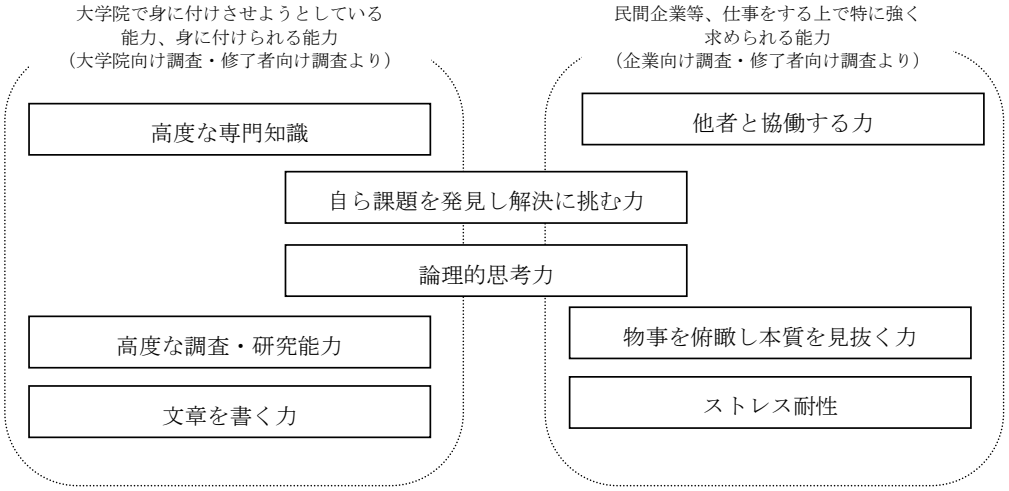
【「仕事をする上で求められている」と考える能力等】
（修了者向け調査より）



【「大学院で身に付いた」と考える能力等】
（修了者向け調査より）



【大学院修了者に求められる能力等と大学院で身に付けられる能力等に関するイメージ図】



＜大学院の教育内容等で充実が求められること＞

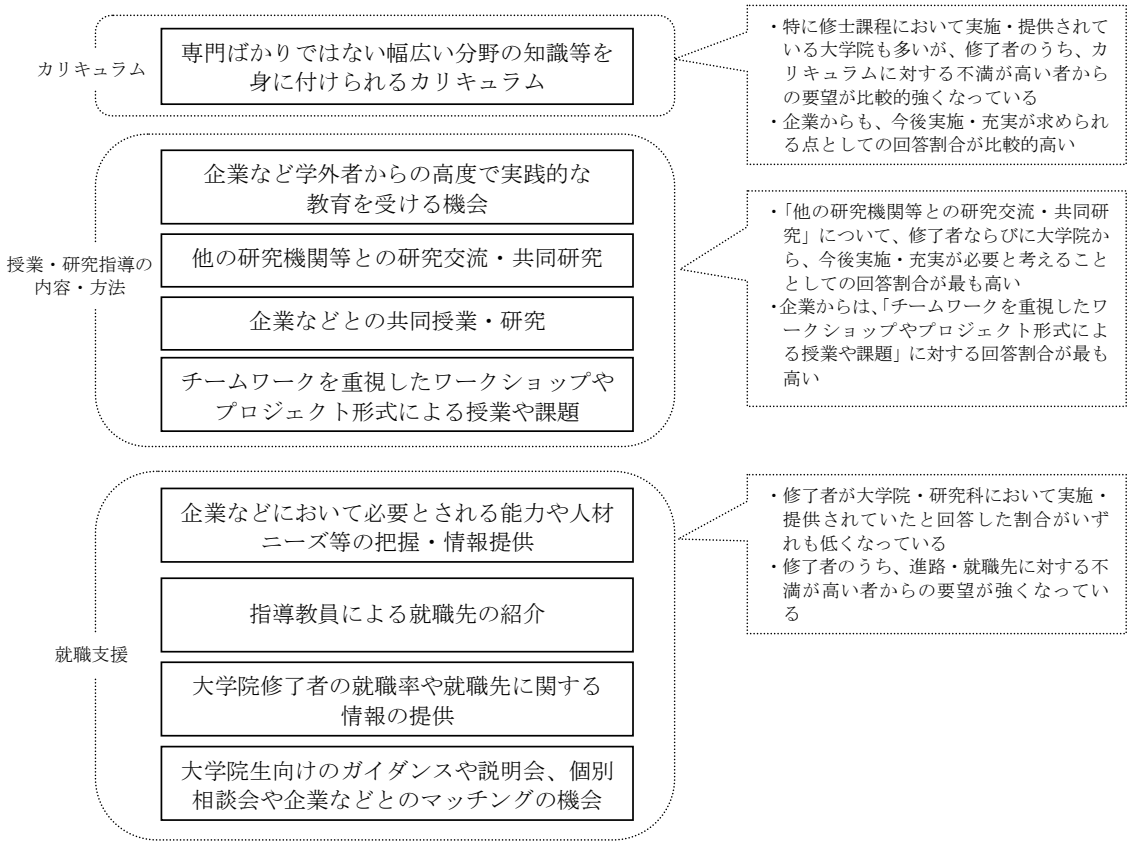
○修了者が大学院・研究科において「もっと充実していてほしかったと考えること」としては、「企業など学外者からの高度で実践的な教育を受ける機会」「他の研究機関等との研究交流・共同研究」「企業などとの共同授業・研究」など、企業や他の研究機関との共同研究・交流等の機会の充実に関する回答割合が比較的高い。

○また、「企業などにおいて必要とされる能力や人材ニーズ等の把握・情報提供」等、就職支援の充実に関する回答割合も高い。

○企業から、「今後文系の大学院において実施・充実したほうがよいと思われること」としては、「チームワークを重視したワークショップやプロジェクト形式による授業や課題」や「専門ばかりではない幅広い分野の知識等を身に付けられるカリキュラム」について回答割合が比較的高い。

○大学院・研究科として、「今後実施・充実が必要と考えること」としては、「他の研究機関等との研究交流・共同研究」への回答割合が最も高くなっている。なお、この点については、大学院・研究科として「実施・提供していること」の回答割合が比較的低くなっている。

【大学院の教育内容等で充実が求められることに関するイメージ図】



③人文・社会科学大学院の修了者の社会での活用が進まない理由・背景等

「進路・就職等の状況」や「教育内容等に関する改善点等」を明らかにする中で、人文・社会科学大学院の修了者の社会での活用が進まない理由・背景等に関して、次のような点が明らかになった。

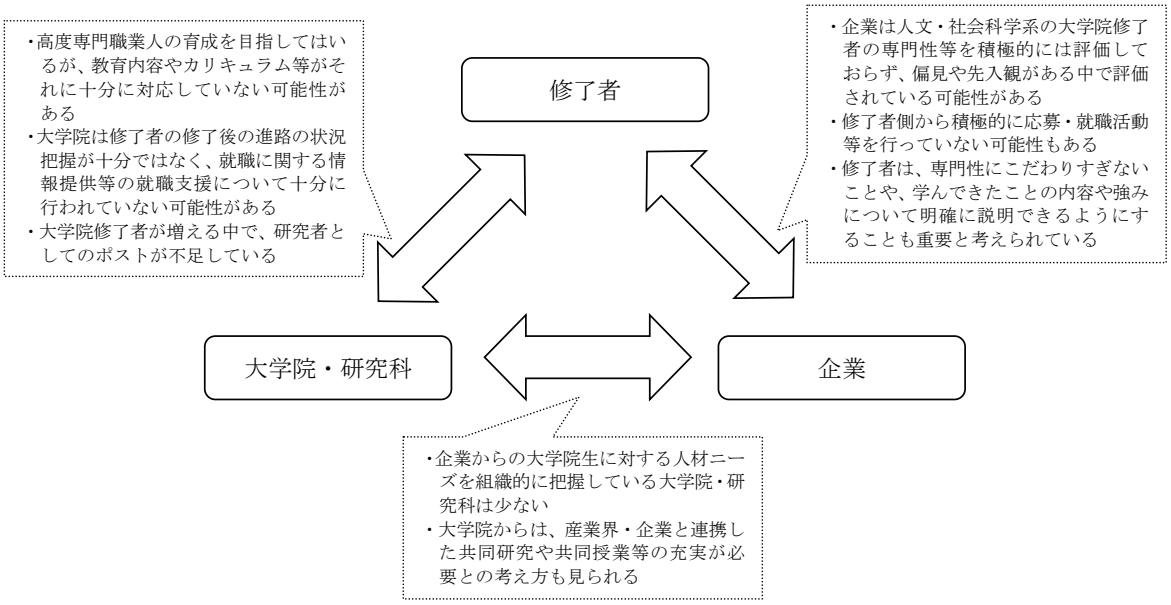
＜企業の採用に関する考え方、専門性等への評価＞

○企業の今後の採用意向として、7 割以上は「優秀であれば、学卒者・大学院修了者を問わず採用数を増やしていきたい」としている。
○ただし、理系の大学院修了者を増やしていこうとする明確な意向がある企業が比較的多く見られるのに対して、文系の大学院修了者を積極的に増やしていこうとしている企業は非常に少ない。
○また、採用後の配属等で専門性等を考慮するかに関する回答の結果からは、理系の大学院修了者については「とても考慮している」「まあ考慮している」の割合が 7 割以上であるのに対して、文系の大学院修了者に関してはその割合は 3 割程度となっている。

＜大学院でのキャリア支援等の状況＞

○修了者の就職状況に関して、進学か就職かが分類できない「その他」としての回答割合が高く、大学院・研究科として、修了者の進路について明確に把握できていない場合もあると推察される。
○大学院生に対する産業界の人材ニーズに関する情報の入手は主に「教員の個人的なネットワーク」や「企業からの公開情報」に基づいてなされている状況にあり、組織的に対応している大学院・研究科の割合は高くないことが把握される。

【修了者の社会での活用が進まない理由・背景等について把握されたことに関するイメージ図】



（4）今後講じるべき施策の在り方についての検討・考察

集計・分析の結果把握された点をふまえ、本事業・調査研究のまとめとして、今後講じるべき施策に関し、次の 3 点について、検討・考察を行った。

①大学院生向けの情報提供等就職に関する支援の充実
②産業界との連携・情報交換等の取組の推進、カリキュラム開発等による状況の改善
③育成すべき能力等の明確化、大学院修了者の専門性や能力等の再評価

１．事業・調査研究の枠組み

（１）事業・調査研究の趣旨・目的

我が国が持続的な成長を遂げていくためには、その成長を牽引する修士・博士レベルの高度人材の活躍が不可欠である。

しかしながら、人文・社会科学系の大学院（修士・博士課程[1]）における大学院修了後の進路動向の調査では、就職率が低く修得した知識・技能と進路が必ずしも関連していなかったり、死亡・不詳といった割合が高く大学として修了者のキャリアパスの実態把握が不十分であったりすることが浮き彫りになった。

このような課題を踏まえ、中央教育審議会では、「グローバル化社会の大学院教育」（平成23年1月答申）において、人文・社会科学系の大学院教育の改善方策として、①人材養成目的に沿った組織的な大学院教育、②円滑な学位授与の促進、③多様なキャリアパスの確立について指摘している。特に③については、大学院が養成する人材像と産業界等における評価や期待を共有し、キャリアパスに関する認識を高めること、きめ細やかな履修指導や就職支援など、キャリア支援のための取組の強化の必要性を述べている。

今後、国が充実した大学院施策を推進していくためには、人文・社会科学系の大学院における教育内容やキャリアパスの実態把握についての課題を抽出し、修了者の社会での活躍を促進するような施策を講じる必要がある。

そのため、本調査研究では、就職率が低いことに関連して、大学、修了者、産業界側の視点から教育内容等に関する課題認識について、三者間の相違を浮き彫りにするための調査を行うとともに、進路先として死亡・不詳等の割合が高いことに関連して、就職支援等のあり方等についての課題等を把握するための調査を行う。そして、調査結果を踏まえて人文・社会科学系大学の振興と修了者の活躍促進のために講じるべき施策の在り方についての知見を得ることを目的とする。

なお、本調査研究は、平成 25 年度に当社が受託して実施した同名の事業・調査研究（以下、『平成 25 年度パイロット調査』と表記）の内容・結果等をふまえて実施するものである。『平成 25 年度パイロット調査』との違いとして、今年度の調査研究は、「ア）調査手法等について再度検討し、一般化可能な、定量的な分析が行えるような調査データを収集する」、「イ）収集した調査データに基づき、全体的な現状・傾向のみならず課程・専門分野による差異等を明らかにする」ことに留意して実施した。

（２）事業・調査研究の内容

本事業・調査研究は、主に以下の 2 点について実施した。

①調査手法の検討・開発	『平成 25 年度パイロット調査』で検討した調査手法やインタビュー調査により把握された内容等をふまえ、大学や修了者、産業界等からの視点での分析が定量的に行えるような調査データを得るための手法を開発する。
②調査の実施	①で検討・開発した調査手法に基づき、人文・社会科学系の研究科を有する全大学、左記研究科を平成 21～25 年度に修了した者（満期退学を含む）、業態や規模のバランスに留意しつつ抽出した企業を対象にして実際の調査を実施し、回答の収集・集計・分析を行う。

[1] 本報告書で使用する「博士課程」という用語は、特段の説明がない場合には、「博士後期課程」を意味するものとして用いる。また、「修士課程」については、「博士前期課程」も含む用語として用いている。

（３）事業・調査研究の実施方法等の概要

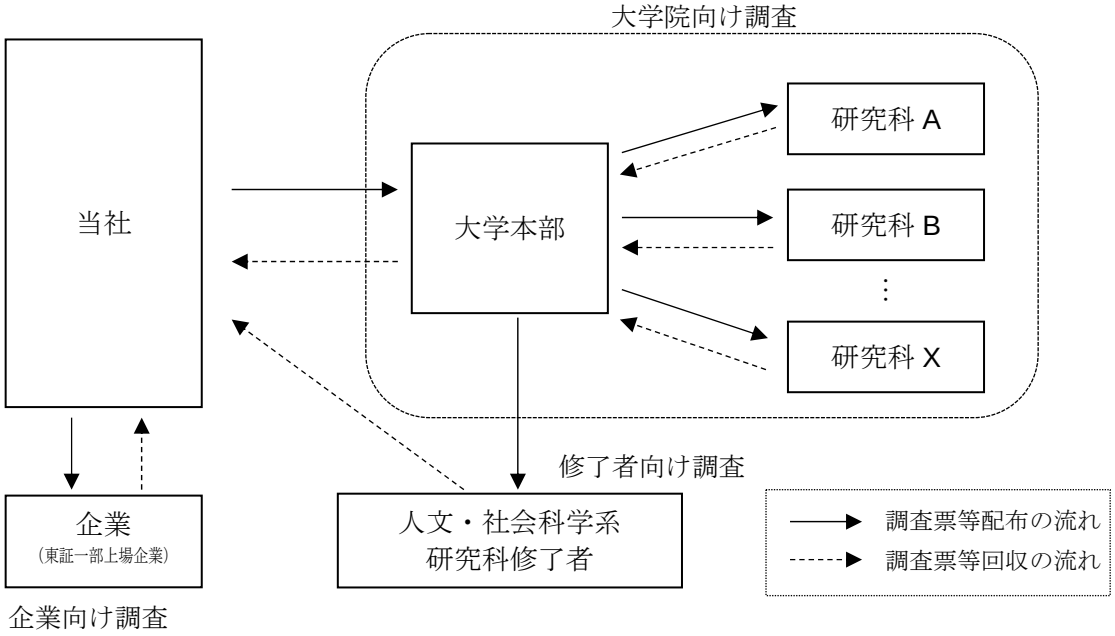
①調査手法の検討・開発

本調査研究は、上記「事業・調査研究の趣旨・目的」に示した内容を達成するため、「大学院」「修了者」「企業」の三者それぞれを対象にしたアンケート調査について、どのような実施方法がありうるかについて、具体的に検討を行った。

検討の過程・考え方等については後述するが、それぞれを対象にした調査について、次のような実施方法を検討した。

大学院向け調査	・「大学院」を対象とする調査については、人文・社会科学系の大学院研究科を設置している全ての大学を対象とした。 ・また、調査内容として、大学院における教育内容等について具体的にたずねる設問を含むものとし、調査には、大学単位ではなく研究科を単位として回答してもらうようにした。
修了者向け調査	・「修了者」を対象とする調査については、『平成 25 年度パイロット調査』において、修了者にアプローチするための方法について、主に、「企業や関連機関に所属する大学院修了者を対象に調査する方法」、「大学・研究科等が保有していると想定される修了者に関する名簿等を活用する方法」、「大学以外で大学院修了者の住所等を保有すると想定される団体等を通じて調査する方法」、「インターネットリサーチ会社等が保有するモニターを活用する方法」の 4 つの方法について検討を行っている。 ・あらためてこれらの方法について検討を行い、本調査研究では、「大学・研究科等が保有していると想定される修了者に関する名簿等を活用する方法」を採択することとし、各大学に対して、修了者のメールアドレスに対して調査の案内・依頼を行ってもらうようにした。
企業向け調査	・「企業」を対象とする調査については、全国の企業を広く対象とするよりも、新卒採用活動を行っており、また、そのなかで人文・社会科学系の大学院修了者に接する機会のある（さらには、実際に人文・社会科学系の大学院生の採用を行っている可能性のある）企業等に対象を限って考えたほうがよいのではないかと考え、東証の一部上場企業を調査対象とすることとした。

図表 1　調査の実施方法全体像イメージ



②調査の実施

「大学院」「修了者」「企業」を対象とした調査について、それぞれ、具体的には次のような方法にて実施した。

調査の実施にあたり、いずれの調査票も平成 27 年 1 月 30 日を発送日とした。また、「大学院向け調査」は、平成 27 年 2 月 20 日を締め切り日に設定した。「修了者向け調査」は、平成 27 年 2 月 18 日までを各大学からの案内の期限とし、調査自体は、平成 27 年 2 月 28 日を期限とした。なお、修了者対象の調査に関して、回答用 WEB ページは、平成 27 年 1 月 30 日から平成 27 年 2 月 28 日の 15 時まで、約 1 か月間開設した。「企業向け調査」は、平成 27 年 2 月 18 日を締め切り日に設定した。

＜調査の実施・依頼の方法＞

大学院向け調査	・学校基本調査のデータに基づき抽出した、「人文科学」「社会科学」に該当する研究科を有する大学（289 大学）に依頼し、「人文科学」「社会科学」に該当する各研究科（計 621）を対象とした調査を実施した。 ・各大学に対して、紙媒体の調査票ならびに返信用封筒を該当する研究科の数の分だけまとめて送付し、回答は、返信用封筒により、研究科ごとに返送してもらった。 ・なお、研究科を代表して回答いただくものであるため、各研究科長に回答を依頼した。
修了者向け調査	・大学を経由してメール等にて修了者に対して回答依頼をし、各修了者には回答用 WEB ページにアクセスの上調査に回答いただくこととした。 ・文部科学省にて今年度別途行われていた調査と重複が出ないよう、平成 24 年度（2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日）修了者は対象から外し、平成 25 年度、平成 23 年度、平成 21 年度修了者を対象とした。 ・なお、現在他の大学院等に在学中の者は調査対象外とした。
企業向け調査	・東証一部上場企業 1,829 社（会社四季報 2014 年 4 集掲載企業）に対して紙媒体の調査票を送付し、返信用封筒により、郵送にて返送してもらった。 ・送付先は「企業名＋人事部採用ご担当者様」とした。

調査実施の結果、それぞれ、回答が得られた件数、ならびに、回収率は、次のようになっている。なお、いずれの調査も、締め切り設定日以降、平成 27 年 2 月末までに返送があった分を集計対象とした[2]。

＜調査票の回収状況＞

大学院向け調査	・445 の研究科から回答が得られた。 ・送付した調査対象の研究科数 621 に対する回収率は 71.7%であった。
修了者向け調査	・2,226 人から回答が得られた。ただし、このうち 339 人は現在も大学院等に在学中であったことから、残りの 1,887 人を集計の対象とした。 ・1,887 人の内訳として、修士課程修了者が 1,333 人、博士課程修了者が 533 人、5 年一貫博士課程が 21 人であった。また、専門分野別では、人文科学関係が 738 人、社会科学関係が 1,026 人、その他が 123 人であった。
企業向け調査	・260 社から回答が得られた。 ・送付数に対する回収率は 14.2%であった。

[2] 平成 27 年 3 月以降にも何通か返信があったが、これらについては集計の対象ならびに回収の件数には含めていない。

２．調査手法の検討・開発

（１）調査手法の枠組みの検討

①事業・調査研究の目的の明確化

本事業・調査研究では、まず、大学、修了者、産業界側の視点から、人文・社会科学系大学院修了者の進路に関する情報を把握する方法や、大学院での教育内容等に関する課題認識等について、三者間の相違等を浮き彫りにするための調査手法について、検討・開発を行った。

なお、特に「一般化可能な定量的な分析が行えるような調査データを収集する」こと、また、「課程・専門分野による差異等を明らかにする」こともふまえつつ、本事業・調査研究においては、主に次の（A）（B）の点を明らかにすることを目的として定め、調査・分析手法等についての検討を行った。

＜本事業・調査研究において主に明らかにすべきと考える点＞

（A）人文・社会科学系の大学院修了者の進路・就職等の状況について、大学・修了者・産業界のそれぞれから情報を把握し、多角的な視点から現状を明らかにするとともに、課題点等を明確にする

（B）大学・修了者・産業界のそれぞれの立場から、人文・社会科学系の大学院の教育内容等のどのような点を見直し・改善する必要があると考えられているのかを把握し、三者に共通して見られる点や差異等を明らかにする

②調査手法の大枠の検討

調査の検討にあたっての基本的な考え方として、上述の通り、今年度実施する調査では、「一般化可能な定量的な分析が行えるような調査データを収集する」こと、ならびに、「課程・専門分野による差異等を明らかにする」ことが求められるものであるとの認識から、ヒアリング調査等の質的な調査研究アプローチではなく、質問紙調査により量的な調査データを得ることについて検討を行った。また、本事業・調査研究においては、「大学」「修了者」「産業界」のそれぞれを対象にし、一部比較可能な項目を盛り込みながら、調査データを得ることを検討した。

より具体的には、「大学」に関する調査については人文・社会科学系の大学院研究科を設置している全ての大学を対象とする方法について検討した。また、「修了者」については、平成 21 年度～平成 25 年度に人文・社会科学系の大学院研究科を修了した者を対象とする方法について検討した。「産業界」については、個別の企業から回答を得る方法について検討を行った。

次節以降、（２）～（４）では、それぞれ、「大学院向け調査」「修了者向け調査」「企業向け調査」と表記し、調査手法等についての検討過程・考え方を示した。なお、調査実施の方法に加え、各調査対象に対する質問紙調査の内容についても検討内容・考え方等について記述した。

（２）「大学院向け調査」に関する検討過程・考え方

①調査対象・調査方法の検討

「大学院向け調査」の調査方法については、人文･社会科学系の大学院の教育内容に関する課題や、修了者の進路や就職に関する支援のあり方に関する課題認識等の把握を行うにあたり、「大学」を単位とした調査を実施するのではなく、研究科を単位とした調査を実施するとよいのではないかと考えた。

この点については、『平成 25 年度パイロット調査』でも検討を行っているが、修了者の進路の状況や、カリキュラム等教育内容については、専門分野によって状況が異なると考えられる。本事業・調査研究においては、これら専門分野の違い等についても把握することが目的のひとつであると考えられたことから、「大学」よりも細かな単位での情報を把握することが適当であると判断した。また、研究科よりも細かい単位で、例えば人文・社会科学系の大学院に所属する教員一人ひとりから、教育内容に関する課題認識等について回答を得るという方法も考えられたが、調査の規模が非常に大きくなることが予想されたこと、また、修了者の就職状況の現状認識等についてたずねるような設問に関しては、複数の方から同一・類似の回答が得られてしまうといったことも予想されたことなどから、本事業･調査研究では、各大学院の研究科を単位として回答してもらう方法を想定して検討を進めた。なお、このような方法による質問紙調査には、研究科の状況を代表して回答いただく必要があると考えられたことから、調査には、研究科長から回答を得ることを想定して調査項目等の検討を行った。

つづいて、調査の規模に関して、本事業・調査研究では、全ての人文・社会科学系の大学院研究科を対象とすることとした。この点については、理系等も含めて全ての大学研究科を対象として実施するという方法も考えられたが、今回の調査では、人文・社会科学系の大学院における状況の把握、ならびに、人文・社会科学系の大学院の中での課程・専門分野による差異を把握することを主たる目的と考え、理系等の大学院研究科は調査の対象外とした[3]。

調査対象について具体的には、学校基本調査の分類上、「人文科学（A,B）」「社会科学（C,D）」に該当し、平成 21 年度～平成 25 年度の間に 1 人以上修了者がいる大学院研究科を対象とした。なお、本事業･調査研究においては､夜間の過程や専門職学位課程については調査の対象外とした[4]。実際に、本事業・調査研究において調査対象としたのは、289 大学、研究科数は 621 である[5]（図表 2）。

図表 2　大学院向け調査の調査対象

	対象大学数	対象研究科数
対象数合計	289	621
（国立）	（28）	（62）
（公立）	（25）	（36）
（私立）	（236）	（523）

[3] 人文・社会科学系の大学院の中から対象を抽出して実施する方法も考えられたが、図表 1 に示すように、研究科数として全数を対象としても 600 件強であることから、実態を把握するという観点から、人文・社会科学系の研究科の全数を対象に実施する方法が適切であると判断した。

[4] これらの課程については、在学する学生の属性や、進路に関する意識等が異なり、また、大学院として人材輩出の考え方や教育内容等についても大きく異なると考えられ、結果の解釈等が難しくなることが予想されたことから、調査の対象外とすることにした。

[5] 参考として、公益財団法人文教協会「全国大学一覧」（平成 25 年度）によると、学生の募集を停止している大学及び放送大学を除くと、理系等の大学院も含め、全国で大学院を設置している大学数は 619、設置されている大学院研究科数は 1,732 となっている。

②調査項目の検討

大学院を対象とする調査について、『平成 25 年度パイロット調査』で検討・作成した調査票をふまえた上で、できるだけ回答しやすく、わかりやすい構成の調査票になるよう、調査項目について再度検討を行った[6]。

検討の結果、次のような調査項目を盛り込む調査票を作成した。（実際に調査で使用した調査票については、巻末に＜参考資料＞として掲載した）

＜大学院向け調査の主な調査項目＞

○回答の大学・研究科に関する基本情報（大学名・研究科名、学校基本調査上の分類、授与している学位の種類）
○輩出する人材像に関する考え方
○学生に身に付けさせようとしている知識・技能の内容
○学生の質や能力水準に関する認識
○カリキュラム編成や授業・研究指導の内容・方法に関する現状と課題認識
○修了者の就職状況
○大学院生に対する産業界の人材ニーズ把握の状況
○修了者の就職状況改善のために必要と考えること等

これらに関し、「学生に身に付けさせようとしている知識・技能の内容」については、研究科の修士・博士課程の違いや専門分野の違いにより、どのような考え方の違いがあるのかを把握することに加え、修了者向けの調査や企業向けの調査にも対応する調査項目を設定することで、調査対象間での認識の違い等についても把握することを目的として設定した[7]。

「カリキュラム編成や授業・研究指導の内容・方法に関する現状と課題認識」についても、研究科の専門分野や課程の差異を把握することに加え、修了者や企業が考えていることとの共通点や差異等を把握することを目的として設定した。

「輩出する人材像に関する考え方」と「修了者の就職状況」に関しては、回答結果を対比させることで、大学院として目標としている人材育成・輩出の考え方と、実際の就職等の状況との間に相違があるかどうかを把握することを目的として設定した。なお、「学生の質や能力水準に関する認識」に関しては、大学院に進学者の質や能力の水準をどのように考えているのかをたずねることで、大学院における人材の育成・輩出等に関する課題等を把握することを試みた。

さらに、「大学院生に対する産業界の人材ニーズ把握の状況」については、産業界との交流等の状況を把握することを目的に設定した。「修了者の就職状況改善のために必要と考えること等」については、自由記述による回答を得ることで、人文・社会科学系の大学院修了者の就職等に関する課題等を把握することを試みた。

---

6 後述する「修了者向け調査」「企業向け調査」についても、同様の考え方により調査項目について再度検討を行った。

7 なお、能力等に関する項目・選択肢については、財団法人未来工学研究所「博士課程（後期）の学生、修了者等の進路に関する意識等についての実態調査報告書」（2009 年 3 月）に掲載されている調査票で設定されている項目や、経済産業省が定めている社会人基礎力に関する項目、または、『平成 25 年度パイロット調査』で実施した企業に対するヒアリング調査で得られた情報等を基にして設定した。

（３）「修了者向け調査」に関する検討過程・考え方

①調査対象・調査方法の検討

修了者を対象とする調査については、『平成 25 年度パイロット調査』において、修了者にアプローチするための方法として、主に、「企業や関連機関に所属する大学院修了者を対象に調査する方法」、「大学・研究科等が保有していると想定される修了者に関する名簿等を活用する方法」、「大学以外で大学院修了者の住所等を保有すると想定される団体等を通じて調査する方法」、「インターネットリサーチ会社等が保有するモニターを活用する方法」の 4 つの方法に関して検討を行っている。

本事業・調査研究では、これらのうち、「大学・研究科等が保有していると想定される修了者に関する名簿等を活用する方法」を採択することとし、各大学に対して、修了者のメールアドレスに対して調査の案内・依頼を行ってもらい、対象となる修了者からは、WEB 上に設置する調査回答ページから回答を得る方法について検討を行った。

このことについて、仮に「企業や関連機関に所属する大学院修了者に調査する方法」により調査を実施した場合には、調査実施の時点で無職の者や就職・進学準備中の者が調査の対象から外れてしまうことになり、「人文・社会科学系の大学院修了者について就職率が低いこと」等を背景として実施する本事業・調査研究において、これらの者が調査の対象外となってしまうのは適当ではないと考えられた。また、「大学以外で大学院修了者の住所等を保有すると想定される団体等を通じて調査する方法」については、実際にそれらの団体等から調査協力を得られるかが不確かであり、具体的な検討を進めることが難しかった。「インターネットリサーチ会社等が保有するモニターを活用する方法」については、『平成 25 年度パイロット調査』で一部実施を行っているが、回収可能なサンプル数に限界等があることが考えられたことから、今年度の調査では別の方法について検討を行うこととした。

最終的に「メールアドレスに対して調査の案内・依頼を行う」という方法を採択するにあたっては、本事業・調査研究に先行して文部科学省科学技術・学術政策研究所が今年度実施していた、「第 1 回『日本博士人材追跡調査』」を参考にした。この調査は、人文・社会科学系に限らず、博士課程を設置する全ての大学で平成 24 年度（2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日）に博士課程を修了した者全員を対象に実施されたものであり、大学から対象者にメール・電話等により回答を依頼し、対象者は調査回答用 WEB サイトにアクセスの上、回答を得るという方法がとられている[8]。本事業・調査研究でも、「第 1 回『日本博士人材追跡調査』」と類似の方法をとることにより、修士課程・博士課程の修了者から、定量的な分析が行えるような調査データを収集することを目指した。

なお、「修了者のメールアドレスに対して調査の案内・依頼を行う」という方法については、『平成 25 年度パイロット調査』で実施したヒアリング調査の結果から、必ずしも全ての大学が修了者のメールアドレスを把握しているわけではないという課題があることがあらかじめ明らかになっていた。この点について、「第 1 回『日本博士人材追跡調査』」では、電子メールアドレスが不明の場合には大学から電話・郵送・研究科を通じた直接依頼など、そのほかの方法により可能な限り全員に回答を依頼するという方法がとられている[9]。また、できるだけ回答者を増やす目的から、学会や経済団体からも、博士課程修了者に調査依頼がなされている。

---

[8] 文部科学省科学技術・学術政策研究所・三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング株式会社「第 1 回日本博士人材追跡調査調査結果（速報版）」（平成 27 年 3 月 9 日）。

[9] 文部科学省科学技術・学術政策研究所「第 1 回『日本博士人材追跡調査』実施要綱（2014 年 11 月 10 日修正）」

できるだけ多くの修了者から回答を得るためには、本事業・調査研究でもメールアドレスだけでなく、電話や郵送等による方法での依頼を行うことが望ましいと考えられたが、協力いただく大学・研究科の負担が大きくなることが想定されたことから、基本的にはメールアドレスに対してのみ調査の案内・依頼を行っていただくようにした[10]。

他方で、本事業・調査研究では、多くの者から回答が得られるよう、調査依頼を行う修了者について複数年度の修了者を対象とすることとした。具体的には、「大学院向け調査」の対象とした、289 大学、621 の研究科を平成 21 年度、平成 23 年度、平成 25 年度にそれぞれ修了した者を対象とすることにした[11]。上述の通り、文部科学省科学技術・学術政策研究所が実施した「第 1 回『日本博士人材追跡調査』」では平成 24 年度の修了者全員を対象としていることから、重複を避けるため、平成 24 年度の修了者は調査の対象外とした。

なお、博士課程の修了者に関しては、「第 1 回『日本博士人材追跡調査』」と同様、満期退学者についても調査の対象に含めることとした。このほか、平成 21 年度・平成 23 年度・平成 25 年度に大学院を修了し、調査実施時点で他の大学院等に在学している者もいると想定されたが、これらの者に関しては、今回の調査の対象外とした。

②調査項目の検討

修了者向けの調査には、次のような項目を盛り込むこととした。（実際に調査で使用した調査票については、巻末に＜参考資料＞として掲載した）

＜修了者向け調査の主な調査項目＞

○基本属性（性別、年齢、大学院入学前の社会人経験の有無）
○現在の就業等の状況（働いている場合には、所属先・職種・雇用形態、仕事の職務内容と最終的に修了した大学院の専門分野との関連性）
○修了した大学院に関する情報（設置主体・課程・専門分野）
○進学等の理由・動機、博士課程に進学しなかった理由
○必要とされる能力等に関する認識（仕事をする上で特に強く求められていると考える能力等、大学院教育を通じて身に付いたと考える能力等）
○カリキュラム編成や授業・研究指導の内容・方法に関する認識（修了した大学院・研究科で実施されていたこと、もっと充実していてほしかったと考えること）
○研究・教育内容や修了後の進路・就職に関する満足度
○人文・社会科学系の大学院修了者の就職状況改善のために必要と考えること等

[10] 調査の実施方法に関しては、紙媒体の調査票を対象となる修了者の人数分用意し、各大学が保有していると想定される修了者の自宅等の住所に対して調査票を転送してもらうという方法も検討したが、調査協力いただける修了者の数が明確になっていない状況下では調査票の作成や転送の際に非効率的な部分が大きくなってしまうことが予想されたことから、今回の調査では採択しなかった。

[11] 平成 21 年度より過去の修了者については、メールアドレスが把握されていない可能性が高いことが予想され、把握している場合であっても、連絡がつかない可能性がより高いことが予想されたこと、また、修了時期を幅広にとることで、大学院で受けた教育内容の状況やそれらに対する評価等が異なることで調査結果の解釈が難しくなる可能性があること等をふまえ、調査の対象には含めなかった。なお、本事業・調査研究では、留学生の場合についても調査の対象としたが、WEB 上に設置する調査回等ページは日本語のみとしている。

調査項目に関して、「現在の就業等の状況」については、修了者の進路の状況を把握することを目的として設定した。この設問では、現在働いている人がどの程度いるのかを把握することに加え、「求職中」や「資格取得や進学のために準備している」、あるいは「その他」と回答する人がどの程度いるのかについても情報を得ることを目的とした。また、現在働いている場合には、研究職として働いているのか否かや、正規雇用として働いているのか非正規雇用として働いているのか等についても情報を得ることとした。

このほか、修了者のキャリアパスについてより理解を深めることを目的として、修了後の現在の状況だけでなく、「大学院に進学した理由・動機」や、修士課程修了者に対しては「博士課程に進学しなかった理由」についてもたずねることとした。

「必要とされる能力等に関する認識」については、大学院で身に付いたことと、仕事をするうえで特に強く求められていると考えることとの対比により、どのような点についてギャップが大きくなっているのかの把握を行うことを目的として設定した。また、「カリキュラム編成や授業・研究指導の内容・方法に関する認識」については、大学院で実施・提供されていたことと、もっと充実していてほしかったと考えることをあわせてたずねることにより、今後の大学院教育に求められること等を明らかにすることを試みた。なお、これらの点については、大学院研究科からの回答や企業からの回答とも対比させることにより、実施されていることと求められていることについて、どの点は合致しており、どの点についての齟齬が大きいのかについての状況把握を行うことも想定して設定した。

「研究・教育内容や修了後の進路・就職に関する満足度」については、大学院修了後の現在の状況や、大学院在学中の環境等に関する評価について、4 件法によりたずねる項目を設定した。「人文・社会科学系の大学院修了者の就職状況改善のために必要と考えること等」については、自由記述により回答を得ることとした。

なお、基本属性に関することとして、性別・年齢のほか、人文・社会科学系の大学院には社会人として仕事を持ったまま在学する者も比較的多くいるのではないかと想定されたことから、これらの場合分けを行うことが可能となるよう、社会人としての経験の有無についてもたずねる項目を設定した。このほか、修了した大学院・研究科に関しては、設置主体・課程のほか、専門分野について、大きく「人文科学関係」「社会科学関係」の別にたずねることとした[12]。

[12] 専門分野についてより細かな分類によりたずねることも検討したが、自身の専攻が厳密にどの分類に該当するのかが判断しづらい場合もあるのではないかと想定されたことや、また、細かくたずねることで、回答者個人が特定可能となる可能性があったことから、「人文科学関係」「社会科学関係」の大きく 2 分類でたずねることとした。なお、回答者個人が特定可能となる可能性があるという同様の理由で、修了した年度や、在学期間、学位の取得状況等についての情報をたずねる設問も、今回の調査では設定しなかった。

（４）「企業向け調査」に関する検討過程・考え方

①調査対象・調査方法の検討

企業を対象とする調査に関しては、人文･社会科学系の大学院修了者を採用していない企業も含め、人文・社会科学系の大学院修了者についての採用状況の実態や、大学院での教育内容に関して改善が必要と考えられていること等の把握を行うため、広く全国の企業を対象にした調査を実施について検討を行った。ただし、全国全ての企業に対して調査を実施することは困難であることから、企業を抽出する方法について検討した。

具体的な企業の抽出の方法に関しては、できるだけ偏りが少なくなるように調査対象を定めることが重要であると考えられたが、他方で、学生の採用活動等を近年全く行っていない企業が調査対象に多く含まれると、そもそも調査に回答してもらえない可能性が高くなることも想定された。

そこで、本事業・調査研究の実施にあたっては、企業として一定程度の規模があり、採用活動を定期的に行っている可能性が高いと想定される、東証の一部上場企業を調査対象とすることにした。なお、具体的な調査対象については、東洋経済新報社「会社四季報」の 2014 年 4 集に掲載されている 1,829 社とした。

②調査項目の検討

企業向けの調査には、次のような項目を盛り込むこととした。（実際に調査で使用した調査票については、巻末に＜参考資料＞として掲載した）

＜企業向け調査の主な調査項目[13]＞

○企業に関する基本情報（業種・従業員数・資本金の規模・設立年）
○過去 5 年間の新規卒業者の採用状況
○大学院修了者の処遇の状況（初任給や昇給制度、専門性等を考慮した配属の有無）
○大学院修了者の能力・資質全般に関する採用後の印象
○大学院修了者に関する今後の採用意向
○文系の大学院生に対して特に高い水準で期待する知識・技能等
○文系の大学院において今後実施・充実したほうがよいと思われること
○文系の大学院生の就職状況の改善のために必要と考えること等

企業向け調査に関しては、『平成 25 年度パイロット調査』で検討した調査票をベースとし、人文・社会科学系の大学院生の採用実績がある企業と採用実績がない企業との両方が回答しうる設問内容となるよう留意し、大学院修了者の採用の実績の有無や、人文・社会科学系の大学院生への評価、大学院教育への要望等を把握する内容となるように検討を行った。

企業に関する基本情報としては、「業種」、「従業員数」、「資本金」、「設立年」についてたずねることとした。これらについては、回答が得られた企業の基本情報を把握するという目的のほか、採用実績などに関して、企業規模別の違い等を把握する上で活用できるのではないかと考えた。

[13] 企業向けの調査では、回答のしやすさを考慮して、「人文科学・社会科学」という用語は用いず、「文系」という用語を用いることとした。また、他の学生との対比する場合には、「理系」という用語も用いている。

「過去 5 年間の新規卒業者の採用状況」については、学部の学生や理系の学生と対比させる形で、文系の修士課程・博士課程の学生の採用実績があるか等を把握できるような設問となるように検討を行った。また、文系の大学院修了者の採用実績がない場合には、なぜ採用実績がないのかについてもたずねることで、人文・社会科学系の大学院生の就職等が進まない理由等の把握を試みた。さらに、採用実績の有無に関わらず、今後の採用意向についてもたずねるようにした。

「大学院修了者の処遇の状況」に関しては、大学院修了者と学卒者との間の入社後の処遇の違いを把握することで、大学院経験を有することが評価されているのかについての状況把握を行うことを目的として設定した。

このほか、「文系の大学院生に対して特に高い水準で期待する知識・技能等」と「文系の大学院において今後実施・充実したほうがよいと思われること」については、大学院向け調査ならびに修了者向け調査の結果と比較することを目的として設定した。なお、「文系の大学院生の就職状況の改善のために必要と考えること等」については、「大学院向け調査」や「修了者向け調査」と同様、自由記述により回答を得ることとした。

３．調査の実施

（１）調査の実施・依頼の方法

「大学院」「修了者」「企業」を対象とした調査について、それぞれ、具体的には次のような方法にて実施した。

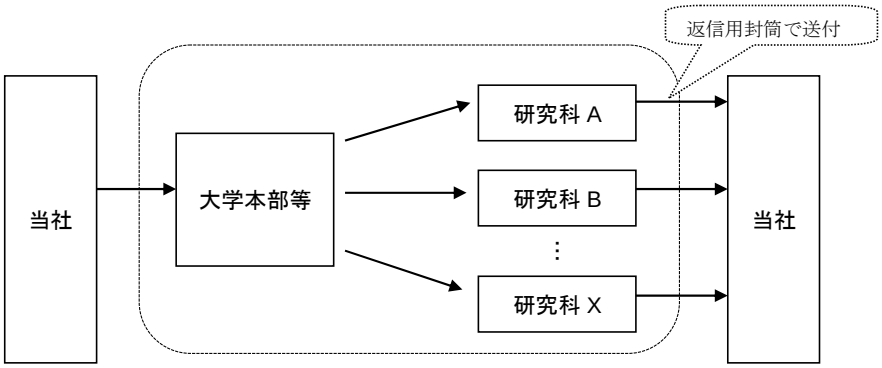
①大学院向け調査

学校基本調査のデータに基づき抽出した、「人文科学」「社会科学」に該当する研究科を有する大学（289 大学）に対して、各大学で調査対象となる「人文科学」「社会科学」に該当する研究科数に対応する部数の紙媒体の調査票と返信用封筒を送付した。

調査票・返信用封筒は対象となる研究科の研究科長に渡していただくよう依頼をし、回答された調査票は研究科ごとに返送できるようにした。あわせて、各大学で取りまとめた上で返送することを妨げるものではない旨案内をした[14]。

なお、大学院向けの調査の実施にあたっては、オンライン上で回答を入力してもらう方法も検討したが、調査票の内容により、各大学・研究科で適切な回答者が異なる（例えば、研究科長が回答したほうが答えやすい設問と、進路情報等を把握している事務局等のほうが答えやすい設問などがある）こと等が想定されたことから、回答場所や回答時間等の制約が少ない分、紙媒体での調査票で実施する方が、より回答が得られやすいのではないかと考えた。

図表３　大学院向け調査の調査実施方法



[14] 『平成 25 年度パイロット調査』でも検討しているように、財団法人大学基準協会「専門分野別評価システムの構築―学位の質保証からみた専門分野別評価のあるべき方向性について―」（平成 19 年度文部科学省大学評価研究委託事業）で実施されている調査では、研究科宛に調査票を郵送する方法がとられているが、大学本部等に依頼をした上で実施する方法と比べ、回答率が下がる可能性があったこと、また、今回の調査では修了者調査の実施についてもあわせて依頼を行うこともふまえ、各大学に調査票をまとめて送付する方法をとった。

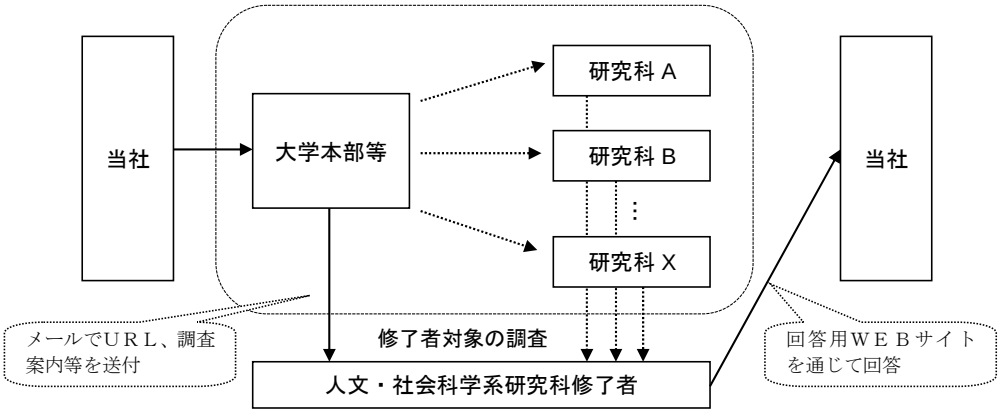
②修了者向け調査

上記の大学院向け調査の実施とあわせて、調査対象となる研究科を平成 21 年度、平成 23 年度、平成 25 年度に修了した者に対して、大学から、調査回答用の WEB サイトの URL を記載した電子メールを送付していただくよう依頼した。

なお、各大学に依頼を行う際には、調査対象者に対するメール文案についても送付した。調査対象者については、専門職学位課程の場合や現在別の大学院等に在学している場合は対象外であることとした。また、単位取得退学者は調査の対象に含むものとするが、博士課程に在籍せずに学位を取得した者（いわゆる論文博士）や、本調査対象の該当年度以外の年に単位取得退学となり、その後本調査対象の年度中に論文を提出して博士学位を取得した場合は対象外とすることなどについても明記した。

このほか、各大学に対しては、a）調査対象者の全数（平成 21 年度、平成 23 年度、平成 25 年度に調査対象の研究科（修士・博士課程）を修了した人数）、及び、b）電子メールで回答依頼の送付ができた人数、の 2 点について、報告いただくことについても、依頼を行った。

図表 4　修了者向け調査の調査実施方法



③企業向け調査

東洋経済新報社「会社四季報」の 2014 年 4 集に掲載されている東証一部上場企業 1,829 社に対して紙媒体の調査票ならびに返信用封筒を送付した。回答済みの調査票は、返信用封筒により返送してもらった。

送付先は「企業名＋人事部採用ご担当者様」とし、対象となる企業が持株会社の場合には、傘下の企業のうち、学生の採用数が最も多い企業について回答していただくよう案内をした。

なお、企業を対象とする調査についても、調査票の質問の内容によって、企業の中で適切な回答者が異なる（例えば、人事担当が回答したほうが答えやすい設問と、代表者のほうが答えやすい設問などがある）こと等が想定されたことから、オンライン上で回答を入力してもらう方法ではなく、紙媒体の調査票により実施することが適当であると判断した。

（２）実施期間・調査票の回収

①調査実施時期・期間

「大学院」「修了者」「企業」を対象としたそれぞれの調査について、いずれの調査票も平成 27 年 1 月 30 日を発送日とした。

また、「大学院向け調査」は、平成 27 年 2 月 20 日を締め切り日に設定した。「修了者向け調査」は、平成 27 年 2 月 18 日までを各大学からの案内の期限とし、調査自体は、平成 27 年 2 月 28 日を期限とした。なお、修了者対象の調査に関して、回答用 WEB ページは、平成 27 年 1 月 30 日から平成 27 年 2 月 28 日の 15 時まで、約 1 か月間開設した。「企業向け調査」は、平成 27 年 2 月 18 日を締め切り日に設定した。

②調査票の回収状況

調査の結果、それぞれ、回答が得られた件数、ならびに、回収率は、次のようになっている[15]。

＜各調査の調査票回収状況＞

大学院向け調査	・回答が得られた研究科数は 445 であった。 ・送付した調査対象の研究科数 621 に対する回収率は 71.7%であった。
修了者向け調査	・2,226 人から回答が得られた。ただし、このうち 339 人は現在も大学院等に在学中であったことから、残りの 1,887 人を集計の対象とした。
企業向け調査	・260 社から回答が得られた。 ・送付数に対する回収率は 14.2%であった。

なお、修了者向け調査の実施に関して、調査依頼を行った 289 大学のうち、158 大学から調査の依頼状況について報告があり、その結果、調査対象数の全数（平成 21 年度、平成 23 年度、平成 25 年度に調査対象の研究科（修士・博士課程）を修了した人数）については 20,318 人、調査依頼が可能であった人数としては 9,328 人という状況であったことが把握された[16]。

これらのことから、本事業・調査研究で採択した方法では、大学側がメールアドレス等を把握していない等の理由により調査依頼ができない人数も多くなってしまうものの、人文・社会科学系の大学院修了者の 9,000 人以上を対象にして調査依頼が可能であるということ、また、依頼を行った者のうち、2 割以上の者から回答が得られるということも明らかにすることができた[17]。

---

15 3 月以降も何通か返信があったが、これらについては調査対象ならびに回答件数には含めていない。

16 依頼が可能であった 9,328 人の中には、大学側の判断で、一部郵便等により対象者に依頼を行っていただいた人数が含まれている。

17 調査依頼等は行ったが、対象とした人数や依頼できた人数等について報告をいただけなかった大学・研究科もあるのではないかと推察される。また、「依頼できた人数」として報告いただいた人数は、あくまで大学側からメールが「送付できた」人数であることから、実際にはメールアドレスの変更等により、案内等が届かなかった者も一定程度いるのではないかと推察される。

（３）調査回答者に関する基本情報

各調査の回答者の基本属性は次のようになっている。

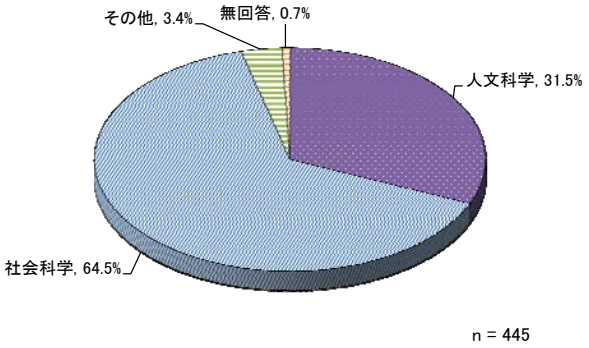
大学院研究科の分類に関しては、「人文科学」よりも「社会科学」のほうが多くなっている（図表 5）が、修了者の回答としても専門分野について「社会科学関係」と回答した者のほうが多く（図表 12）、これらはある程度調査対象母数の状況を反映したものであると考えられる。

修了者の属性に関しては、男性のほうが若干多く（図表 7）、20 歳代・30 歳代の者が 7 割以上を占めている（図表 8）。社会人経験については、「ない」との回答者のほうが多いが、4 割以上は社会人経験が「ある」者である（図表 9）。また、博士課程修了者と比べて修士課程修了者からの回答が多く（図表 11）、人数としては、修士課程修了者が 1,333 人、博士課程修了者が 533 人、5 年一貫博士課程が 21 人であった。

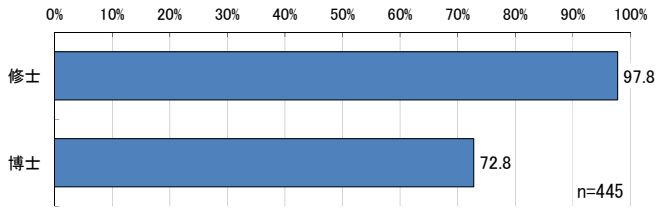
企業に関しては、業種として「製造業」が多くなっている（図表 13）。従業員数や資本金の規模、設立年に関しては、多様な企業から回答が得られていることがわかる（図表 14、図表 15、図表 16）。

①大学院向け調査

図表 5　学校基本調査上の分類

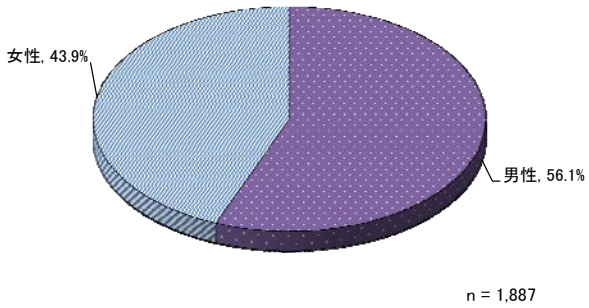


図表 6　授与する学位の種類（複数回答）

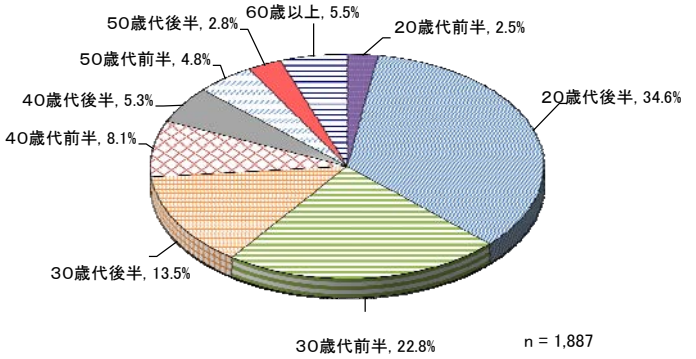


②修了者向け調査

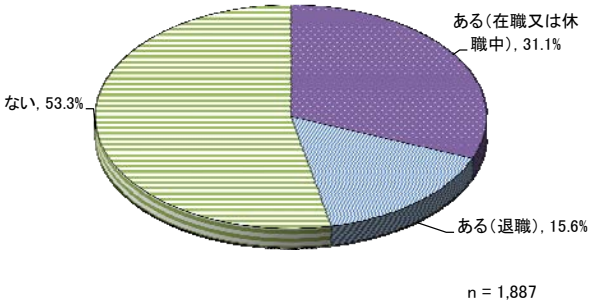
図表 7　性別



図表 8　年齢



図表 9　大学院入学前の社会人としての経験の有無



図表 10　大学院の設置主体

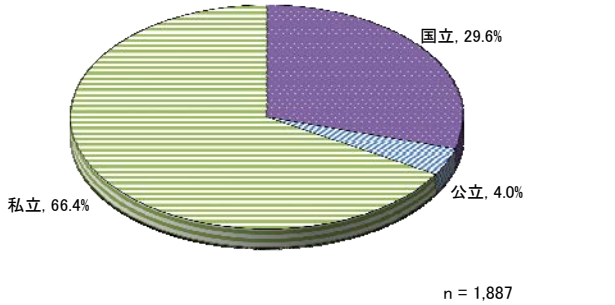
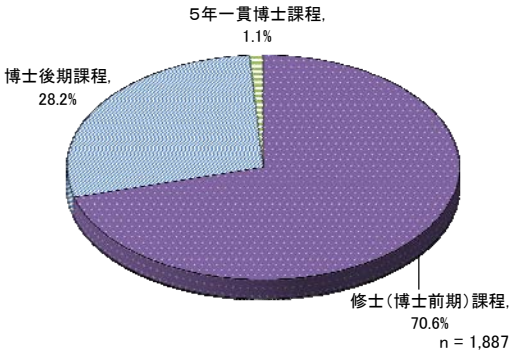
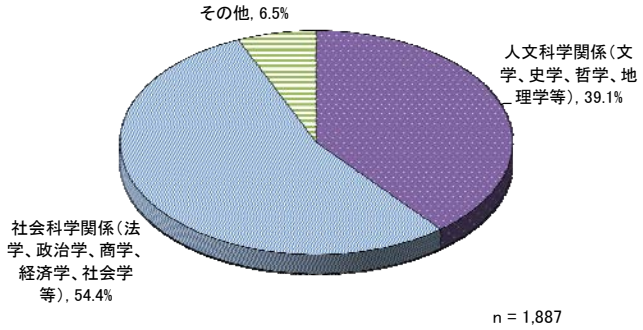


図 11 表　大学院の課程

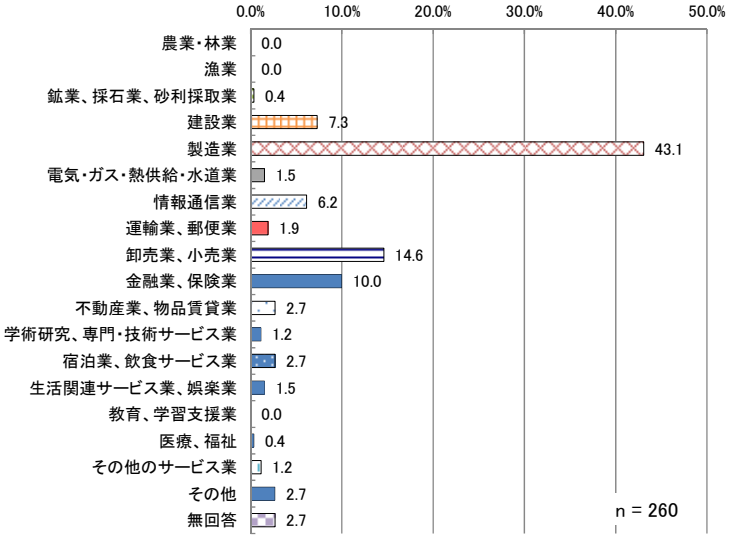


図表 12　修了した大学院の研究科・専攻が扱う学問分野

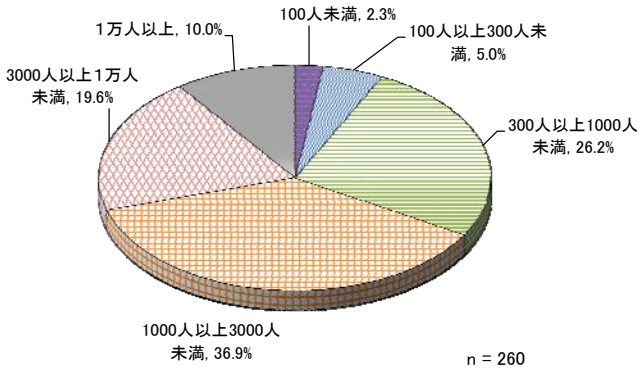


③企業向け調査

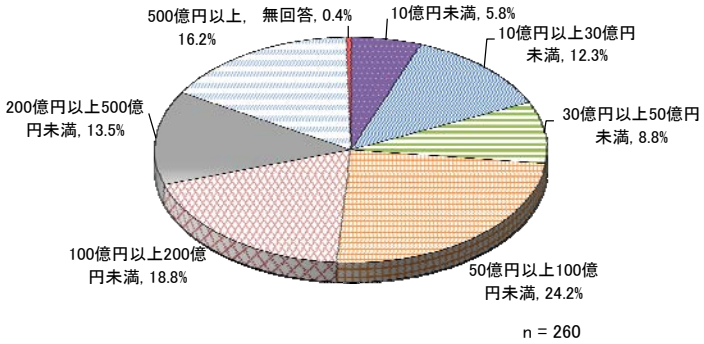
図表 13　業種



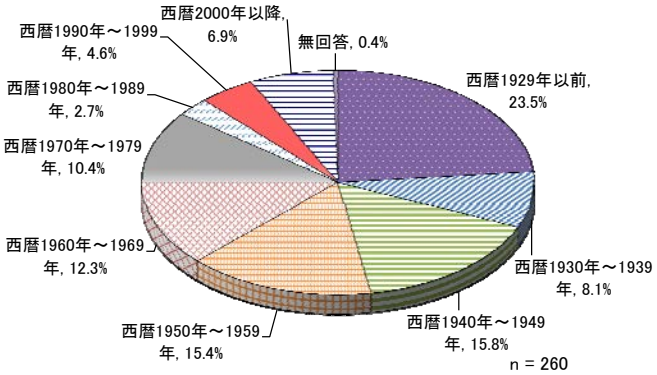
図表 14　従業員数



図表 15　資本金の規模



図表 16　設立年



（４）集計・分析の枠組み・内容

上述のとおり、本事業・調査研究では、「大学院」「修了者」「企業」のそれぞれを対象とした調査を実施した。調査の結果得られたデータを用いて、本報告書の冒頭で「本事業・調査研究において主に明らかにすべきと考える点」として示した内容に対応する形で、主に次の（A）（B）に関する集計・分析を行った。

なお、調査結果については、全体的な現状・傾向を把握するのみならず、課程・専門分野による差異等を明らかにすることも重要であることから、それぞれの点に関して、修士課程修了者と博士課程修了者の別に集計を行い、また、専門分野に関しては、「人文科学」と「社会科学」の分類での比較を行うことで、これらの間の共通点や差異等を明らかにすることも試みている。

このほか、「修了者向け調査」の結果について、課程・専門分野別の集計値に加え、「性別」による集計値や、大学の「設置主体別」の集計、「社会人経験の有無」別の集計について、巻末に＜参考資料＞として掲載した。

（A）人文・社会科学系の大学院修了者の進路・就職等の状況について、大学・修了者・産業界のそれぞれから情報を把握し、多角的な視点から現状を明らかにするとともに、課題点等を明確にするための分析

(A-①)修了者の進路・キャリアパスの実態に関する分析

修了者向け調査のデータを用いて、大学院修了後の状況等の把握を行い、人文・社会科学系の大学院修了者のキャリアパスの実態等を明らかにする。

なお、大学院に進学した理由・動機について把握するとともに、修士課程修了者については、博士課程への進学をどのように考えていたのか等についての状況把握も行う。

(A-②)企業における大学院修了者の採用状況に関する分析

企業向け調査のデータを用いて、人文・社会科学系（文系）の大学院修了者の就職・採用状況を把握するとともに、処遇の状況等がどのようになっているのかについて状況把握を行う。

これらの状況の把握にあたっては、文系の大学院修了者に関して、学卒者や理系の大学院修了者との間でどのような違いがあるのか等にも着目する。また、企業規模等によって、採用状況や考え方等に違いがあるか等についての分析も試みる。

(A-③)大学院の各研究科での人材育成・輩出の考え方等に関する分析

大学院向け調査のデータを用いて、人文・社会科学系の大学院研究科から、修了者がどのような進路に進んでいるのかの情報を把握するとともに、各研究科において、人材育成・輩出についてどのような考えを持っているのか、また、企業からの人材のニーズをどのように把握しているのか等について実態の把握を行う。

（B）大学・修了者・産業界のそれぞれの立場から、人文・社会科学系の大学院の教育内容等のどのような点を見直し・改善する必要があると考えられているのかを把握し、三者に共通して見られる点や差異等を明らかにするための分析

(B-①)仕事等で求められる能力と大学院で身に付けられる能力との関係性に関する分析

人文・社会科学系の大学院修了者が企業等から高く評価されないのは、企業等が求めている能力等と、修了者が大学院教育を通じて身に付けていることの間にミスマッチがあるのではないかという考えに基づき、この点について分析を行う。

この点については、修了者自身が「仕事をする上で特に強く求められていると考える能力等」「大学院教育を通じて身に付いたと考える能力等」との対比のほか、企業から「入社を希望する文系の大学院生に特に高い水準で期待すること」の内容や大学院において「身に付けさせることを重視している知識・技能」の内容との比較により分析を行う。

(B-②)大学院で実施されていることと今後充実が求められていることとの関係性に関する分析

大学院のカリキュラムや授業・研究指導の内容・方法等に関し、修了者が大学で実施・充実していてほしかったと考えることと、実際に大学院で提供できていることとの間にギャップがあるのであれば、その点が課題になりうるのではないかと考え、そのような状況を把握するための分析を行う。

この点については、修了者が「実施・提供されていた」と回答した内容と、「もっと充実していてほしかったと考えること」の内容との対比を行う。また、企業の立場からも、「今後文系の大学員において実施・充実したほうがよいと思われること」を把握し、大学院に関しても、それぞれ「実施・提供していること」や「今後実施・充実が必要と考えること」の内容について把握し、多角的に検討を行う。

(B-③)修了者の満足度と大学院の教育内容等の関係性に関する分析

修了者向け調査のデータを用いて、「所属していた研究科・専攻の教員の質に関する満足度」「所属していた研究科・専攻のカリキュラムの内容に関する満足度」「研究テーマと指導教員の専門性に関する満足度」「専攻の規模や学生数に関する満足度」のそれぞれについて把握する。

また、これらの満足度の違いにより、大学院で「実施・提供されていたこと」や「もっと充実していてほしかったと考えること」との回答について、どのような違いがあるのかに関して分析を行う。

(B-④)就職状況等の改善のために必要と考えられることに関する分析

人文・社会科学系の大学院修了者の進路・就職状況等の改善のためにどのようなことが必要であるかについて、自由記述による回答を基に、修了者本人のみならず、大学院側、企業側からの回答について分析する。

４．修了者の進路・就職等の状況に関する分析

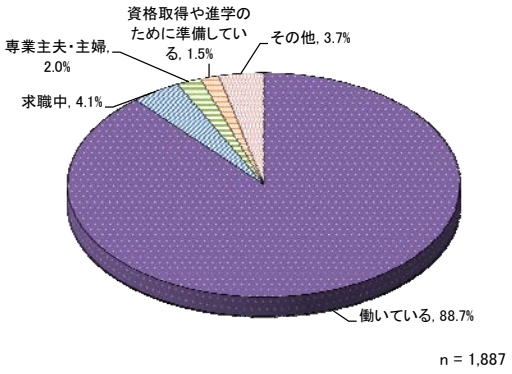
（１）修了者の進路・キャリアパスの実態に関する分析

①修了者の現在の状況、就職の状況

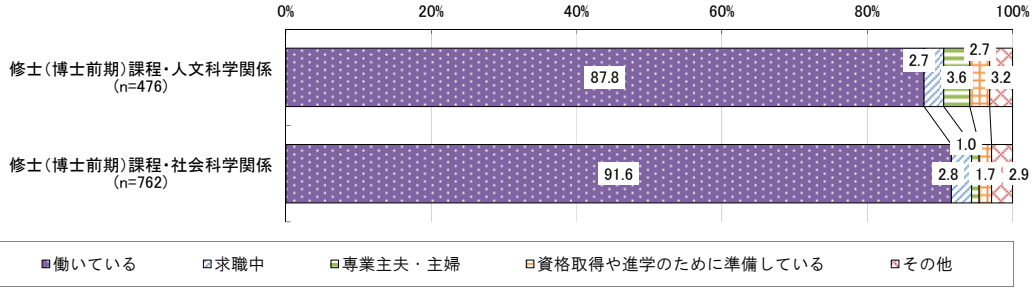
「修了者向け調査」の集計対象とした 1,887 人について、現在の状況として「働いている」との回答は 88.7%であった（図表 17）。それ以外の者については、「求職中」が 4.1%、「その他」が 3.7%、「専業主夫・主婦」が 2.0%、「資格取得や進学のために準備している」が 1.5%となっている。

これら回答者の現在の状況について、修了した大学院の課程・専門分野別に見ると（図表 18、図表 19）、「博士後期課程・人文科学関係」の場合には、「求職中」が 12.0%となっており、他の場合と比べて若干高くなっている。なお、「博士後期課程・人文科学関係」の場合には、「その他」の回答割合も若干高くなっていることがわかる。

図表 17　現在の状況

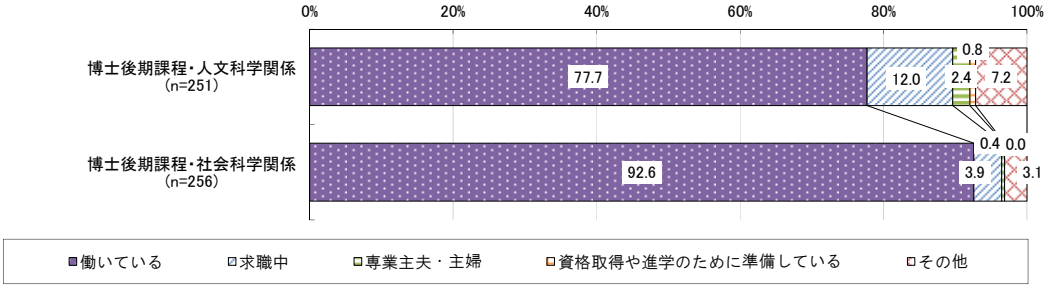


図表 18　修士（博士前期）課程・専門分野別、現在の状況



※課程について「5 年一貫博士課程」ならびに、専門分野について「その他」の者については、度数が少ないことから、ここでの集計では対象外とした。

図表 19　博士後期課程・専門分野別、現在の状況



※課程について「5 年一貫博士課程」ならびに、専門分野について「その他」の者については、度数が少ないことから、ここでの集計では対象外とした。

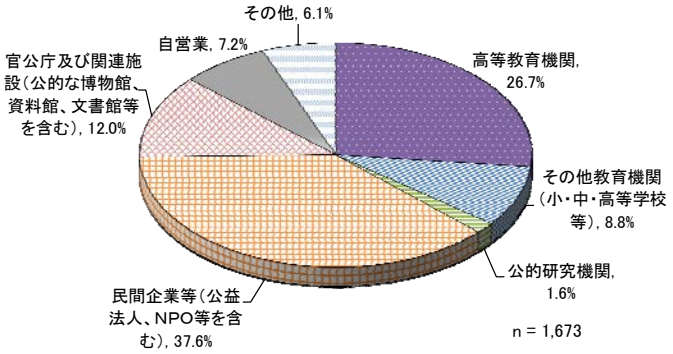
②主たる収入を得ている仕事の所属先

現在「働いている」と回答した者について、主たる収入を得ている仕事の所属先について見ると（図表 20）、「民間企業等」が 37.6%と最も多くなっている。次いで「高等教育機関」が 26.7%、「官公庁および関連施設」が 12.0%、「その他教育機関」が 8.8%となっている。

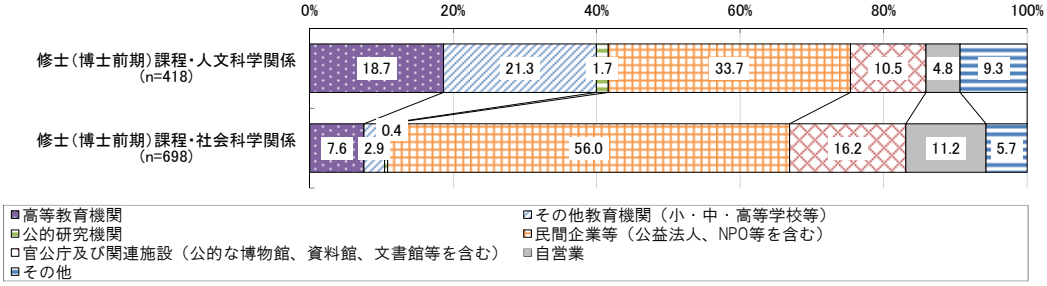
修了した大学院の課程・専門分野別に見ると（図表 21、図表 22）、「修士（博士前期）課程」修了者の場合には「民間企業等」の割合が最も高く、「博士後期課程」修了者の場合には、「高等教育機関」の回答割合が 6 割以上と高いことが確認できる。

また、「修士（博士前期）課程」、「博士後期課程」修了者ともに、専門分野が「人文科学関係」の場合には、「社会科学関係」に比べて、「その他教育機関」の割合が高くなっている。

図表 20　主たる収入を得ている仕事の所属先

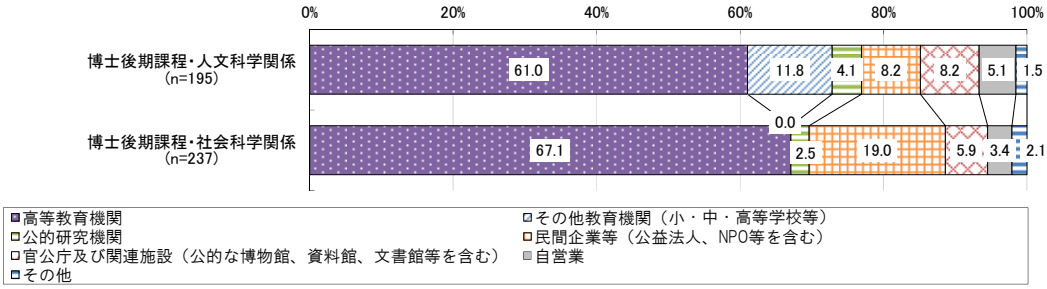


図表 21　修士（博士前期）課程・専門分野別、主たる収入を得ている仕事の所属先



※課程について「5 年一貫博士課程」ならびに、専門分野について「その他」の者については、度数が少ないことから、ここでの集計では対象外とした。

図表 22　博士後期課程・専門分野別、主たる収入を得ている仕事の所属先



※課程について「5 年一貫博士課程」ならびに、専門分野について「その他」の者については、度数が少ないことから、ここでの集計では対象外とした。

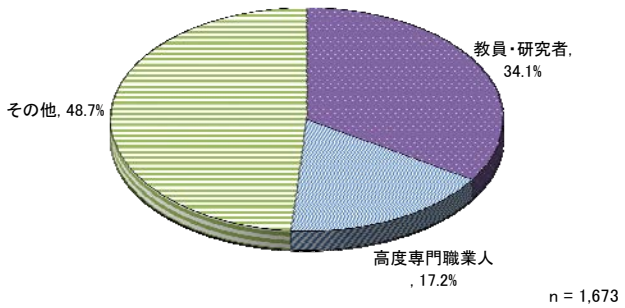
③主たる収入を得ている仕事の職種

現在「働いている」と回答した者について、主たる収入を得ている仕事の職種について見ると（図表 23)、「教員・研究者」が 34.1%、「高度専門職業人」が 17.2%、「その他」が 48.7%であった。

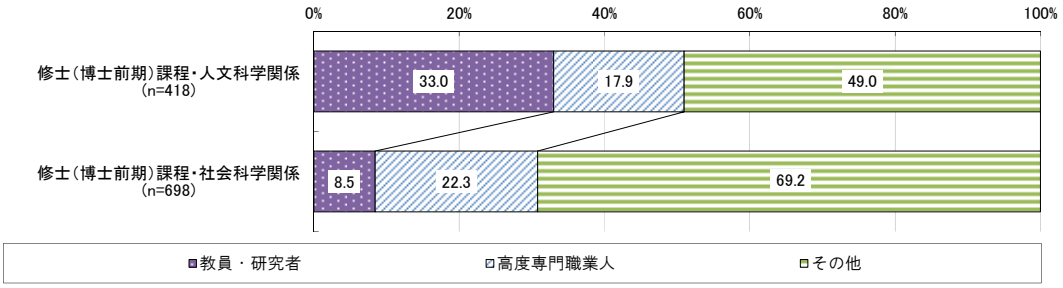
修了した大学院の課程・専門分野別に見ると（図表 24、図表 25)、「博士後期課程」修了者の場合には、「人文科学関係」「社会科学関係」ともに、「教員・研究者」である割合が 7 割以上となっている。また、「修士課程（博士前期課程)」修了者のうち、専門分野が「人文科学関係」の者について、「教員・研究者」の割合は 3 割以上と比較的高くなっている[18]。

なお、「修士（博士前期）課程」修了者に関しては、「人文科学関係」「社会科学関係」ともに約 2 割は「高度専門職業人」であると回答しているが、「人文科学関係」では約 5 割が、「社会科学関係」では約 7 割が「その他」との回答となっている。

図表 23　主たる収入を得ている仕事の職種

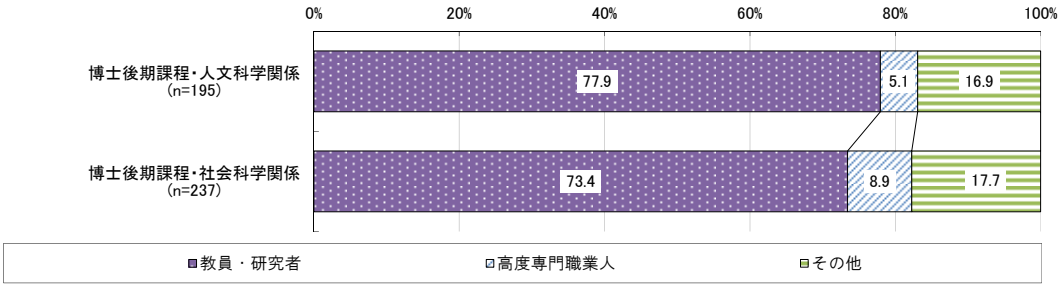


図表 24　修士（博士前期）課程・専門分野別、主たる収入を得ている仕事の職種



※課程について「5 年一貫博士課程」ならびに、専門分野について「その他」の者については、度数が少ないことから、ここでの集計では対象外とした。

図表 25　博士後期課程・専門分野別、主たる収入を得ている仕事の職種



※課程について「5 年一貫博士課程」ならびに、専門分野について「その他」の者については、度数が少ないことから、ここでの集計では対象外とした。

18 「主たる収入を得ている仕事の所属先」の回答結果もあわせて見ると、「教員・研究者」と回答した者のうち半数程度は小・中・高等学校の教員なのではないかと推察される。

④主たる収入を得ている仕事の雇用形態

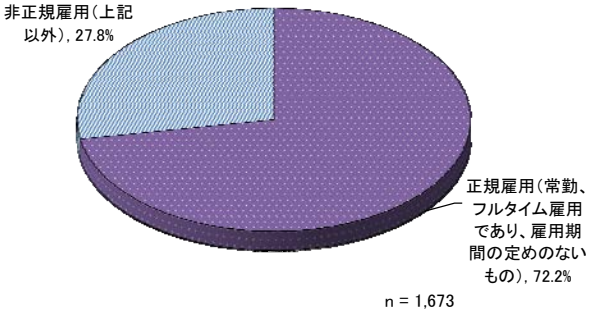
現在「働いている」と回答した者について、主たる収入を得ている仕事の雇用形態について見ると（図表 26）、「正規雇用」が 72.2%、「非正規雇用」が 27.8%となっている。

修了した大学院の課程・専門分野別に見ると（図表 27、図表 28）、「非正規雇用」である者の割合について、「修士（博士前期）課程」よりも「博士後期課程」で高く、専門分野では「社会科学関係」よりも「人文科学関係」で高くなっている。特に、「博士後期課程・人文科学関係」ではその割合は 53.8%となっており、働いている者のうち半数以上が非正規雇用という状況にある。

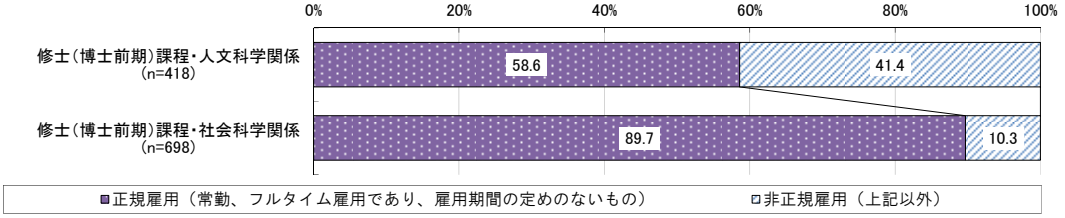
また、所属先と雇用形態との関係について見ると（図表 29）、集計対象の度数が少ない点には留意が必要であるが、「非正規雇用」の割合は、「公的研究機関」で働いている場合に 7 割以上と特に高くなっており、このほか、「高等教育機関」や「その他教育機関」の場合も 4 割以上と比較的高いことがわかる。他方で、「民間企業等」の場合には、「非正規雇用」の割合は約 1 割と、比較的低くなっている。

さらに、職種と雇用形態との関係について見ると（図表 30）、「教員・研究者」の約 4 割、「高度専門職業人」の場合も、約 3 割が「非正規雇用」であり、「その他」の場合と比較してその割合が高くなっている。

図表 26　主たる収入を得ている仕事の雇用形態

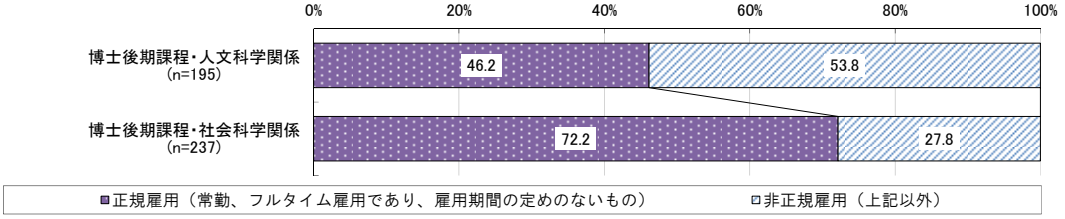


図表 27　修士（博士前期）課程・専門分野別、主たる収入を得ている仕事の雇用形態



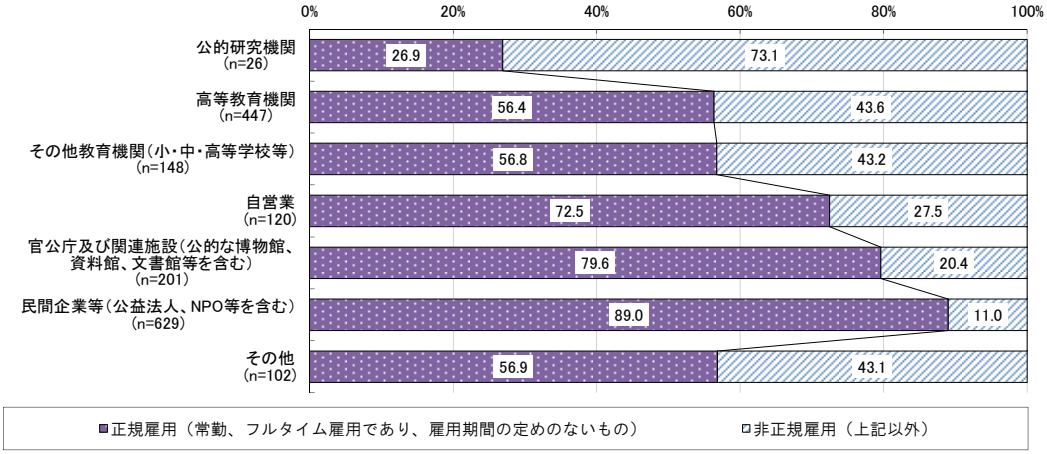
※課程について「5 年一貫博士課程」ならびに、専門分野について「その他」の者については、度数が少ないことから、ここでの集計では対象外とした。

図表 28　博士後期課程・専門分野別、主たる収入を得ている仕事の雇用形態



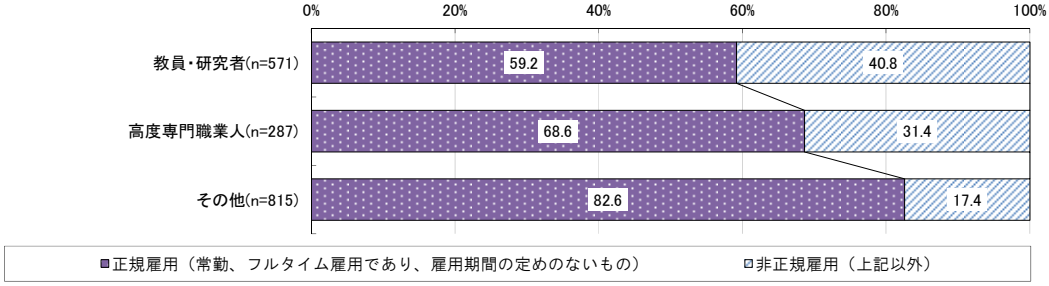
※課程について「5 年一貫博士課程」ならびに、専門分野について「その他」の者については、度数が少ないことから、ここでの集計では対象外とした。

図表 29　主たる収入を得ている仕事の所属先別、雇用形態



※「その他」以外については、「非正規雇用」の回答割合が高い順に掲載した

図表 30　主たる収入を得ている仕事の職種別、雇用形態



⑤修了した大学院の専門分野と現在の仕事の職務内容との関連性

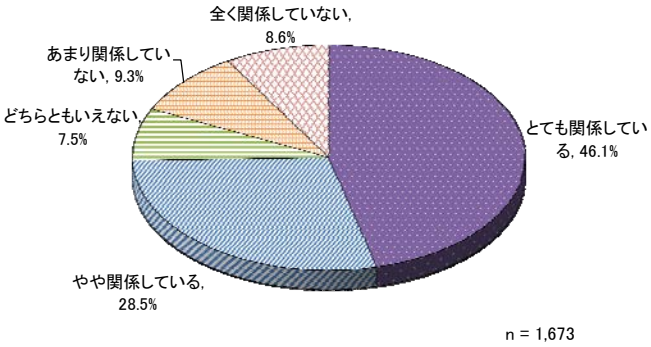
現在「働いている」と回答した者について、主たる収入を得ている仕事の職務内容が、最終的に修了した大学院の専門分野と関係していると考えているかの回答を見ると（図表 31）、「とても関係している」が 46.1%、「やや関係している」が 28.5%となっており、「関係している」との回答を合わせると約 4 分の 3 となっている。他方で、残りの約 4 分の 1 は「全く関係していない」「あまり関係していない」「どちらともいえない」との回答となっている。

修了した大学院の課程・専門分野別に見ると（図表 32、図表 33）、「修士（博士前期）課程」に比べ、「博士後期課程」修了者において、「とても関係している」との回答割合が高くなっており、「博士後期課程」の場合には、その割合は「人文科学関係」「社会科学関係」ともに、6 割以上となっている。なお、「修士（博士前期）課程・人文科学関係」の修了者は、「とても関係している」との回答割合が「社会科学関係」の修了者に比べて高い一方で、「全く関係していない」との回答割合も若干高くなっている。

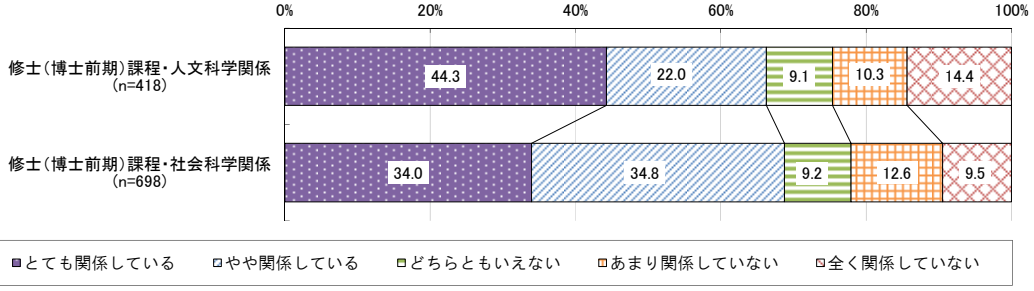
また、所属先との関係について見る（図表 34）と、「民間企業」で働いている場合には、「とても関連している」の割合が低く、「全く関係していない」「あまり関係していない」「どちらともいえない」との回答割合が他と比べて高くなっていることがわかる。なお、「官公庁及び関連施設」に関しても、類似の傾向が見られる。

さらに、職種との関係について見ると（図表 35）、「教員・研究者」「高度専門職業人」の場合は「とても関連している」の割合が 6 割以上となっているが、「その他」の場合にはその割合は低く、「全く関係していない」等の回答割合が高くなっている。

図表 31　主たる収入を得ている仕事の職務内容と修了した大学院の専門分野との関連性

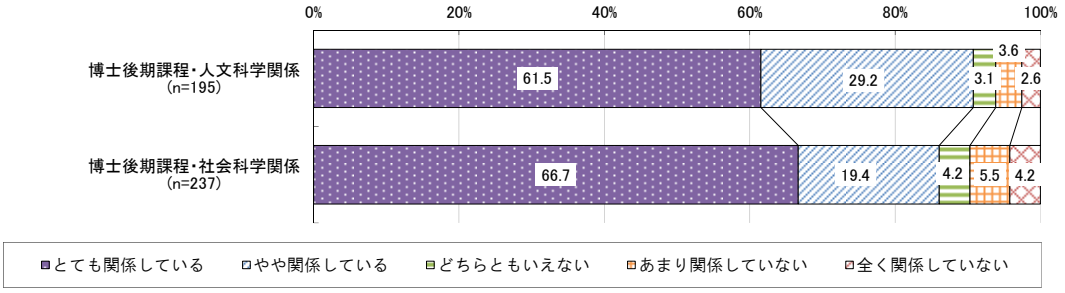


図表 32　修士（博士前期）課程・専門分野別、職務内容と修了した大学院の専門分野との関連性



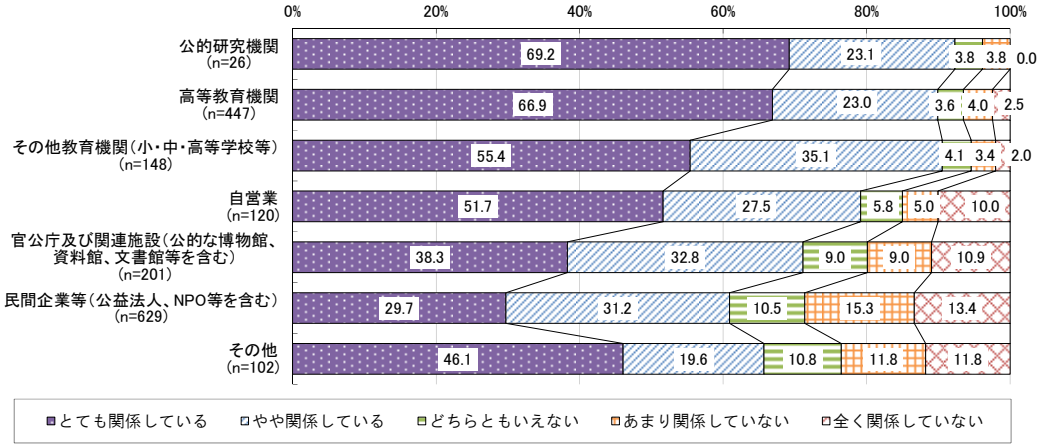
※課程について「5 年一貫博士課程」ならびに、専門分野について「その他」の者については、度数が少ないことから、ここでの集計では対象外とした。

図表 33　博士後期課程・専門分野別、職務内容と修了した大学院の専門分野との関連性



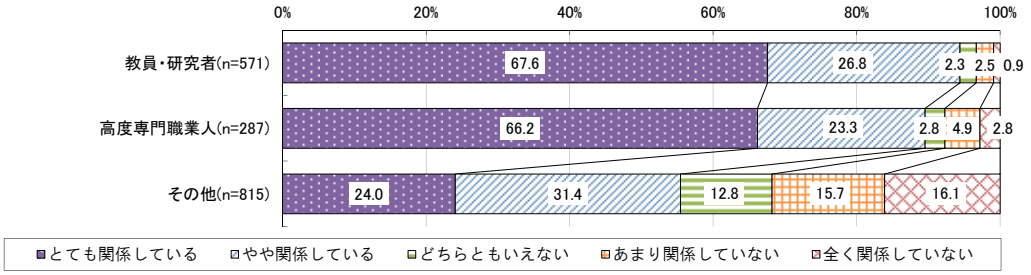
※課程について「5 年一貫博士課程」ならびに、専門分野について「その他」の者については、度数が少ないことから、ここでの集計では対象外とした。

図表 34　主たる収入を得ている仕事の所属先別、職務内容と修了した大学院の専門分野との関連性



※「その他」以外については、「とても関係している」の回答割合が高い順に掲載した

図表 35　主たる収入を得ている仕事の職種別、職務内容と修了した大学院の専門分野との関連性



⑥大学院修了後の進路や就職先に関する満足度

回答者全員に対して、大学院修了後の進路や就職先に関する満足度をたずねたところ、「とても満足している」が 26.4%、「ある程度満足している」が 44.0%、「あまり満足していない」が 19.9%、「全く満足していない」が 9.8%であった（図表 36）。「満足している」との回答割合は合わせると 7 割以上となっているが、必ずしも進路や就職先に満足できていない者も 3 割程度いることが把握される。

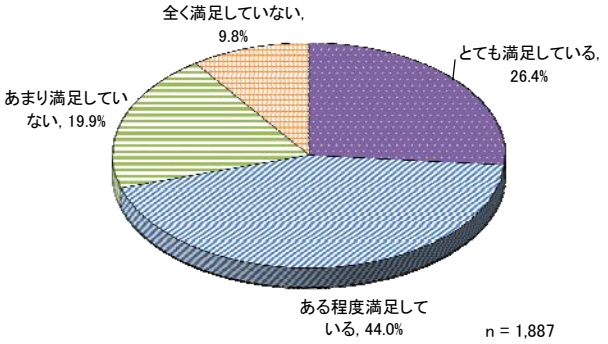
この点について、修了した大学院の課程・専門分野別に見ると（図表 37、図表 38）、いずれの場合も「とても満足している」「ある程度満足している」の割合は 6 割以上となっているが、「修士（博士前期）課程」「博士修士課程」ともに、「社会科学関係」に比べ、「人文科学関係」では、その割合が若干低くなっている。

また、大学院修了後の進路や就職先に関する満足度について現在の状況別に見ると（図表 39）、「働いている」場合には「とても満足している」「ある程度満足している」の回答の合計が 7 割を超えているが、「求職中」や「専業主夫・主婦」「その他」の場合については、「あまり満足していない」「全く満足していない」の回答の合計が 5 割以上となっている。

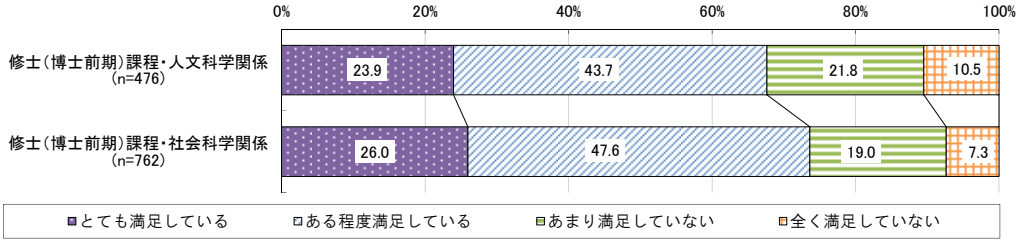
なお、「働いている」場合の所属先別に見ると（図表 40）、「高等教育機関」で働いている者では「とても満足している」の回答割合が他と比べて若干高くなっており、「ある程度満足している」の回答割合と合わせると、8 割を超えている。他方、「民間企業等」で働いている者では満足度が相対的に低くなっていることがわかる。

さらに、職種との関係について見ると（図表 41）、「教員・研究者」「高度専門職業人」の場合は「とても満足している」の割合が 3 割以上となっているが、「その他」の場合にはその割合は低く、「全く満足していない」「あまり満足していない」の回答割合が高くなっている。

図表 36　大学院修了後の進路や就職先に関する満足度

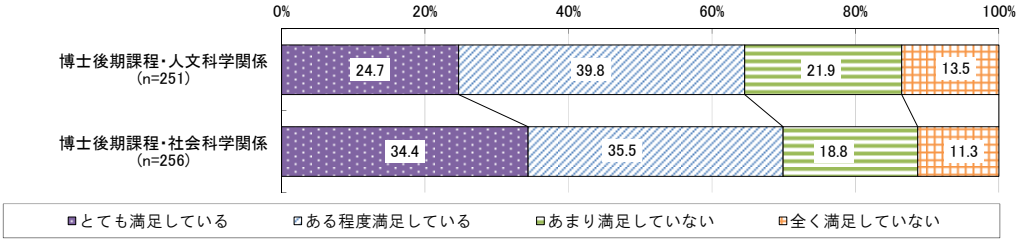


図表 37　修士（博士前期）課程・専門分野別、修了後の進路や就職先に関する満足度



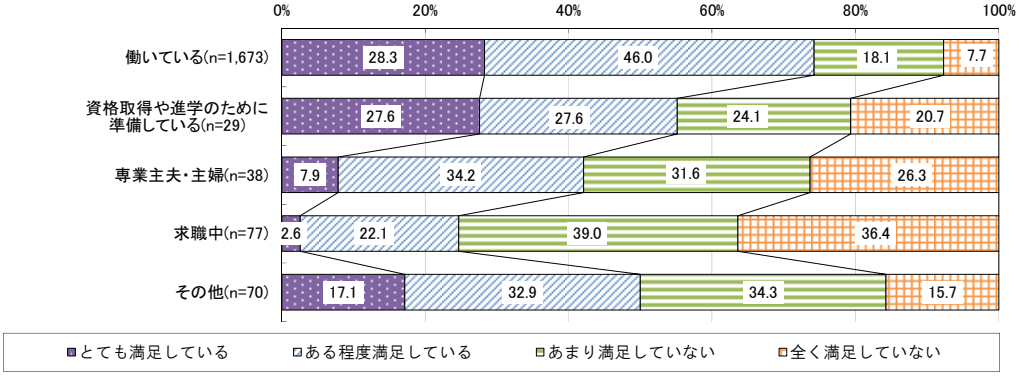
※課程について「5 年一貫博士課程」ならびに、専門分野について「その他」の者については、度数が少ないことから、ここでの集計では対象外とした。

図表 38　博士後期課程・専門分野別、修了後の進路や就職先に関する満足度



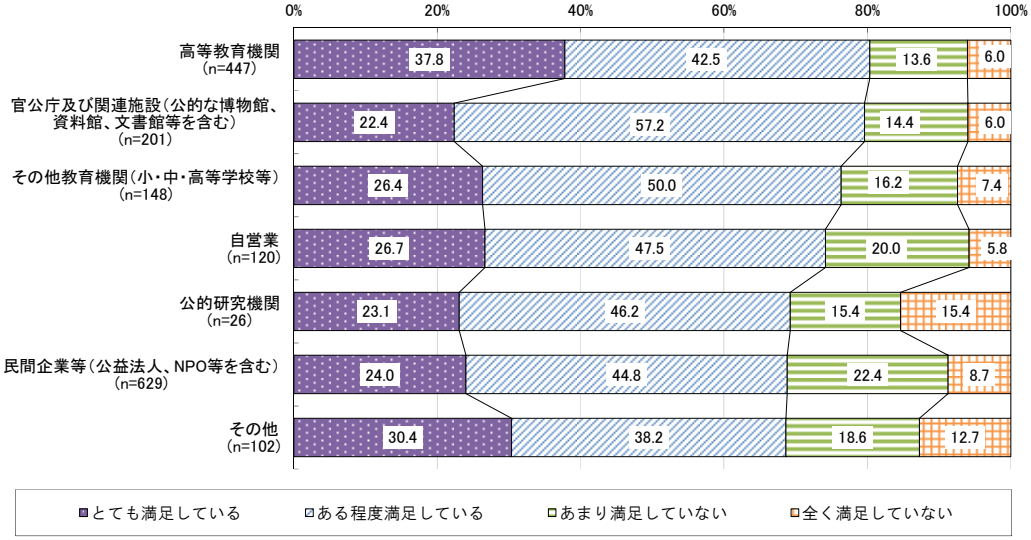
※課程について「5 年一貫博士課程」ならびに、専門分野について「その他」の者については、度数が少ないことから、ここでの集計では対象外とした。

図表 39　現在の状況別、修了後の進路や就職先に関する満足度



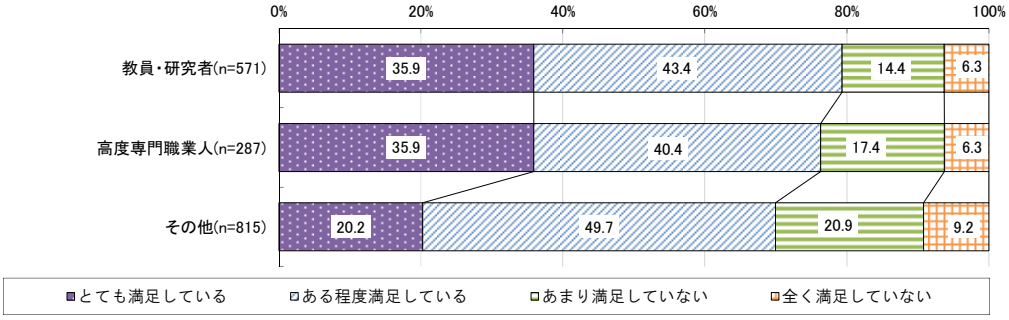
※「その他」以外について、「とても満足している」「ある程度満足している」の回答割合の合計が高い順に掲載した

図表 40　主たる収入を得ている仕事の所属先別、修了後の進路や就職先に関する満足度



※「その他」以外について、「とても満足している」「ある程度満足している」の回答割合の合計が高い順に掲載した

図表 41　主たる収入を得ている仕事の職種別、修了後の進路や就職先に関する満足度

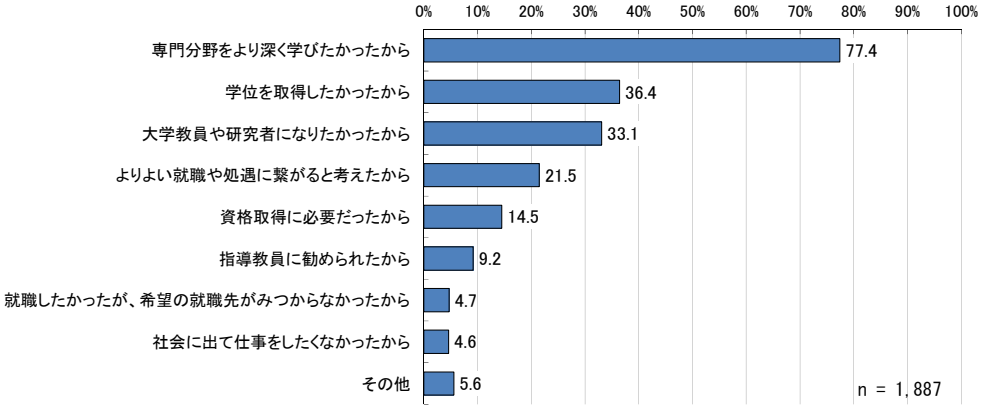


⑦大学院への進学理由・動機

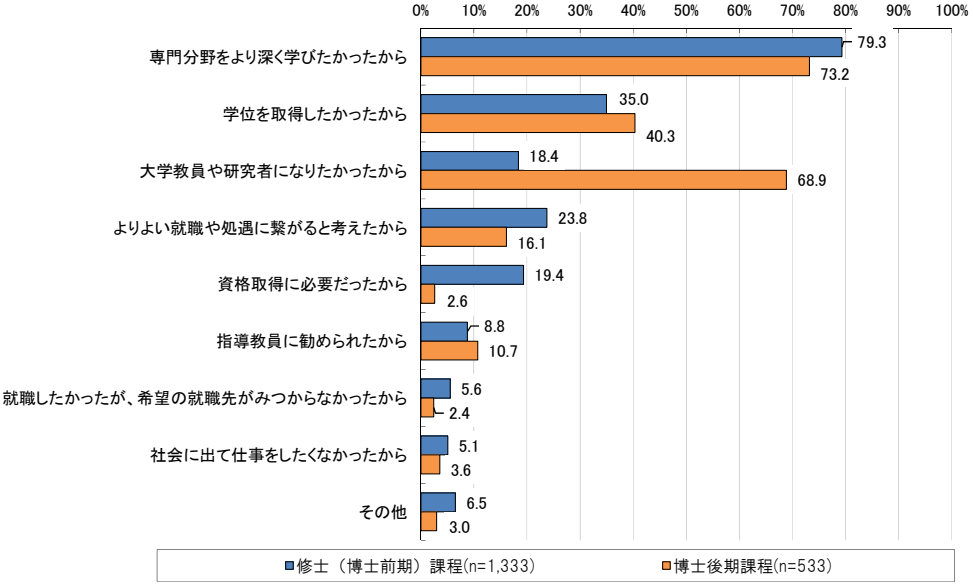
人文・化学系の大学院修了者のキャリアパス等に関する理解をより深めるため、「最終的に修了した大学院・課程に進学した理由・動機」について回答結果を見ると（図表 42）、最も回答割合が高いのは「専門分野をより深く学びたかったから」で、77.4%となっている。

この点について、修了した大学院の課程・専門分野別に見ると（図表 43）、「博士後期課程」の修了者では「大学教員や研究者になりたかったから」の回答割合が特に高くなっており、「修士（博士人気）課程」修了者との間に大きな違いが見られる。なお、「修士（博士前期）課程」修了者では、「よりよい就職や処遇につながると考えたから」「資格取得に必要だったから」の回答割合が「博士後期課程」修了者と比べて若干高くなっている。

図表 42　最終的に修了した大学院・課程に進学した理由・動機（複数回答）



図表 43　課程・専門分野別、最終的に修了した大学院・課程に進学した理由・動機



※課程について「5 年一貫博士課程」ならびに、専門分野について「その他」の者については、度数が少ないことから、ここでの集計では対象外とした。

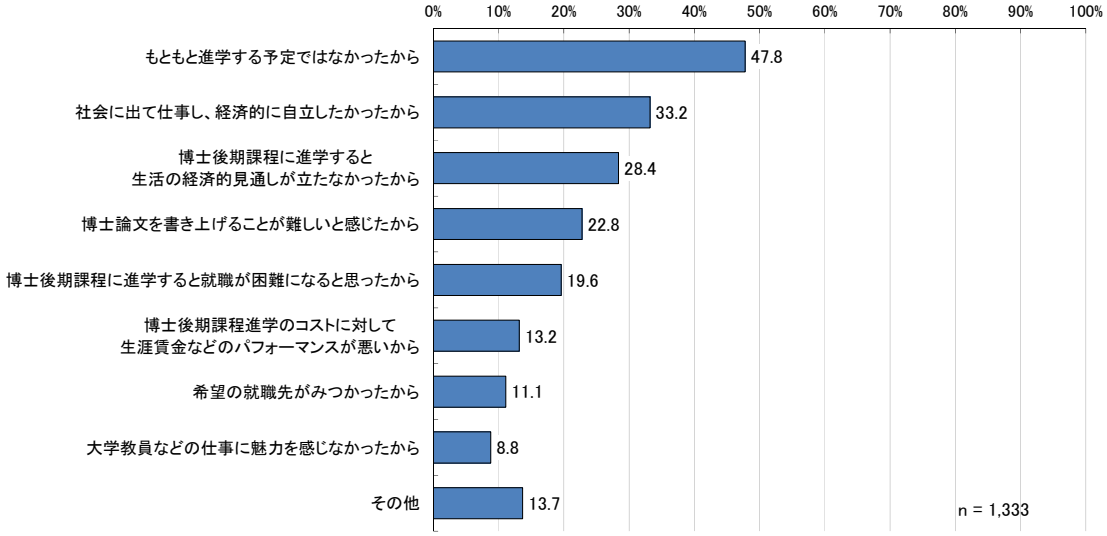
⑧博士後期課程に進学しなかった理由

「修士（博士前期）課程」修了者について、博士後期課程に進学しなかった理由についてたずねたところ、「もともと進学する予定ではなかったから」が約 5 割と最も回答割合が高くなっているが、このほか、「博士課程に進学すると生活の経済的見通しが立たなかったから」「博士論文を書き上げることが難しいと感じたから」等の回答も 2 割以上の回答が見られている（図表 44）。

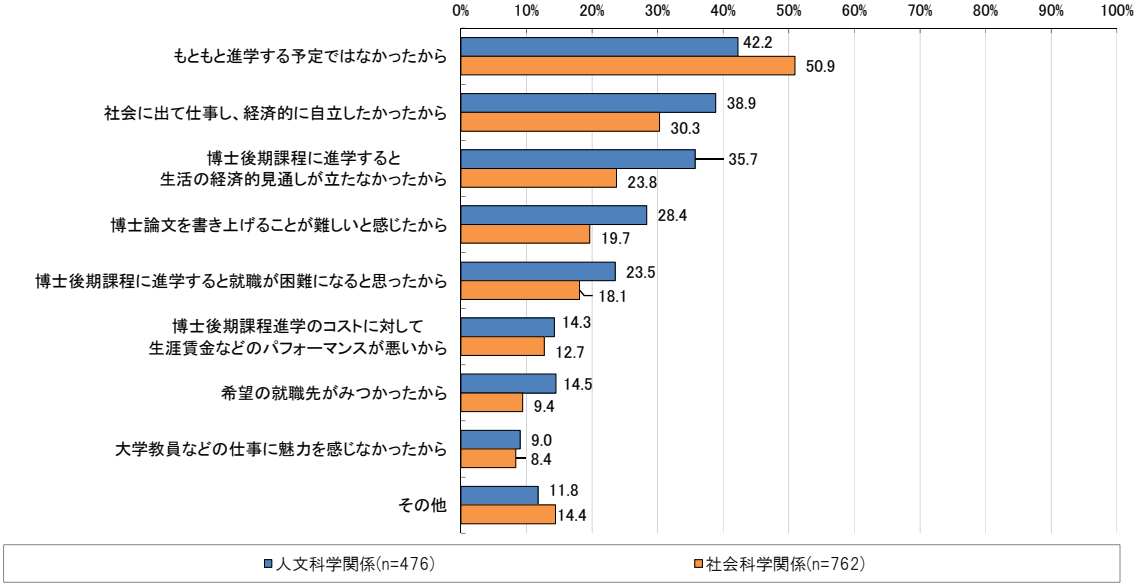
博士課程に進学しなかった理由について専門分野別に見ると（図表 45）、「人文科学関係」では、「社会科学関係」に比べ、「社会に出て仕事し、経済的に自立したかったから」「博士後期課程に進学すると生活の経済的見通しが立たなかったから」「博士論文を書き上げることが難しいと感じたから」「博士後期課程に進学すると就職が困難になると思ったから」などの回答割合が高くなっている。

また、社会人経験の有無別に見ると（図表 46）、社会人経験のなかった者は、「社会に出て仕事し、経済的に自立したかったから」の回答割合が最も高くなっており、このほか、「博士後期課程に進学すると生活の経済的見通しが立たなかったから」「博士後期課程に進学すると就職が困難になると思ったから」の回答割合も 3 割以上となっている。

図表 44　博士後期課程に進学しなかった理由（修士課程修了者のみ、複数回答）

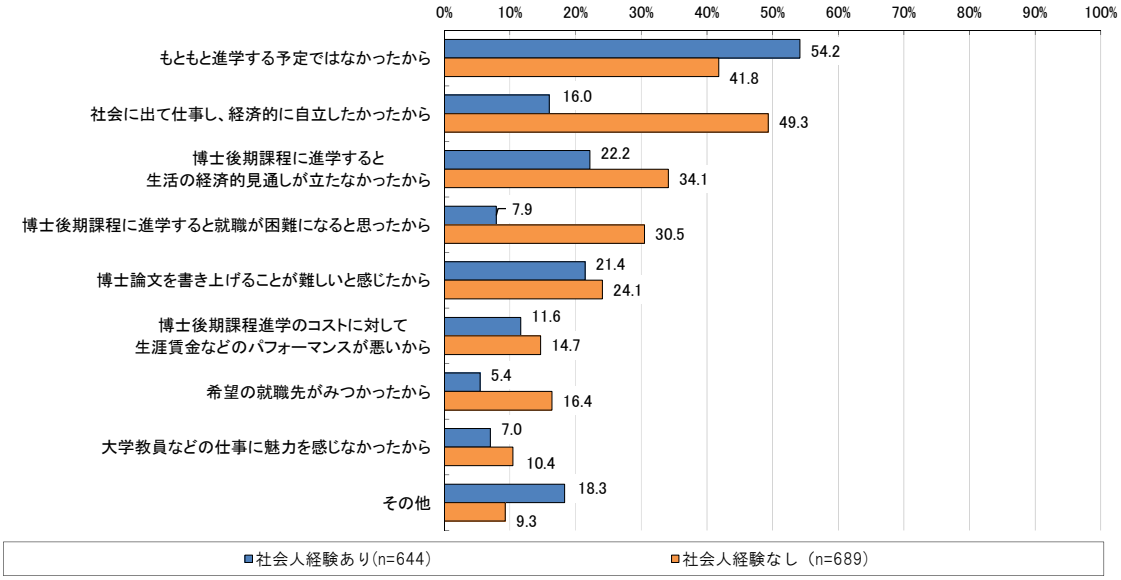


図表 45　専門分野別、博士後期課程に進学しなかった理由（修士課程修了者のみ、複数回答）



※専門分野について「その他」の者については、度数が少ないことから、ここでの集計では対象外とした。

図表 46　社会人の経験の有無別、博士後期課程に進学しなかった理由（修士課程修了者のみ、複数回答）



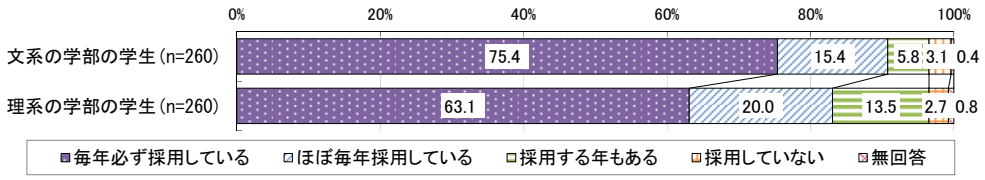
（２）企業における大学院修了者の採用状況に関する分析

①採用実績

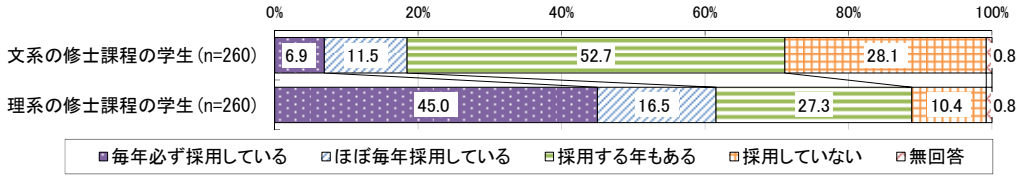
「企業向け調査」の結果から、各企業が過去 5 年間で新規卒業者の採用をどのように実施しているのかを見ると（図表 47～図表 49）、「文系の学部の学生」については 75.4%、「理系の学部の学生」については 63.1%の企業が「毎年必ず採用している」と回答しているのに対して、「文系の修士課程の学生」について「毎年必ず採用している」のは 6.9%、「文系の博士課程の学生」については 0.8%という回答結果となっている。「理系の修士課程の学生」は 45.0%、「理系の博士課程の学生」は 4.6%であることから、理系と比べて文系の大学院修了者をコンスタントに採用している企業の割合は低いということも見て取れる。

なお、「文系の修士課程の学生」の採用状況に関して、企業の従業員数の規模別に見ると（図表 50）、従業員数が多い企業のほうが、「毎年必ず採用している」「ほぼ毎年採用している」の回答割合が比較的高くなっている。

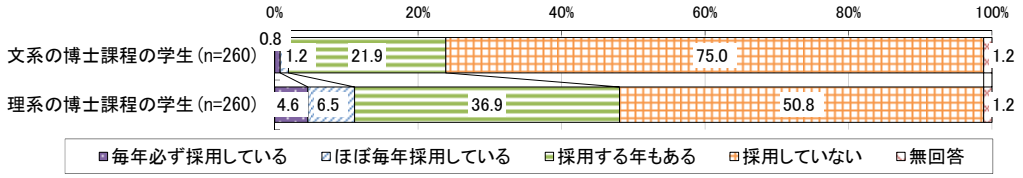
図表 47　過去 5 年間の新規卒業者の採用状況・学卒者



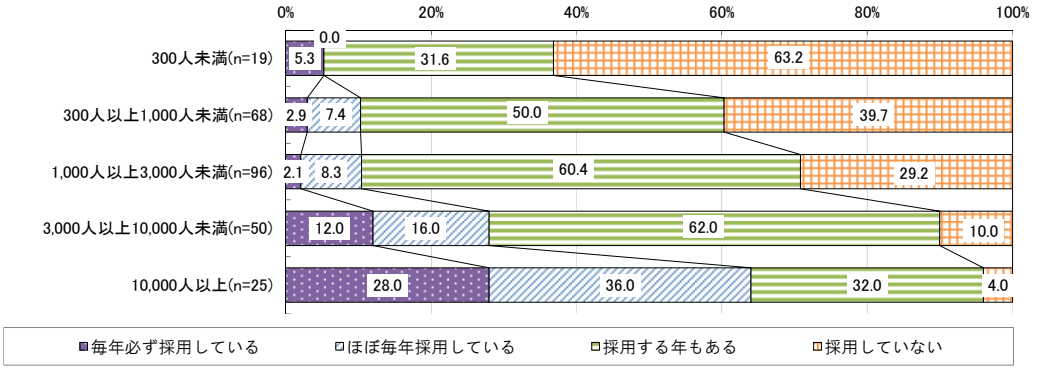
図表 48　過去 5 年間の新規卒業者の採用状況・修士課程修了者



図表 49　過去 5 年間の新規卒業者の採用状況・博士課程修了者



図表 50　企業の従業員数別、過去 5 年間の文系の修士課程の学生の採用状況

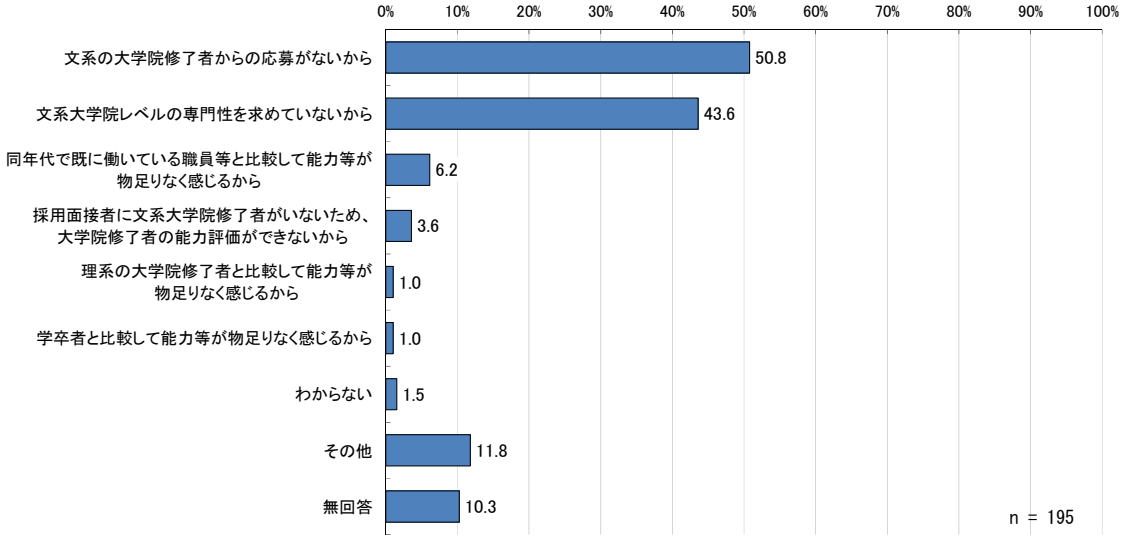


②文系の大学院修了者の採用実績がない理由

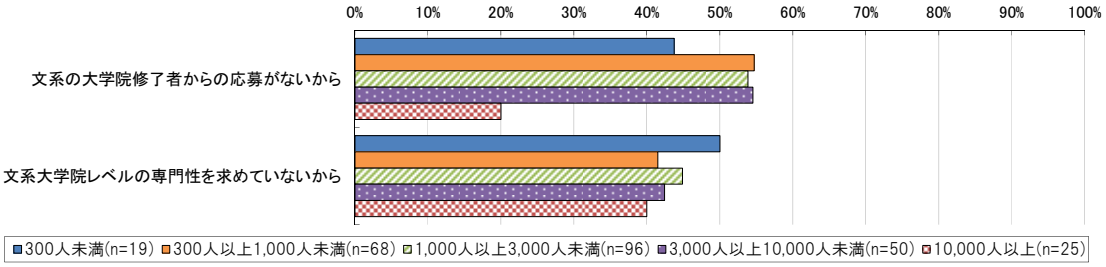
文系の大学院修了者の採用実績がない企業について、その理由をたずねたところ、回答が最も多かったのは「文系の大学院修了者からの応募がないから」で 50.8%であった（図表 51）。また、次いで、「文系大学院レベルの専門性を求めていないから」が 43.6%となっており、これら二つの理由に多くの企業からの回答が集まっている。なお、「理系の大学院修了者と比較して能力等が物足りなく感じるから」「学卒者と比較して能力等が物足りなく感じるから」の回答割合はそれぞれ 1.0%であり、これらのことを理由として採用に至らないということは少ないことがうかがえる。

また、「文系大学院レベルの専門性を求めていないから」と「文系の大学院修了者からの応募がないから」の 2 点について、企業の従業員数の規模別に見ると（図表 52）、従業員数が 10,000 人以上の企業では、「文系の大学院修了者からの応募がないから」の回答割合が他の場合と比べて低くなっていることがわかるが、「文系大学院レベルの専門性を求めていないから」については、企業の従業員数の違いによって回答割合にそれほど大きな差が見られないことがうかがえる。

図表 51　文系の大学院修了者の採用実績がない理由



図表 52　企業の従業員数別、文系の大学院修了者の採用実績がない理由



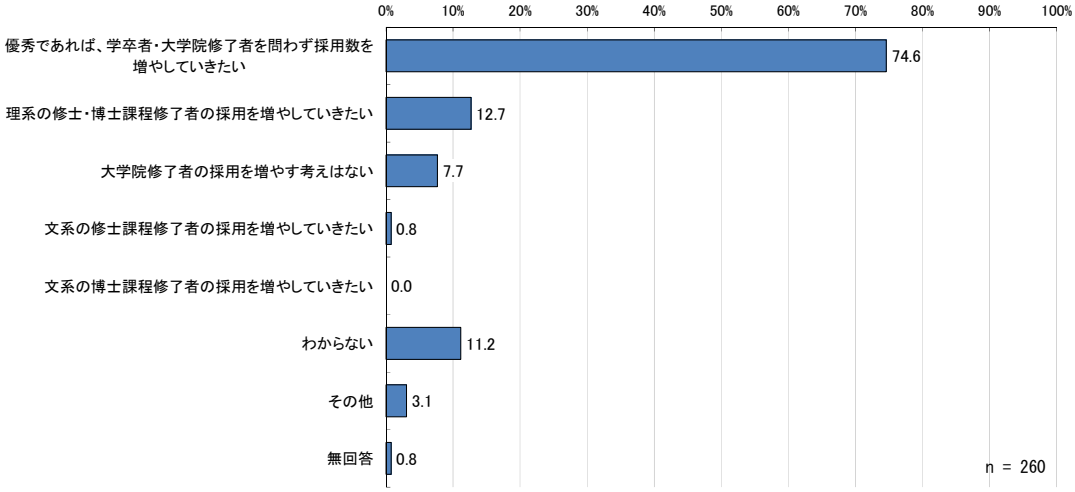
③今後の採用意向

採用実績の有無に関わらず、今後の大学院修了者の採用意向についてたずねたところ、「優秀であれば、学卒者・大学院修了者を問わず採用数を増やしていきたい」が 74.6%と最も回答割合が高くなっている（図表 53）。

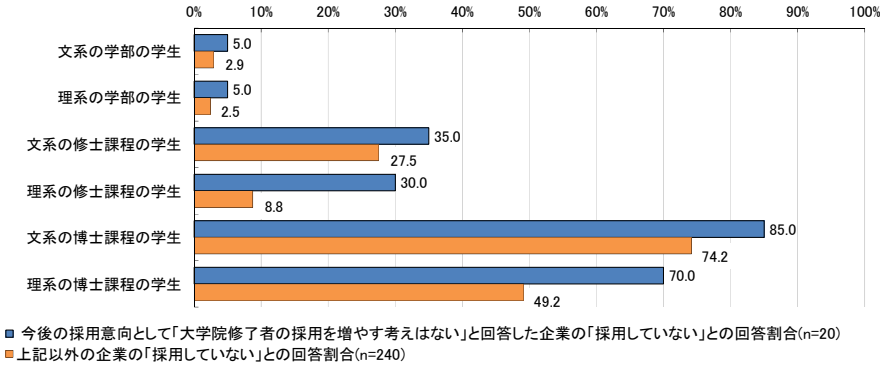
また、「理系の修士・博士課程修了者の採用を増やしていきたい」と回答した企業は 12.7%であるのに対し、「文系の修士課程修了者の採用を増やしていきたい」は 0.8%、「文系の博士課程修了者の採用を増やしていきたい」は 0.0%（回答数 0 件）であり、理系の大学院修了者を増やしていこうとする明確な意向がある企業が 1 割以上見られるのに対して、文系の大学院修了者を意図的に増やしていこうとしている企業の割合は非常に少ない状況にあることがわかる。

なお、今後の採用意向に関して、「大学院修了者の採用を増やす考えはない」と回答した企業は、その他の企業と比較して、文系・理系ともに大学院修了者の採用をしていないと回答した割合が高くなっている（図表 54）。このほか、「大学院修了者の採用を増やす考えはない」と回答した企業は、従業員数が「3,000 人以上」の割合が低いという関係性が見られる（図表 55）。

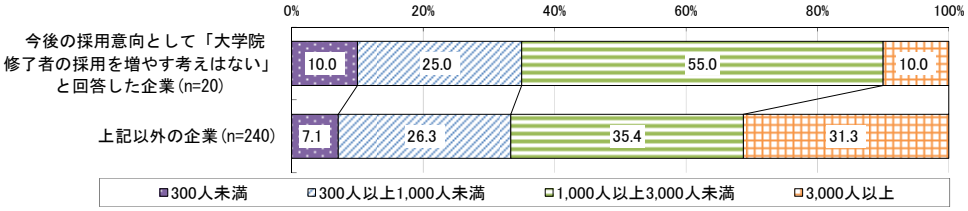
図表 53　大学院修了者の採用意向（複数回答）



図表 54　今後の大学院修了者の採用意向と過去 5 年間の採用実績との関係



図表 55　今後の大学院修了者の採用意向と企業の従業員数の規模との関係

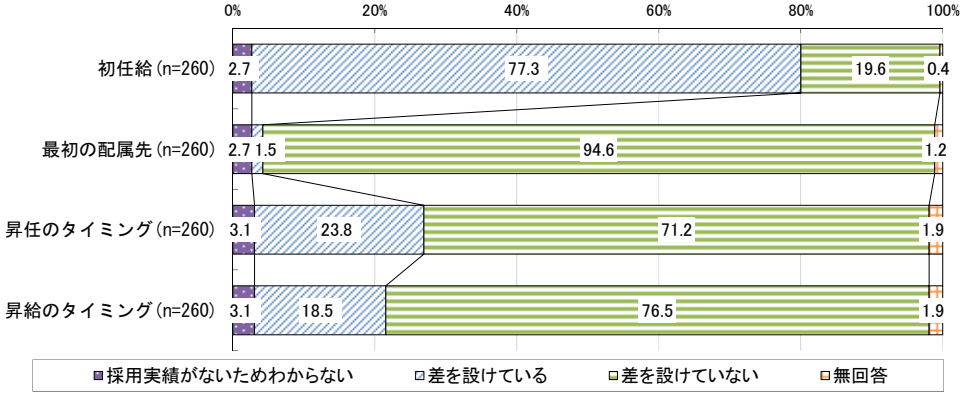


④処遇等の状況

各企業において、学卒者と大学院修了者で初任給や昇給制度等について差を設けているかどうかについてたずねたところ、「初任給」については「差を設けている」と回答した企業が約 8 割と多くなっている（図表 56）。

他方で、「昇任のタイミング」「昇給のタイミング」に差を設けているのは約 2 割であった。また、「最初の配属先」について差を設けているのは 1.5%であり、非常に少ないことが見て取れる。

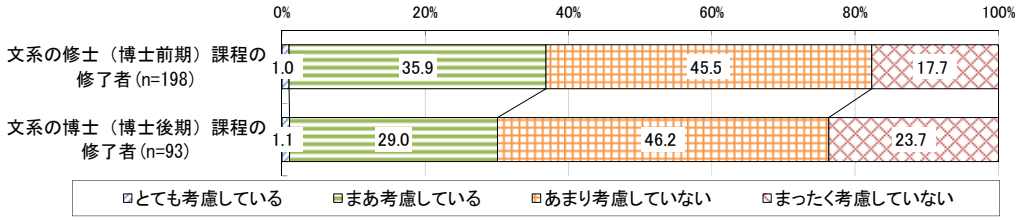
図表 56　学卒者と大学院修了者とでの待遇・処遇の違い



⑤配属等と大学院で学んできたこととの関連性

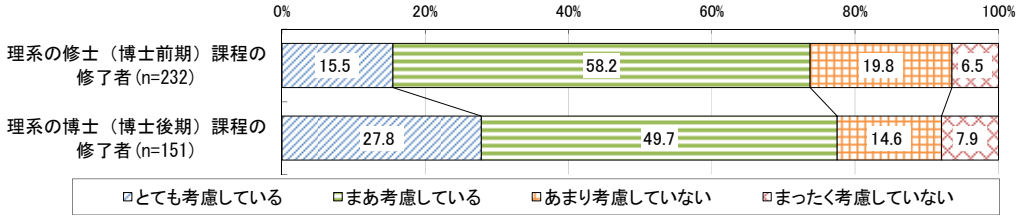
採用した大学院修了者の配属等について、大学院で学んできたことの専門性等を考慮しているかについてたずねたところ、理系の修了者の場合には、「とても考慮している」との回答が 2 割前後となっているのに対して、文系の修了者に関しては、「修士（博士前期）課程」「博士（博士後期）課程」のいずれについても、その割合は約 1%となっている（図表 57、図表 58）。「あまり考慮していない」「まったく考慮していない」の回答割合も、理系と比較して文系の場合には高くなっていることがわかる。

図表 57　大学院修了者の配属等に関して学んできたことの専門性等を考慮するか（文系）



※「採用がないためわからない」「無回答」を除いた集計値

図表 58　大学院修了者の配属等に関して学んできたことの専門性等を考慮するか（理系）

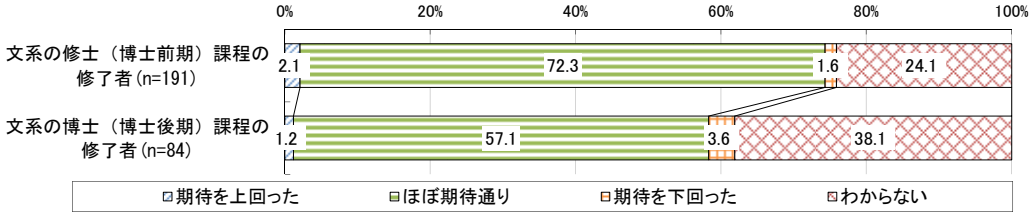


※「採用がないためわからない」「無回答」を除いた集計値

⑥採用後の印象

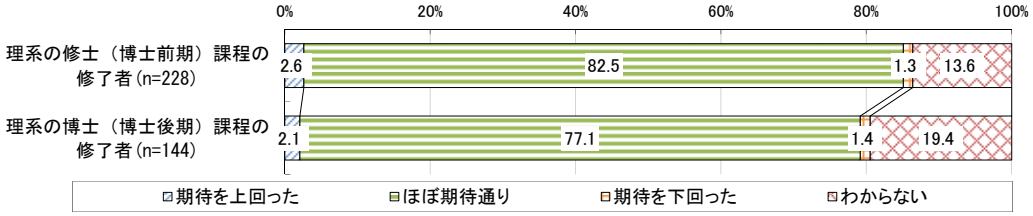
大学院修了者の能力・資質全般について、採用後の印象をたずねたところ、文系については理系に比べて「わからない」との回答割合が高くなっているが、「期待を上回った」「期待を下回った」の回答割合は低く、文系・理系または修士（博士前期）課程・博士（博士後期）課程の違いによって大きな差が見られないことがわかる（図表 59、図表 60）。

図表 59　大学院修了者の能力・資質全般に対する採用後の印象（文系）



※「採用がないためわからない」「無回答」を除いた集計値

図表 60　大学院修了者の能力・資質全般に対する採用後の印象（理系）
（「採用がないためわからない」「無回答」を除いた集計値）



※「採用がないためわからない」「無回答」を除いた集計値

（３）大学院の各研究科での人材育成・輩出の考え方等に関する分析

①修了者の就職・進路の状況

大学院向け調査の回答結果から、平成 25 年度の修了者の状況について、各研究科からの回答人数の平均値から全体の状況について把握すると、修士課程修了者のうち 1 割強が「博士後期課程への進学」、5 割強は「就職」、3 割強は「その他」の進路に進んでいるのではないかということが把握される（図表 61）[19]。

「就職」の場合については、その多くが「大学教員・研究者」や「高度専門職業人」以外の「上記以外」の分類となっているが、これらの者については、民間企業等の研究者以外の職で働いているのではないかと推察される。

博士課程修了者については、「就職」と「その他」が同程度となっている。就職者の場合には、「大学教員・研究者」になっている者の割合が相対的に高くなっているが、博士課程修了者の全体からみると、その割合は 3 割程度という状況にあることがうかがえる。

図表 61　平成 25 年度修了者の就職状況（研究科からの回答の平均人数・内訳の割合）

	修士課程(n=406)		博士課程(n=286)	
A. 博士後期課程への進学者	2.10 人	12.5%		
B. 就職者（学校基本調査における「就職者」と同じ）	8.91 人	52.9%	1.78 人	49.8%
うち、大学教員・研究者	(0.18 人)	(1.1%)	(1.05 人)	(29.4%)
うち、民間企業等の研究者	(0.34 人)	(2.0%)	(0.08 人)	(2.1%)
うち、高度専門職業人※	(1.34 人)	(7.9%)	(0.09 人)	(2.6%)
うち、上記以外	(7.05 人)	(41.9%)	(0.56 人)	(15.6%)
C. その他	5.83 人	34.6%	1.80 人	50.2%

※ここでの集計では、修士課程・博士課程それぞれについて、いずれかの回答項目に無回答であったものは集計の対象外とした。
※ここでいう「高度専門職業人」とは、「理論と実務の架橋」を重視し、深い知的学識に裏打ちされた国際的に通用する高度な専門的知識・能力が必要と社会的に認知され、例えば、職能団体や資格をはじめとする一定の職業的専門領域の基礎が確立している職業（例：士業など）に就く方を指す。
※四捨五入の関係で、就職者合計の人数・割合の値と、内訳の値を足し合わせた値が一致しない場合もある。

[19] なお、「その他」には、修了者の進路について明確に把握していない場合も含まれるのではないかと想定される。

②修了者の就職・進路の状況（専門分野別）

修了者の状況について、研究科の学校基本調査上の分類別に見ると（図表 62、図表 63）、「人文科学」の研究科の場合には、「社会科学」の研究科と比較すると、修士課程修了者の進路について「博士後期課程への進学」の割合が若干高くなっていることがわかる。

また、「人文科学」の研究科の場合には、博士課程修了者の進路について「就職」の割合が比較的低く、「その他」の場合の割合が高くなっていることがわかる。

図表 62　平成 25 年度修了者の就職状況（「人文科学」の研究科、平均人数・内訳の割合）

	修士課程(n=129)		博士課程(n=86)	
A. 博士後期課程への進学者	3.25 人	17.3%		
B. 就職者（学校基本調査における「就職者」と同じ）	9.24 人	49.1%	2.10 人	41.7%
うち、大学教員・研究者	(0.16 人)	(0.9%)	(1.12 人)	(22.1%)
うち、民間企業等の研究者	(0.04 人)	(0.2%)	(0.07 人)	(1.4%)
うち、高度専門職業人※	(1.52 人)	(8.1%)	(0.13 人)	(2.5%)
うち、上記以外	(7.52 人)	(40.0%)	(0.79 人)	(15.7%)
C. その他	6.32 人	33.6%	2.94 人	58.3%

※ここでの集計では、修士課程・博士課程それぞれについて、いずれかの回答項目に無回答であったものは集計の対象外とした。
※ここでいう「高度専門職業人」とは、「理論と実務の架橋」を重視し、深い知的学識に裏打ちされた国際的に通用する高度な専門的知識・能力が必要と社会的に認知され、例えば、職能団体や資格をはじめとする一定の職業的専門領域の基礎が確立している職業（例：士業など）に就く方を指す。
※四捨五入の関係で、就職者合計の人数・割合の値と、内訳の値を足し合わせた値が一致しない場合もある。

図表 63　平成 25 年度修了者の就職状況（「社会科学」の研究科、平均人数・内訳の割合）

	修士課程(n=262)		博士課程(n=187)	
A. 博士後期課程への進学者	1.55 人	9.7%		
B. 就職者（学校基本調査における「就職者」と同じ）	8.84 人	55.3%	1.67 人	56.4%
うち、大学教員・研究者	(0.21 人)	(1.3%)	(1.06 人)	(35.8%)
うち、民間企業等の研究者	(0.46 人)	(2.9%)	(0.08 人)	(2.7%)
うち、高度専門職業人※	(1.23 人)	(7.7%)	(0.07 人)	(2.4%)
うち、上記以外	(6.95 人)	(43.3%)	(0.46 人)	(15.6%)
C. その他	5.60 人	35.0%	1.29 人	43.6%

※ここでの集計では、修士課程・博士課程それぞれについて、いずれかの回答項目に無回答であったものは集計の対象外とした。
※ここでいう「高度専門職業人」とは、「理論と実務の架橋」を重視し、深い知的学識に裏打ちされた国際的に通用する高度な専門的知識・能力が必要と社会的に認知され、例えば、職能団体や資格をはじめとする一定の職業的専門領域の基礎が確立している職業（例：士業など）に就く方を指す。
※四捨五入の関係で、就職者合計の人数・割合の値と、内訳の値を足し合わせた値が一致しない場合もある。

③大学院における人材輩出の考え方

大学院研究科として、どのような人材をどの程度輩出することを目指しているかについて、各研究科からの回答割合の平均値から全体の状況を把握すると（図表 64）、まず、「修士課程」については、「高度専門職業人」の輩出を目指していると回答された割合が高く、平均で 4 割以上という回答結果となっている。次いで、「博士後期課程への進学者」「その他」がそれぞれ 2 割程度となっている。また、「博士課程」については、「大学教員・研究者」の輩出を目指しているとの回答が平均で 5 割以上となっており、次いで「高度専門職業人」が 2 割以上となっている。

これらの状況について研究科の学校基本調査上の分類別に見ると（図表 65）、「社会科学」の研究科では、「人文科学」の研究科と比較して、「高度専門職業人」をより多く輩出しようとしており、「民間企業等の研究者」についても、その進路に進む者をより多く輩出しようとしていることがうかがえる。

図表 64　どのような人材をどの程度輩出することを目指しているか（研究科からの回答の平均値）

	修士課程	博士課程
A. 博士後期課程への進学者	1.95 割	
B. 大学教員・研究者	0.70 割	5.17 割
C. 民間企業等の研究者	0.99 割	1.38 割
D. 高度専門職業人※	4.45 割	2.41 割
E. その他	2.06 割	1.08 割

※ここでの集計では、修士課程・博士課程それぞれについて、いずれかの回答項目に無回答であったものは集計の対象外とした。
※ここでいう「高度専門職業人」とは、「理論と実務の架橋」を重視し、深い知的学識に裏打ちされた国際的に通用する高度な専門的知識・能力が必要と社会的に認知され、例えば、職能団体や資格をはじめとする一定の職業的専門領域の基礎が確立している職業（例：士業など）に就く方を指す。
※四捨五入等の関係から、A~E の合計値が必ずしも 10 割となるとは限らない。

図表 65　専門分野別、どのような人材をどの程度輩出することを目指しているか（平均値）

	人文科学		社会科学	
	修士課程	博士課程	修士課程	博士課程
A. 博士後期課程への進学者	2.27 割		1.78 割	
B. 大学教員・研究者	0.77 割	5.44 割	0.66 割	5.08 割
C. 民間企業等の研究者	0.75 割	1.16 割	1.11 割	1.44 割
D. 高度専門職業人※	4.03 割	2.36 割	4.67 割	2.46 割
E. その他	2.32 割	1.30 割	1.92 割	0.99 割

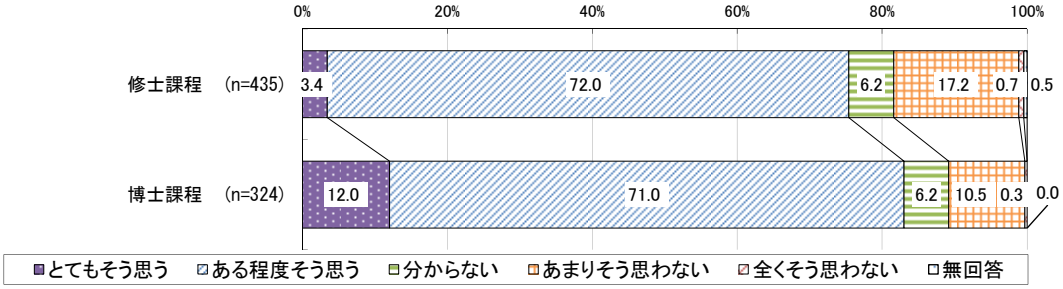
※ここでの集計では、修士課程・博士課程それぞれについて、いずれかの回答項目に無回答であったものは集計の対象外とした。
※ここでいう「高度専門職業人」とは、「理論と実務の架橋」を重視し、深い知的学識に裏打ちされた国際的に通用する高度な専門的知識・能力が必要と社会的に認知され、例えば、職能団体や資格をはじめとする一定の職業的専門領域の基礎が確立している職業（例：士業など）に就く方を指す。
※四捨五入等の関係から、A~E の合計値が必ずしも 10 割となるとは限らない。

④大学院進学者の能力等に関する考え方

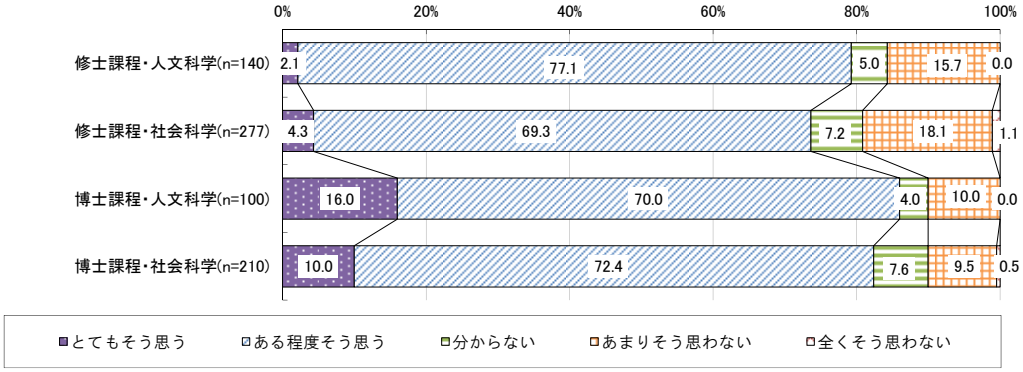
現状として、望ましい能力を持つ人材が大学院を目指していると思うかについてたずねたところ、「修士課程」「博士課程」ともに「ある程度そう思う」との回答が 7 割以上となっている（図表 66）。ただし、「修士課程」に比べ、「博士課程」のほうが「とてもそう思う」の回答割合が高く、修士課程では「あまりそう思わない」の割合が高くなっているとの違いが見られる

これらの状況について研究科の学校基本調査上の分類別に見ると（図表 67）、「人文科学」「社会科学」ともに、「修士課程」について「博士課程」と比較すると「あまりそう思わない」の割合が高いという点が共通して見られることがわかる。

図表 66　望ましい能力を持つ人材が大学院を目指しているか



図表 67　課程・専門分野別、望ましい能力を持つ人材が大学院を目指しているか



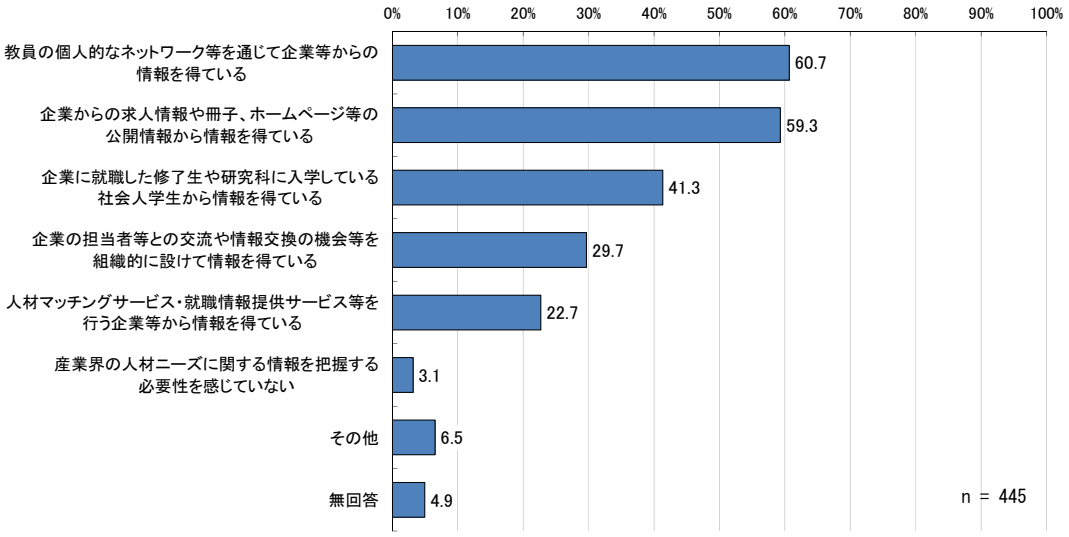
※研究科の学校基本調査上の分類について「その他」ならびに「無回答」であった研究科については、度数が少ないことから、ここでの集計では対象外とした。

⑤産業界の人材ニーズ把握の状況

大学院生に対する産業界の人材ニーズについて、どのように情報を得ているかについてたずねたところ、回答が最も多かったのは「教員の個人的なネットワーク等を通じて企業等からの情報を得ている」で 60.7%であった（図表 68）。また、「企業からの求人情報やホームページ等の公開情報から情報を得ている」が 59.3%と同程度の回答割合であった。なお、「企業の担当者等との交流や情報交換の機会等を組織的に設けて情報を得ている」との回答は全体の約 3 割であった。

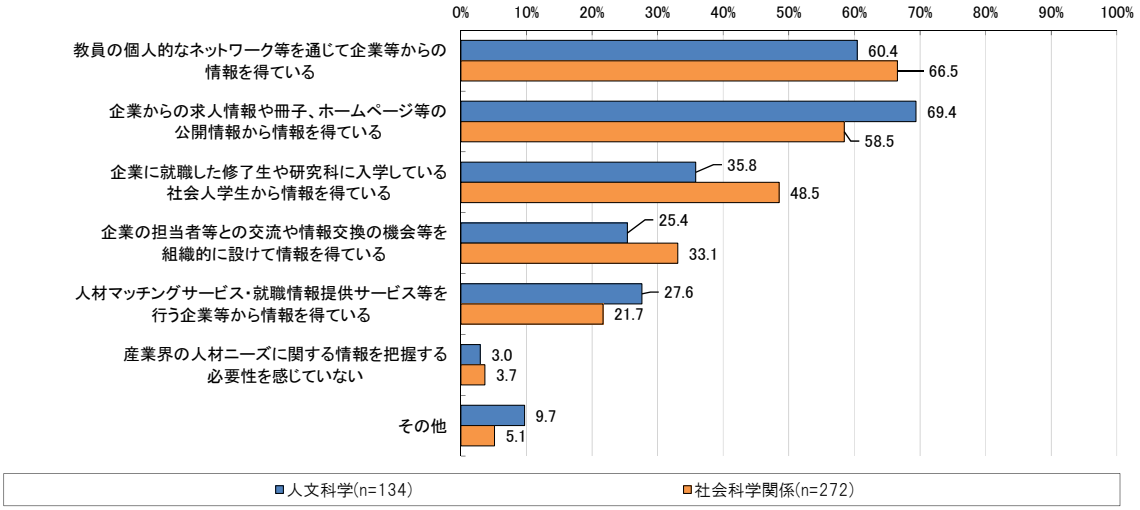
研究科の扱う専門分野別に見ると（図表 69）、「人文科学」の場合には「企業からの求人情報やホームページ等の公開情報から情報を得ている」の回答割合が最も高く、「社会科学」では、「教員の個人的なネットワークを通じて企業等からの情報を得ている」の回答割合が最も高くなっている。なお、「企業の担当者等との交流や情報交換の機会等を組織的に設けて情報を得ている」の回答割合は、「社会科学」の研究科のほうが若干高くなっていることが見て取れる。

図表 68　大学院生に対する産業界の人材ニーズに関する情報の入手方法（複数回答）



※全学で実施している内容も含めて、実施しているものについて回答してもらう設問とした

図表 69　専門分野別、大学院生に対する産業界の人材ニーズに関する情報の入手方法（複数回答）



※研究科の学校基本調査上の分類について「その他」ならびに「無回答」であった研究科については、度数が少ないことから、ここでの集計では対象外とした。
※大学院生に対する産業界の人材ニーズに関する情報の入手方法について「無回答」は除いて集計した。

５．大学院の教育内容の見直し・改善の必要性等に関する分析

（１）仕事等で求められる能力と大学院で身に付けられる能力との関係性に関する分析

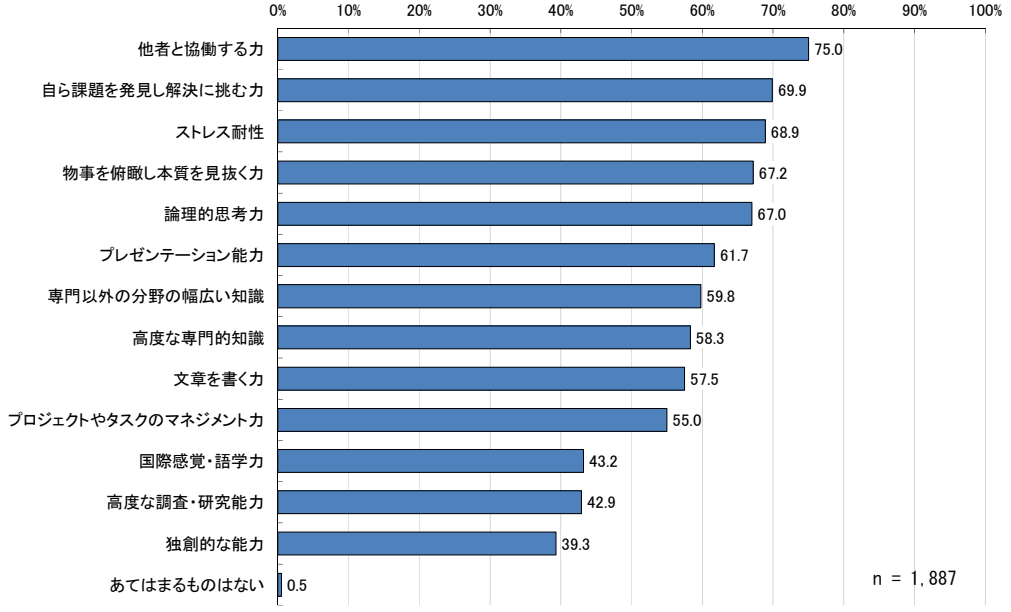
①修了者自身の認識

「修了者向け調査」の結果から、「仕事をする上で、特に強く求められていると考える能力等」をたずねた設問への回答を見ると（図表 70）、最も回答割合が高かったのは「他者と協働する力」で 75.0%となっている。次いで、「自ら課題を発見し解決に挑む力」（69.9%）、「ストレス耐性」（68.9%）、「物事を俯瞰し本質を見抜く力」（67.2%）、「論理的思考力」（67.0%）の回答割合が高くなっており、他方で、「独創的な能力」（39.3%）や「高度な調査・研究能力」（42.9%）、「国際感覚・語学力」（43.2%）に対する回答割合は低くなっている。

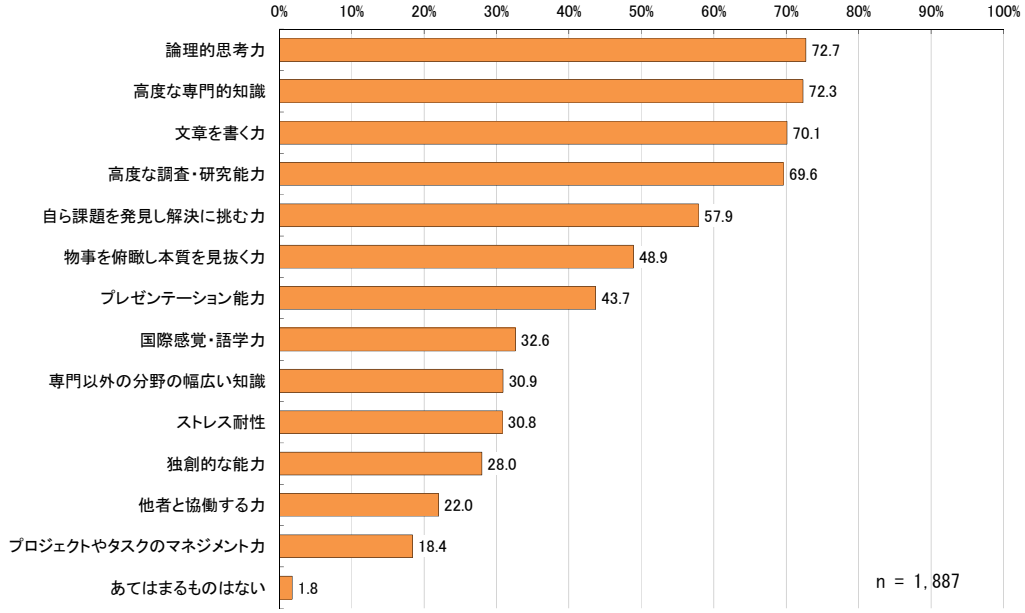
他方、「大学院教育を通じて身に付いたと考える能力等」に関する回答を見ると（図表 71）、最も回答割合が高いのは「論理的思考力」で 72.7%、次いで「高度な専門的知識」（72.3%）、「文章を書く力」（70.1%）、「高度な調査・研究能力」（69.6%）の回答割合が高くなっている。これに対し、「プロジェクトやタスクのマネジメント力」（18.4%）や「他者と協働する力」（22.0%）については回答割合が低くなっている。

これらの回答結果を対比させて見ると（図表 72）、「他者と協働する力」「ストレス耐性」「専門以外の分野の幅広い知識」「プロジェクトやタスクのマネジメント力」等に関して、「求められている」と回答された割合に対して、「身に付いた」との回答割合が特に低くなっていることがわかる。また、「高度な調査・研究能力」等については、「身に付いた」との回答割合に対して、「求められている」との回答割合が相対的に低いことが見て取れる。

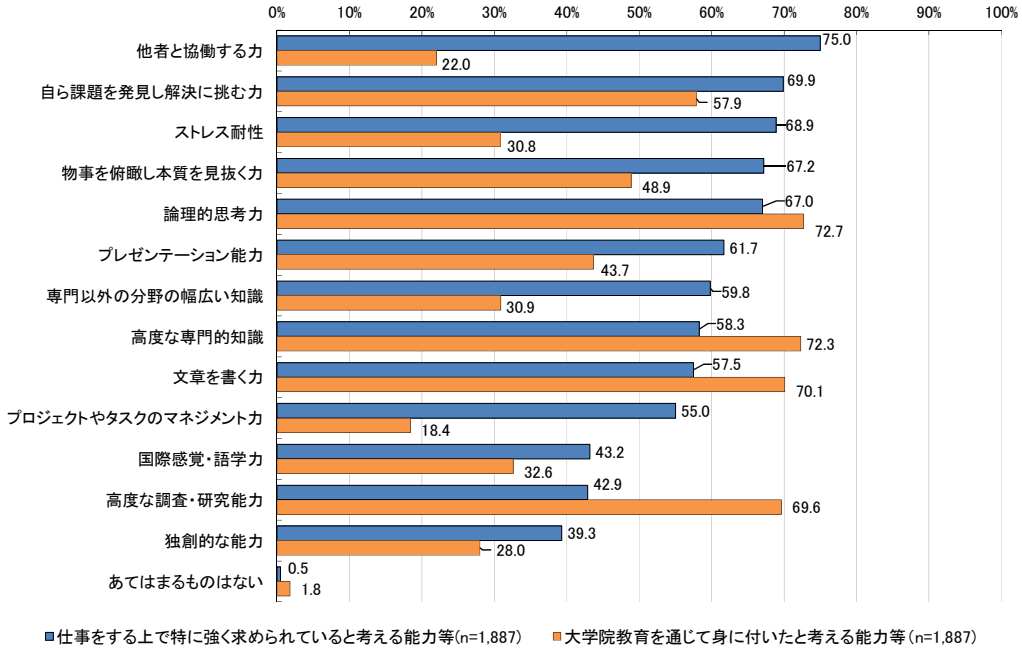
図表 70　仕事をする上で特に強く求められていると考える能力等（修了者の回答、複数回答）



図表 71　大学院教育を通じて身に付いたと考える能力等（修了者の回答、複数回答）



図表 72　求められていると考える能力等と大学院教育を通じて身に付いたと考える能力等との対応関係（修了者の回答、それぞれ複数回答）



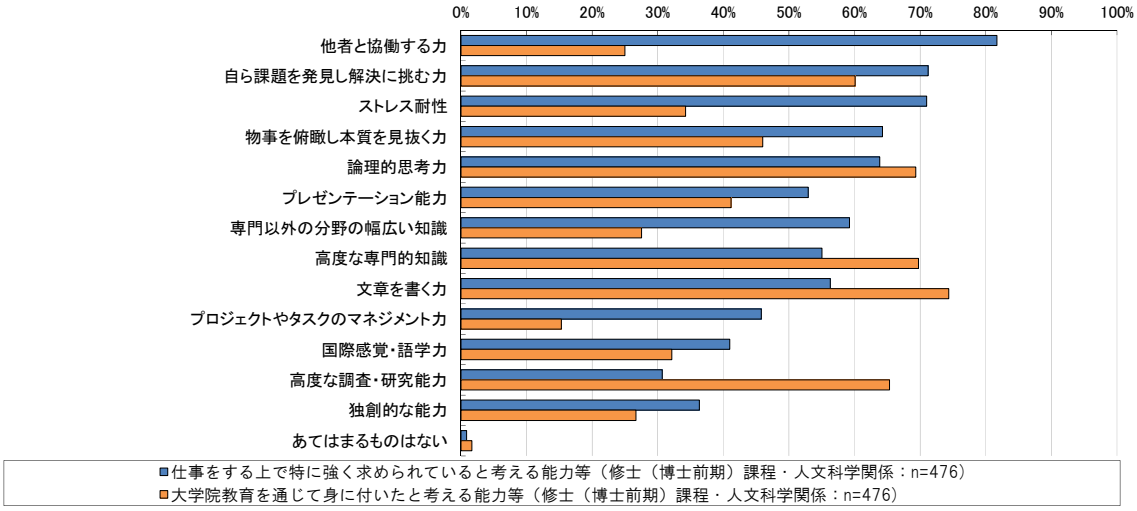
※「仕事をする上で特に強く求められていると考える能力等」の回答割合が高かった順に掲載した。

②修了者自身の認識（課程・専門分野別の回答）

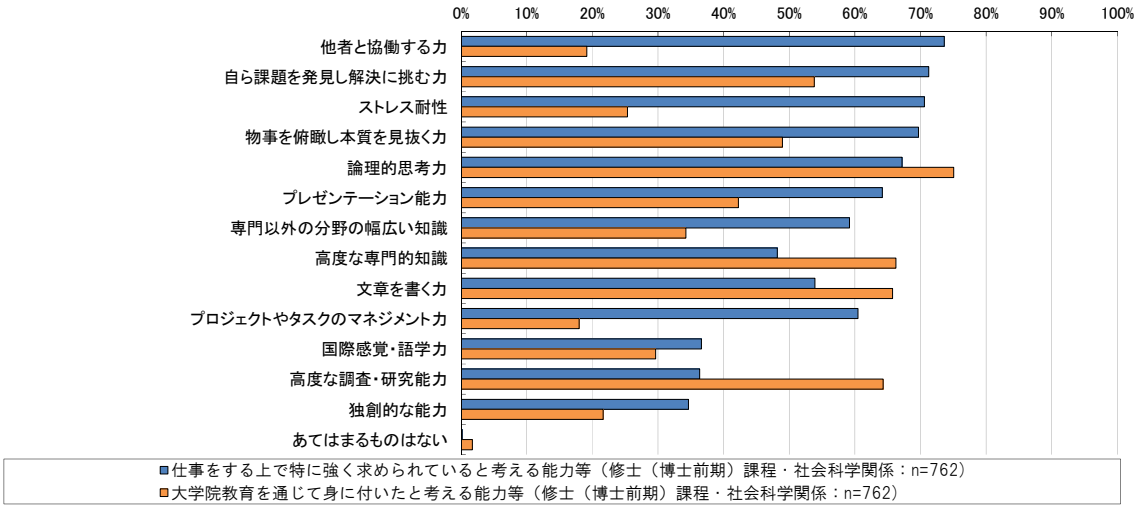
修了した大学院の課程・専門分野別に、「仕事をする上で、特に強く求められていると考える能力等」と、「大学院教育を通じて身に付いたと考える能力等」との回答を対比して見ると（図表 73～図表 76）、回答割合の多寡についての違いはあるものの、課程・専門分野の別によらず、「論理的思考力」「高度な専門的知識」「文章を書く力」「高度な調査・研究能力」等については、「求められている」との回答割合よりも、「身に付いた」との回答割合のほうが高くなっていることがわかる。

また、「他者と協働する力」「ストレス耐性」や「専門以外の分野の幅広い知識」「プロジェクトやタスクのマネジメント力」等に関しては、それぞれ、「身に付いた」との回答割合が相対的に低く、「求められている」との回答割合のほうが高いという関係性にあることが確認できる。

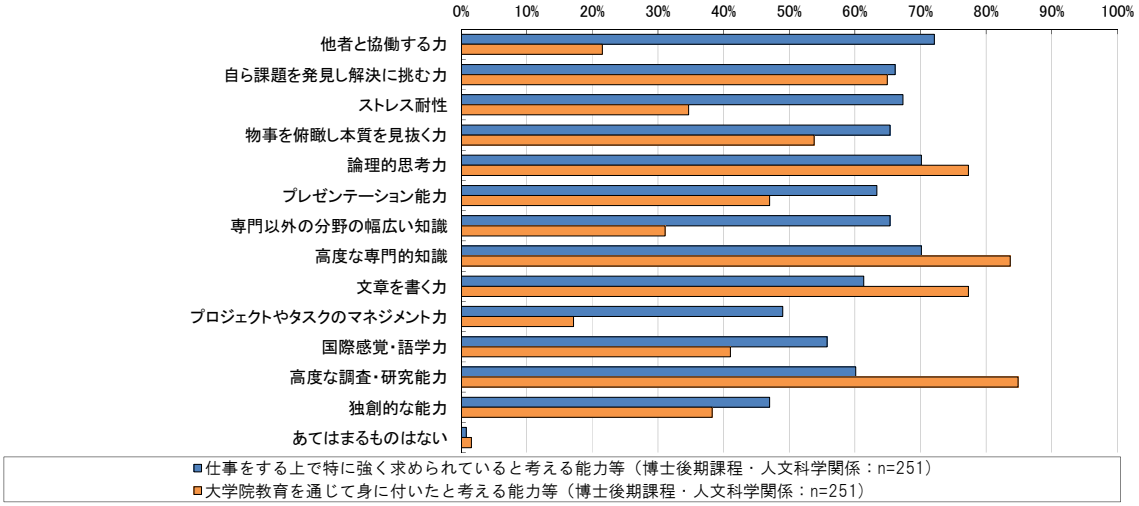
図表 73　仕事をする上で、特に強く求められていると考える能力等と大学院教育を通じて身についたと考えることとの関係（修士（博士前期）課程・人文科学関係、複数回答）



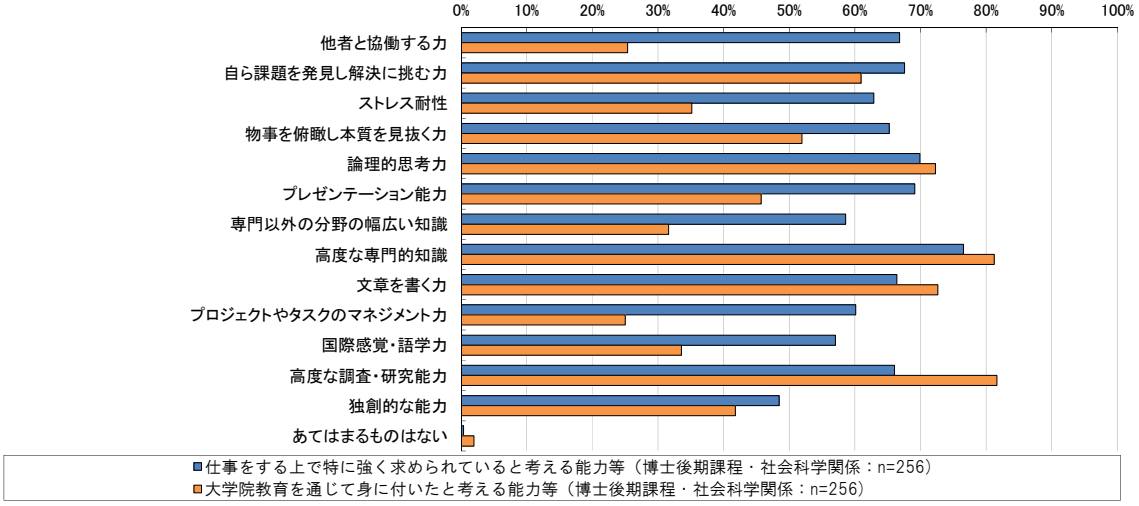
図表 74　仕事をする上で、特に強く求められていると考える能力等と大学院教育を通じて身についたと考えることとの関係（修士（博士前期）課程・社会科学関係、複数回答）



図表 75　仕事をする上で、特に強く求められていると考える能力等と大学院教育を通じて身についたと考えることとの関係（博士後期課程・人文科学関係、複数回答）



図表 76　仕事をする上で、特に強く求められていると考える能力等と大学院教育を通じて身についたと考えることとの関係（博士後期課程・社会科学関係、複数回答）

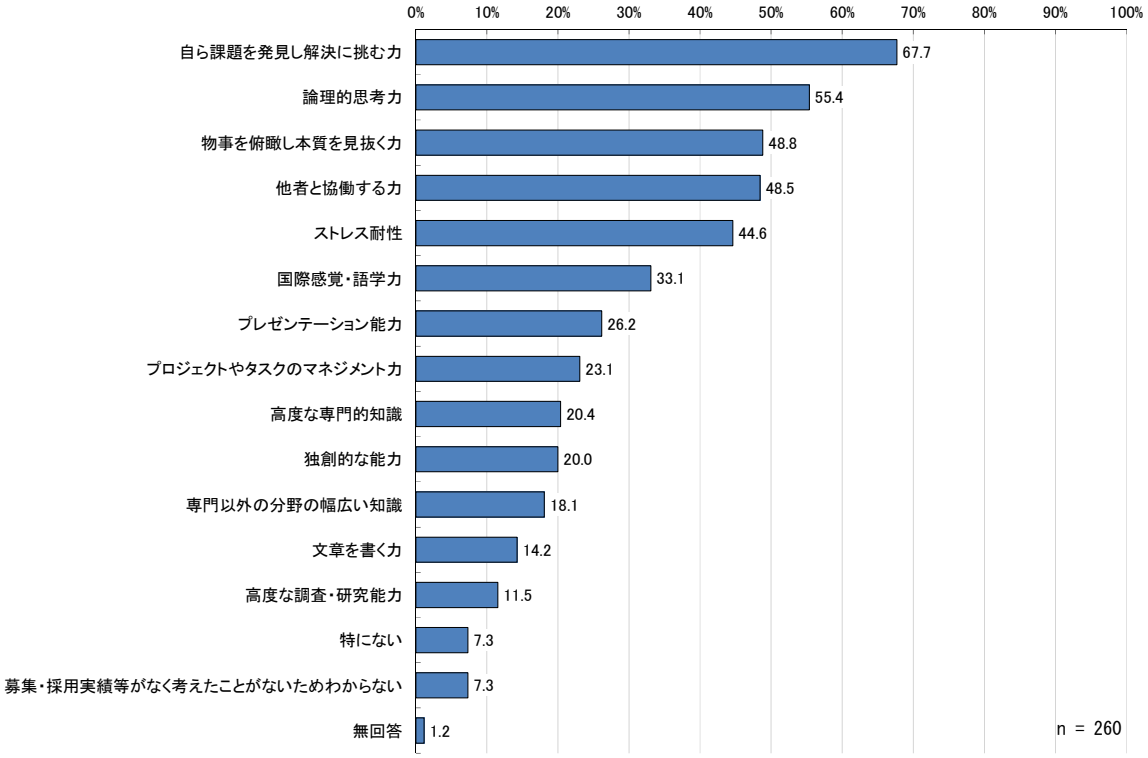


③企業からの認識・評価

「企業向け調査」の結果から、知識・技能等について、「文系の大学院生に関し、特に高い水準で期待すること」についての回答を見ると（図表 77）、最も回答割合が高かったのは、「自ら課題を発見し解決に挑む力」で 67.7%であった。次いで、「論理的思考力」（55.4%）、「物事を俯瞰し本質を見抜く力」（48.8%）、「他者と協働する力」（48.5%）、「ストレス耐性」（44.6%）の回答割合が高くなっている。他方で、「高度な調査・研究能力」（11.5%）、「文章を書く力」（14.2%）についての回答割合は低くなっている。

これらについて、修了者が「仕事をする上で、特に強く求められていると考える能力等」と回答した内容（図表 70）と対比して見ると、それぞれ、回答割合の多寡やその割合の高さの順番等の違いはあるものの、回答割合が高かった上位 5 項目は同一であり、企業側からの回答と、修了者が認識していることとがある程度一致していることがうかがえる。

図表 77　文系の大学院生に関して特に高い水準で期待すること（企業の回答、複数回答）



④大学院研究科で重視されていること

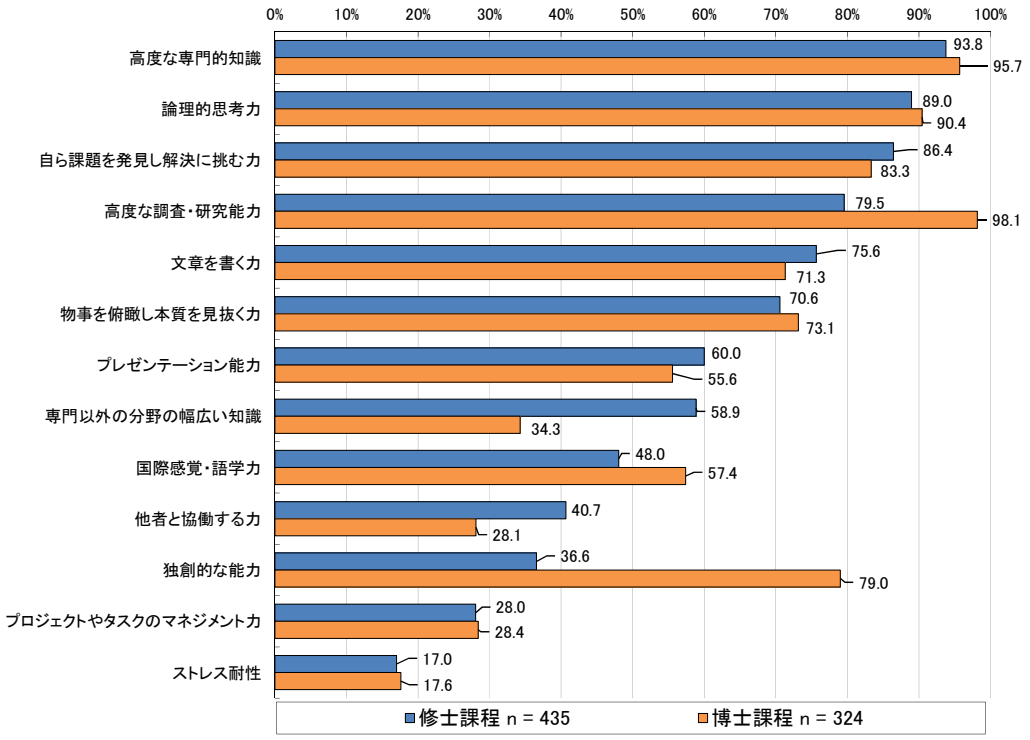
「大学院向け調査」の結果から、各研究科において、学生にどのような知識・技能を身に付けさせることを重視しているかをたずねた回答を見ると（図表 78）、「修士課程」に関しては、「高度な専門的知識」（93.8%）が最も高く、「博士課程」に関しては、「高度な調査・研究能力」（98.1%）が最も高くなっており、回答結果に若干の違いが見られる。なお、「高度な専門知識」「論理的思考力」「自ら課題を発見し解決に挑む力」の 3 点については、「修士課程」「博士課程」ともに回答割合が 8 割以上となっている。他方で、「ストレス耐性」「プロジェクトやタスクのマネジメント力」「他者と協働する力」については、「修士課程」「博士課程」ともに回答割合が相対的に低くなっている。

「修士課程」と「博士課程」とで回答割合に比較的大きな差が見られた点として、「独創的な能力」については、「博士課程」に関して回答割合が高くなっている。他方で、「専門以外の分野の幅広い知識」については、「修士課程」についての回答割合が高くなっている。このほか、「他者と協働する力」についても、「修士課程」について回答割合が 10 ポイント以上高くなっていることが見て取れる。

これらの回答について、研究科の学校基本調査上の分類別に見ると（図表 79、図表 80）、「修士課程」「博士課程」ともに、「物事を俯瞰し本質を見抜く力」「国際感覚・語学力」「他者と協働する力」「文章を書く力」等について、「人文科学」の研究科のほうが、「社会科学」の研究科と比較すると、回答割合が高くなっている。

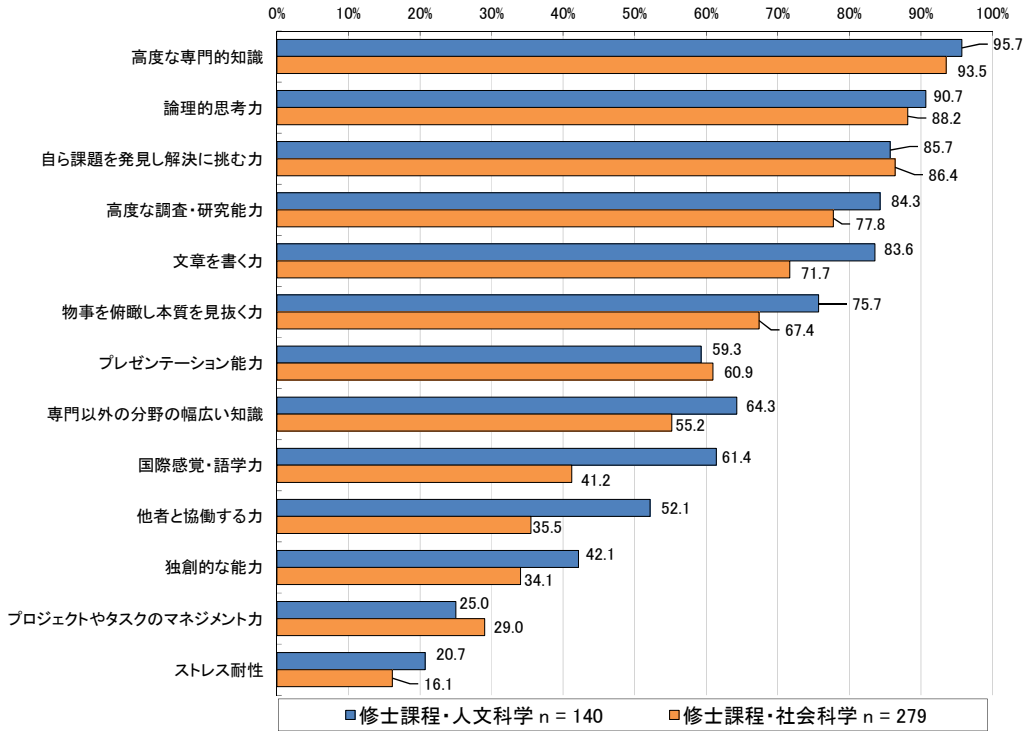
なお、このような回答の結果について、修了者の回答（図表 71）と対比してみると、大学院が「重視している」と回答した割合が高かった／低かった項目は、修了者が「大学院教育を通じて身に付いたと考える能力等」として回答した割合高かった／低かった項目と、ある程度対応していることがうかがえる。

図表 78　学生に身に付けさせることを重視している知識・技能（複数回答）



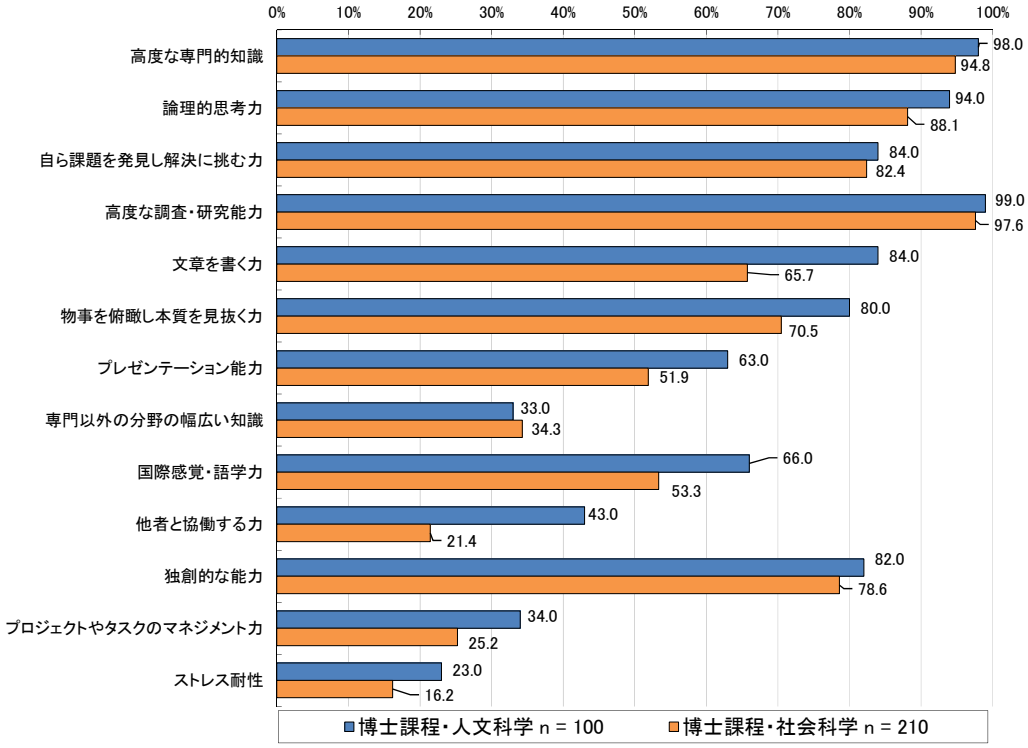
※「修士課程」についての回答割合が高かった順に掲載した。

図表 79　専門分野別、学生に身に付けさせることを重視している知識・技能（修士課程、複数回答）



※研究科の学校基本調査上の分類について「その他」ならびに「無回答」であった研究科については、度数が少ないことから、ここでの集計では対象外とした。

図表 80　専門分野別、学生に身に付けさせることを重視している知識・技能（博士課程、複数回答）



※研究科の学校基本調査上の分類について「その他」ならびに「無回答」であった研究科については、度数が少ないことから、ここでの集計では対象外とした。

⑤求められている能力と身に付けられる能力との関係性の整理

修了者向け調査から、「仕事をする上で特に強く求められていると考える能力」について、また、企業向け調査から、「文系の大学院生に関して特に高い水準で期待すること」に関して、回答割合が高かった上位 5 項目を整理した（図表 81）。これらに関して、それぞれ順番の違いはあるが、企業から期待されていることと、修了者自身が強く求められていると考えることについて、上位に挙げられる項目はある程度共通していることが確認できる。

また、修了者向け調査から、「大学院教育を通じて身に付いたと考える能力等」と、大学院向け調査から、「学生に身に付けされることを重視している知識・技能」について、回答割合が相対的に高かった項目を整理すると（図表 82）、企業が「期待している」と回答した割合が高かった項目のうち、「自ら課題を発見し解決に挑む力」「論理的思考力」については、大学院として身に付けさせることを重視していると回答された割合が高く、また、修了者自身としても大学院教育を通じて身に付いたと考える者の割合が高くなっている。

他方で、回答割合が相対的に低かった項目を整理すると（図表 83）、企業が期待していると回答割合が高かった項目のうち、「他者と協働する力」や「ストレス耐性」に関しては、大学院として身に付けさせることを重視していると回答された割合が低く、また、修了者自身としても大学院教育を通じて身に付いたと考える者の割合が低いという関係性にあることが確認できる。

図表 81　仕事をする上で特に強く求められていると考える能力（修了者向け調査）と文系の大学院生に関して特に高い水準で期待すること（企業向け調査）の回答割合上位 5 項目

		1	2	3	4	5
修了者	修士・人文科学	他者と協働する力	自ら課題を発見し解決に挑む力	ストレス耐性	物事を俯瞰し本質を見抜く力	論理的思考力
	修士・社会科学	他者と協働する力	自ら課題を発見し解決に挑む力	ストレス耐性	物事を俯瞰し本質を見抜く力	論理的思考力
	博士・人文科学	他者と協働する力	論理的思考力 高度な専門的知識		ストレス耐性	自ら課題を発見し解決に挑む力
	博士・社会科学	高度な専門的知識	論理的思考力	プレゼンテーション能力	自ら課題を発見し解決に挑む力	他者と協働する力
企業		自ら課題を発見し解決に挑む力	論理的思考力	物事を俯瞰し本質を見抜く力	他者と協働する力	ストレス耐性

図表 82　大学院教育を通じて身に付いたと考える能力等（修了者向け調査）と学生に身に付けさせることを重視している知識・技能（大学院向け調査）の回答割合上位 5 項目

		1	2	3	4	5
修了者	修士・人文科学	文章を書く力	高度な専門的知識	論理的思考力	高度な調査・研究能力	自ら課題を発見し解決に挑む力
	修士・社会科学	論理的思考力	高度な専門的知識	文章を書く力	高度な調査・研究能力	自ら課題を発見し解決に挑む力
	博士・人文科学	高度な調査・研究能力	高度な専門的知識	論理的思考力	文章を書く力	自ら課題を発見し解決に挑む力
	博士・社会科学	高度な調査・研究能力	高度な専門的知識	文章を書く力	論理的思考力	自ら課題を発見し解決に挑む力
大学院	修士・人文科学	高度な専門的知識	論理的思考力	自ら課題を発見し解決に挑む力	高度な調査・研究能力	物事を俯瞰し本質を見抜く力
	修士・社会科学	高度な専門的知識	論理的思考力	自ら課題を発見し解決に挑む力	高度な調査・研究能力	物事を俯瞰し本質を見抜く力
	博士・人文科学	高度な調査・研究能力	高度な専門的知識	論理的思考力	自ら課題を発見し解決に挑む力 文章を書く力	
	博士・社会科学	高度な調査・研究能力	高度な専門的知識	論理的思考力	物事を俯瞰し本質を見抜く力	独創的な能力

図表 83　大学院教育を通じて身に付いたと考える能力等（修了者向け調査）と学生に身に付けさせることを重視している知識・技能（大学院向け調査）の回答割合下位 5 項目

		1	2	3	4	5
修了者	修士・人文科学	プロジェクトやタスクのマネジメント力	他者と協働する力	独創的な能力	専門以外の分野の幅広い知識	国際感覚・語学力
	修士・社会科学	プロジェクトやタスクのマネジメント力	他者と協働する力	独創的な能力	ストレス耐性	国際感覚・語学力
	博士・人文科学	プロジェクトやタスクのマネジメント力	他者と協働する力	専門以外の分野の幅広い知識	ストレス耐性	独創的な能力
	博士・社会科学	プロジェクトやタスクのマネジメント力	他者と協働する力	専門以外の分野の幅広い知識	国際感覚・語学力	ストレス耐性
大学院	修士・人文科学	ストレス耐性	プロジェクトやタスクのマネジメント力	独創的な能力	他者と協働する力	国際感覚・語学力
	修士・社会科学	ストレス耐性	プロジェクトやタスクのマネジメント力	独創的な能力	他者と協働する力	国際感覚・語学力
	博士・人文科学	ストレス耐性	専門以外の分野の幅広い知識	プロジェクトやタスクのマネジメント力	他者と協働する力	プレゼンテーション能力
	博士・社会科学	ストレス耐性	他者と協働する力	プロジェクトやタスクのマネジメント力	専門以外の分野の幅広い知識	プレゼンテーション能力

（２）大学院で実施されていることと今後充実が求められていることとの関係性に関する分析

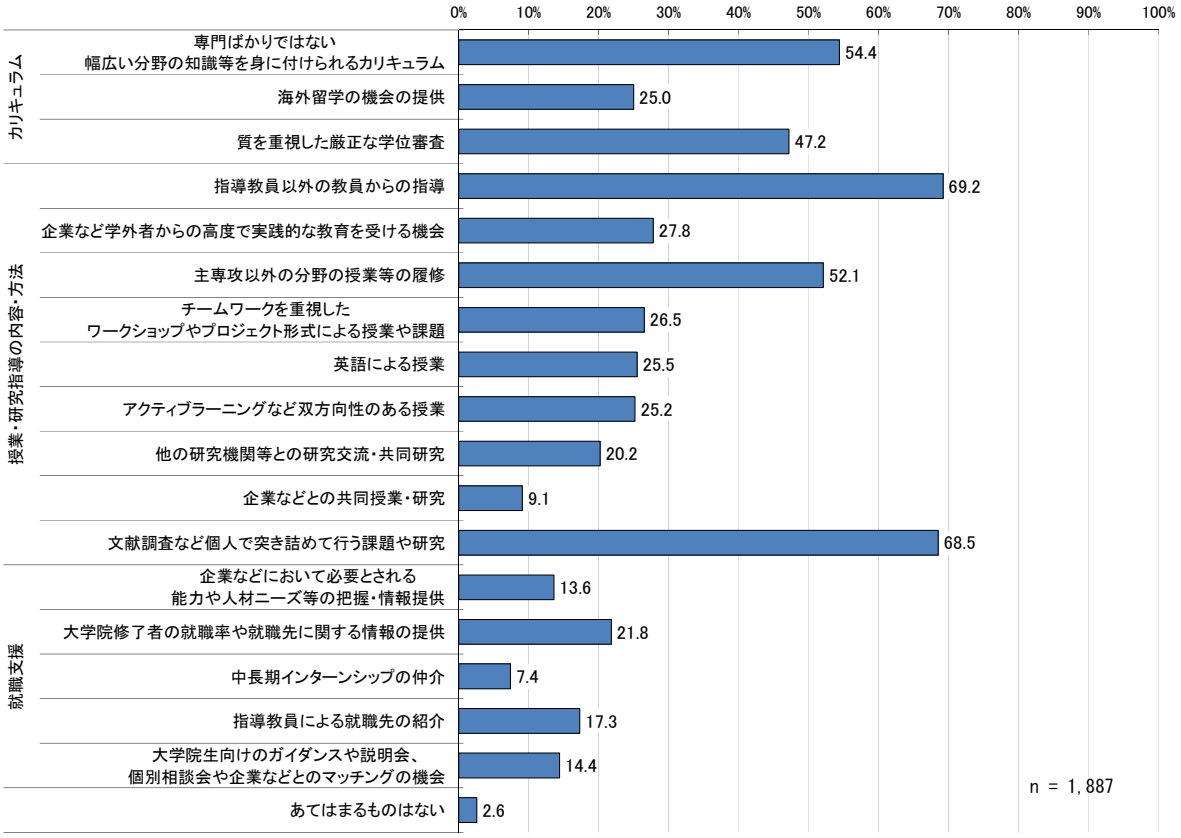
①修了者からの認識・要望

「修了者向け調査」から、カリキュラムの内容等に関して、修了した大学院・研究科において「実施・提供されていたこと」に関する回答結果を見ると、「指導教員以外の教員からの指導」が 69.2%と最も回答割合が高く、次いで「文献調査など個人で突き詰めて行う課題や研究」が 68.5%となっている（図表 84）。このほか、「専門ばかりではない幅広い分野の知識等を身に付けられるカリキュラム」「主専攻以外の分野の授業等の履修」「質を重視した厳正な学位審査」については、5 割前後の回答となっているが、その他の項目に対する回答は 3 割未満であり、特に「企業などとの共同授業・研究」や「中長期インターンシップの仲介」については回答割合が 1 割未満となっている。

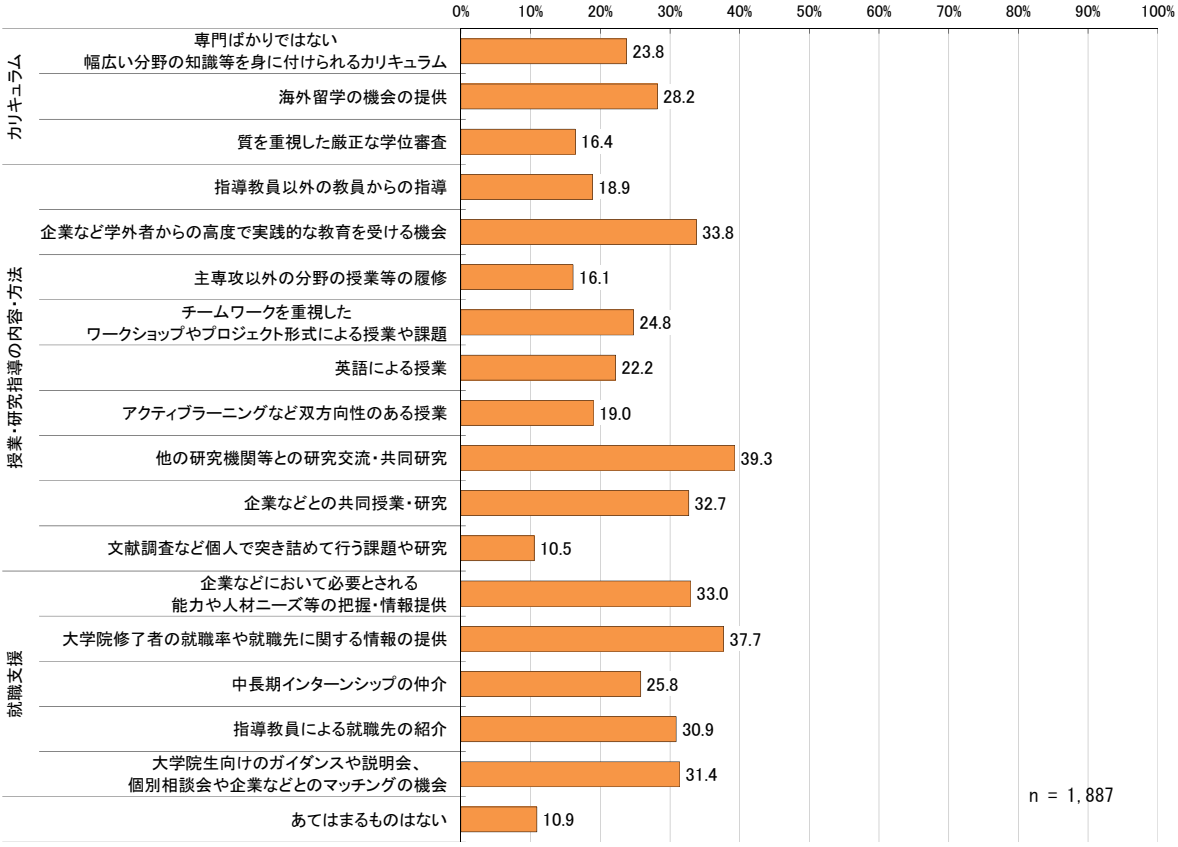
これに対し、「もっと充実していてほしかったと考えること」に関する回答結果を見ると、「他の研究機関等との研究交流・共同研究」が 39.3%と回答割合が最も高く、次いで「大学院修了者の就職率や就職先に関する情報の提供」が 37.7%となっている（図表 85）。「就職支援」に関する内容には、「中長期インターンシップの仲介」以外はいずれも 3 割以上の回答が集まっていることがわかる。

また、これらの回答を対比させて見ると（図表 86）、「実施・提供されていたこと」の回答割合よりも「もっと充実していてほしかったと考えること」の回答割合のほうが高かった項目として、「カリキュラム」に関しては「海外留学の機会の提供」、「授業・研修指導の内容・方法」に関しては「企業など学外者からの高度で実践的な教育を受ける機会」、「他の研究機関等との研究交流・共同研究」、「企業などとの共同授業・研究」が挙げられる。また、「就職支援」に関する内容については、いずれも「実施・提供されていたこと」の回答割合よりも「もっと充実していてほしかったと考えること」の回答割合のほうが高くなっていることが見て取れる。

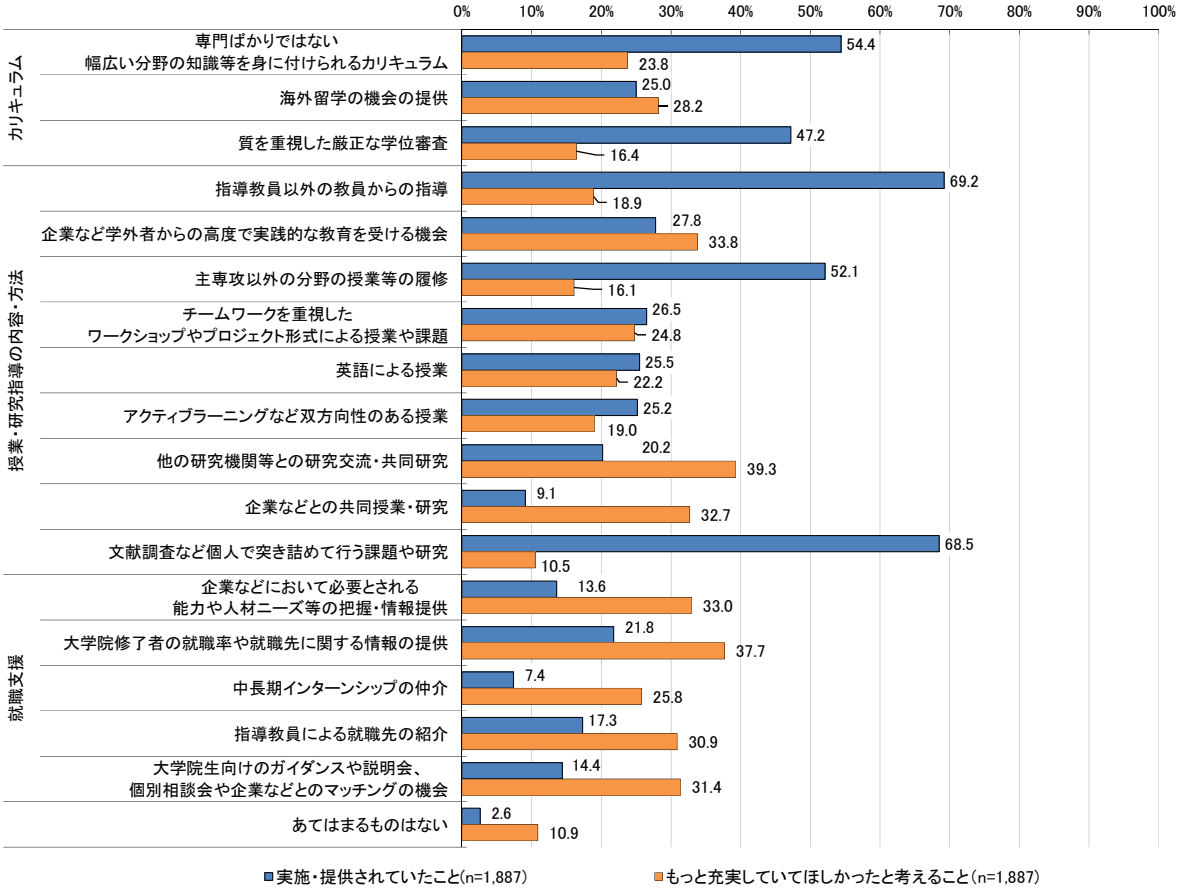
図表 84　修了した大学院・研究科において実施・提供されていたこと（複数回答）



図表 85　大学院・研究科においてもっと充実していてほしかったと考えること（複数回答）



図表 86　修了した大学院・研究科において実施・提供されていたことと
もっと充実していてほしかったと考えることとの対応関係（それぞれ複数回答）

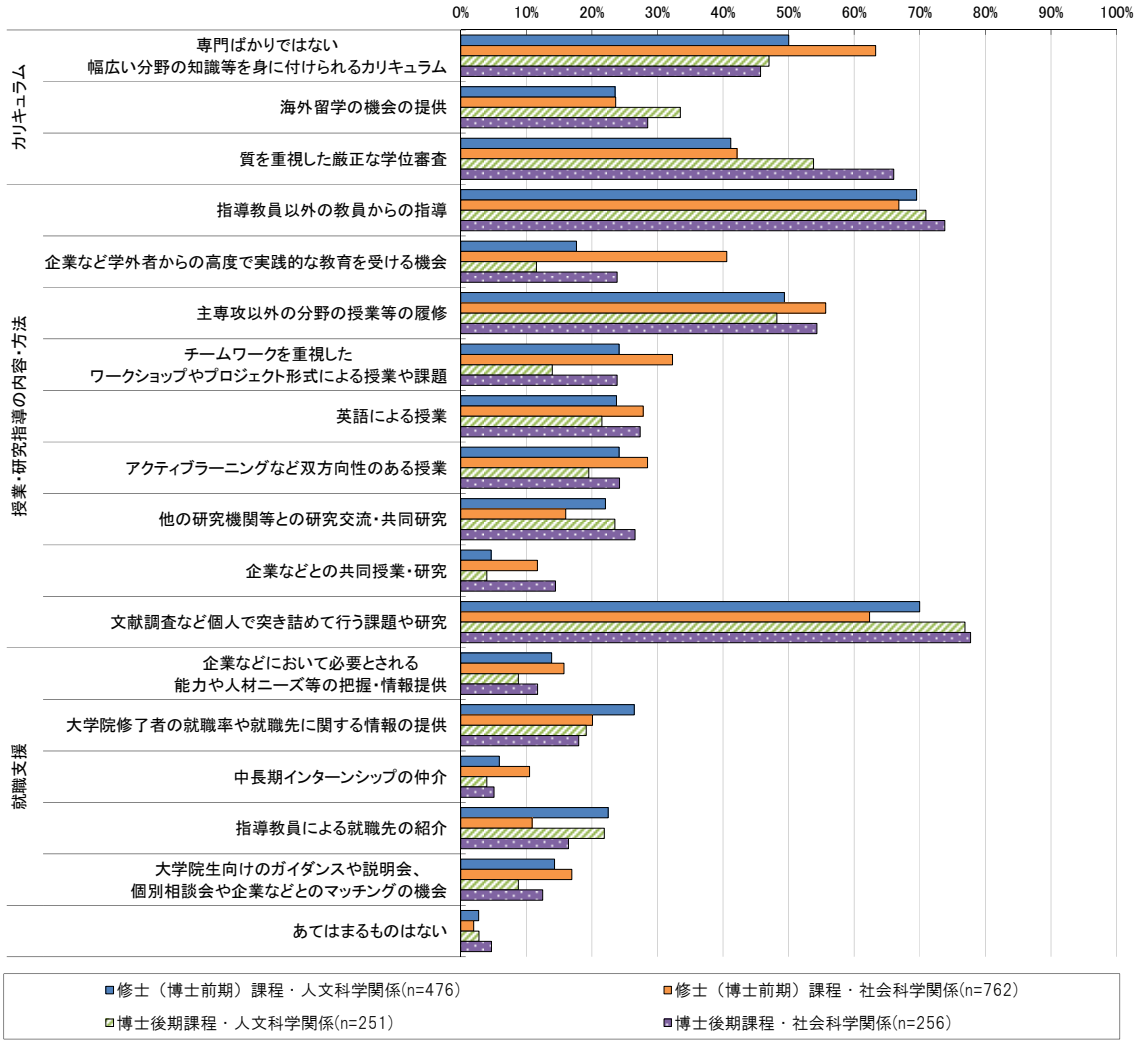


②修了者からの認識・要望（課程・専門分野別の回答）

修了した大学院・研究科において「実施・提供されていたこと」、または「もっと充実していてほしかったと考えること」に関して、課程・専門分野別に見ると（図表 87、図表 88）、「実施・提供されていたこと」に関しては、例えば、「専門ばかりではない幅広い分野の知識等を身に付けられるカリキュラム」や「企業など学外者からの高度で実践的な教育を受ける機会」「チームワークを重視したワークショップやプロジェクト形式による授業や課題」等について、「修士課程・社会科学関係」において回答割合が高くなっていることがわかる。

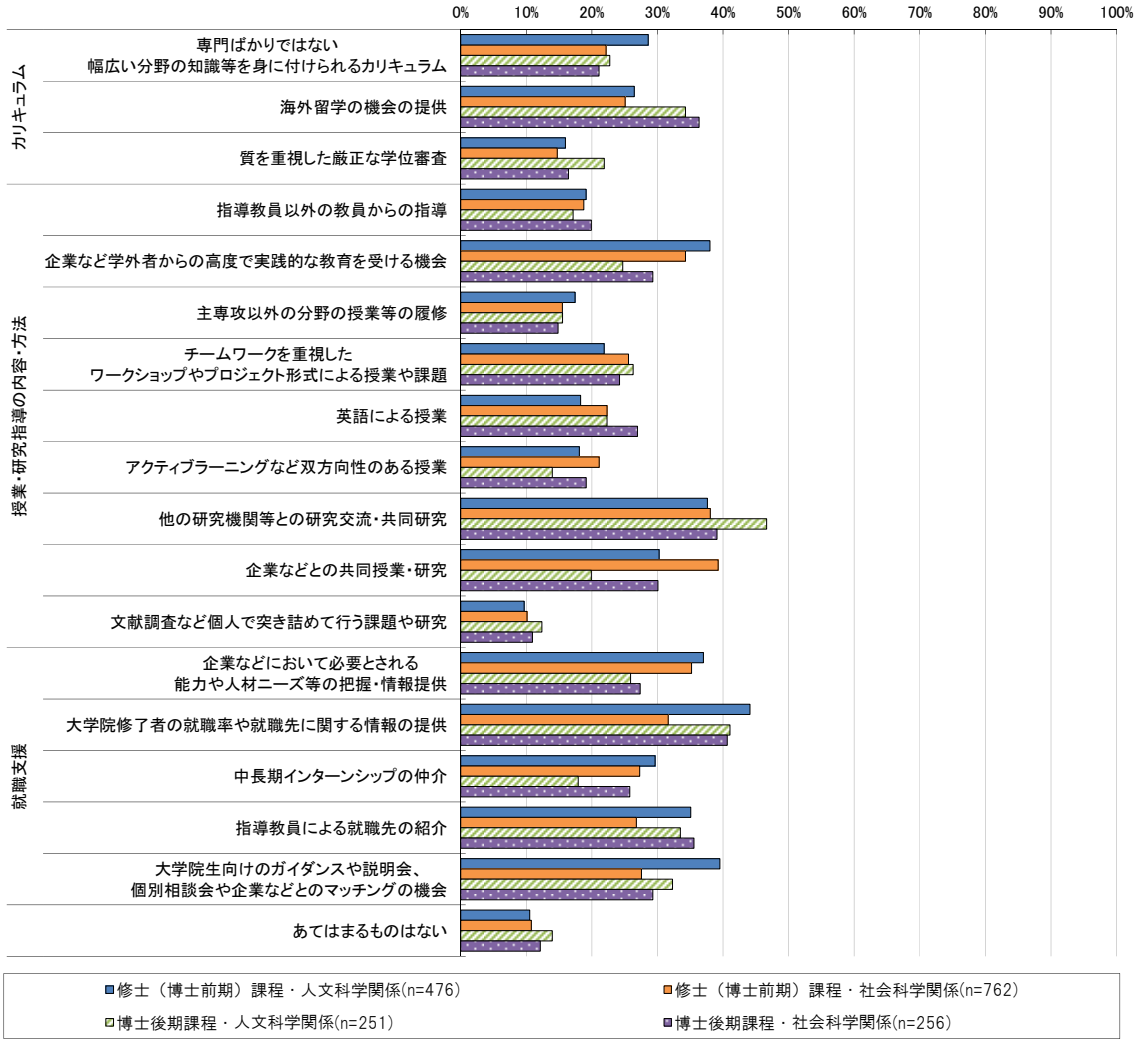
「もっと充実していてほしかったと考えること」については、例えば、「企業など学外者からの高度で実践的な教育を受ける機会」や「企業などにおいて必要とされる能力や人材ニーズ等の把握・情報提供」に関して、「博士後期課程」修了者よりも、「修士（博士前期）課程」修了者において回答割合が高くなっていることがわかる。

図表 87　課程・専門分野別、修了した大学院・研究科において実施・提供されていたこと（複数回答）



※課程について「5 年一貫博士課程」ならびに、専門分野について「その他」の者については、度数が少ないことから、ここでの集計では対象外とした。

図表 88　課程・専門分野別、大学院・研究科においてもっと充実していてほしかったこと（複数回答）



※課程について「5 年一貫博士課程」ならびに、専門分野について「その他」の者については、度数が少ないことから、ここでの集計では対象外とした。

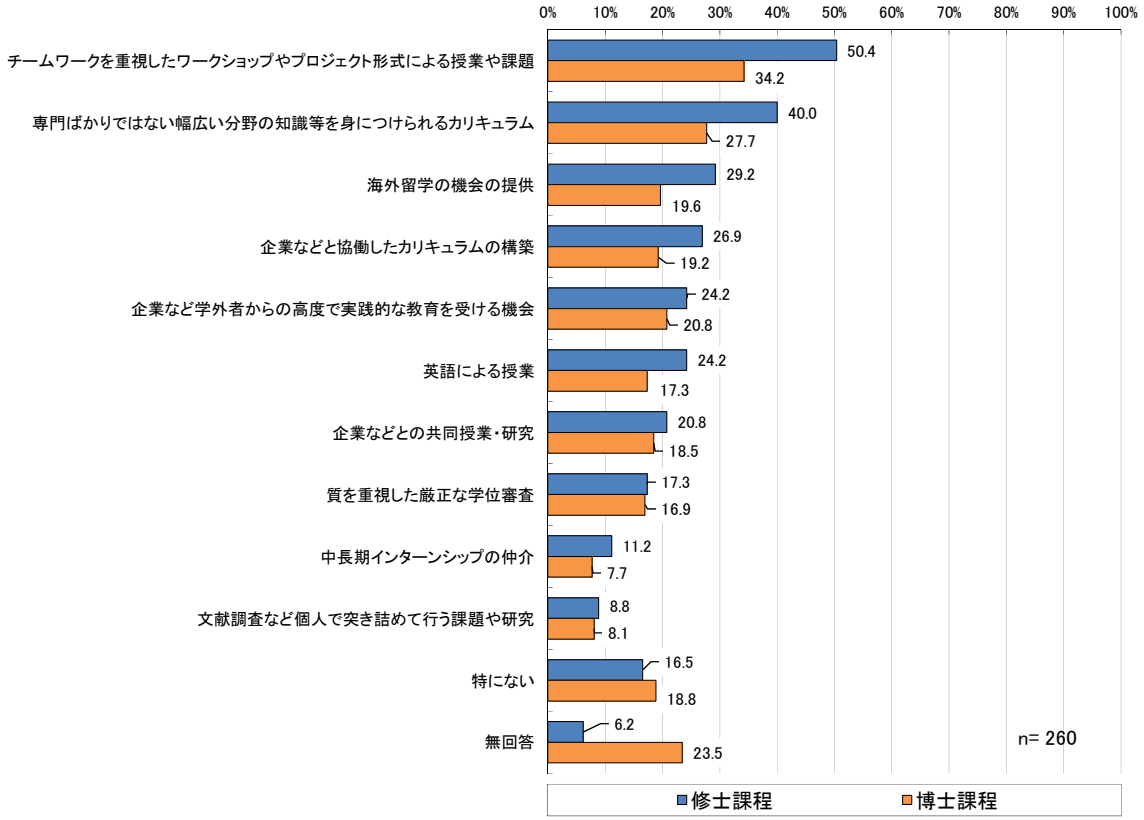
③企業からの認識

「企業向け調査」において、企業側の視点から、今後文系の大学院において実施・充実したほうがよいと思われることについてたずねたところ、修士課程・博士課程のそれぞれについて、回答結果は図表 89 のようになった。

まず、回答割合が高かった項目に着目すると、「修士課程」「博士課程」ともに、「チームワークを重視したワークショップやプロジェクト形式による授業や課題」が最も回答割合が高くなっている。また、次いで、「専門ばかりでない幅広い分野の知識等を身に付けられるカリキュラム」への回答割合が高いという点も、「修士課程」「博士課程」に共通して見られる。

なお、「修士課程」と「博士課程」の回答結果を比較すると、いずれの項目についても、「修士課程」に関する回答割合が高くなっており、「博士課程」に関しては、「特にない」あるいは「無回答」であった割合が比較的高くなっている。

図表 89　企業の立場から、今後文系の大学院において実施・充実したほうがよいと思われること（複数回答）



※「修士課程」についての回答割合が高かった順に掲載した。

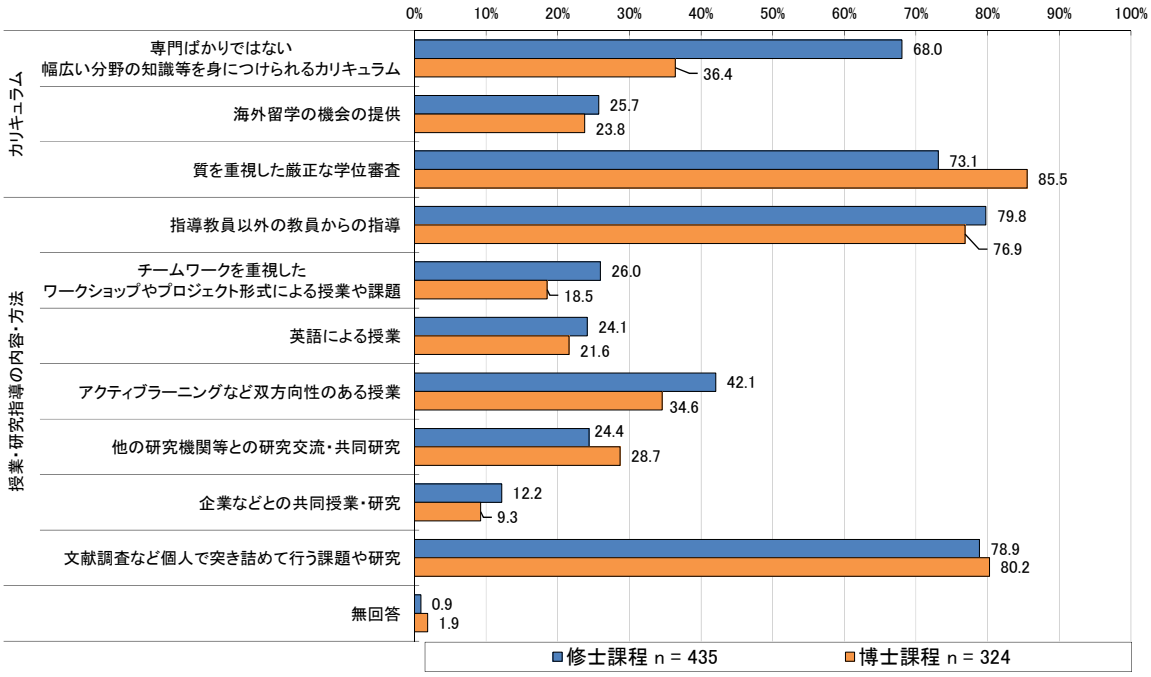
④大学院研究科における現状と課題認識

「大学院向け調査」の結果から、現在大学院で「実施・提供していること」に関する回答を見ると（図表 90）、「修士課程」「博士課程」ともに、「質を重視した厳正な学位審査」「指導教員以外の教員からの指導」「文献調査など個人で突き詰めて行う課題や研究」について、回答割合は 7 割以上となっている。「修士課程」と「博士課程」を比較すると、「専門ばかりではない幅広い分野の知識等を身に付けられるカリキュラム」については、「修士課程」で実施・提供されているとの回答割合が高くなっている。

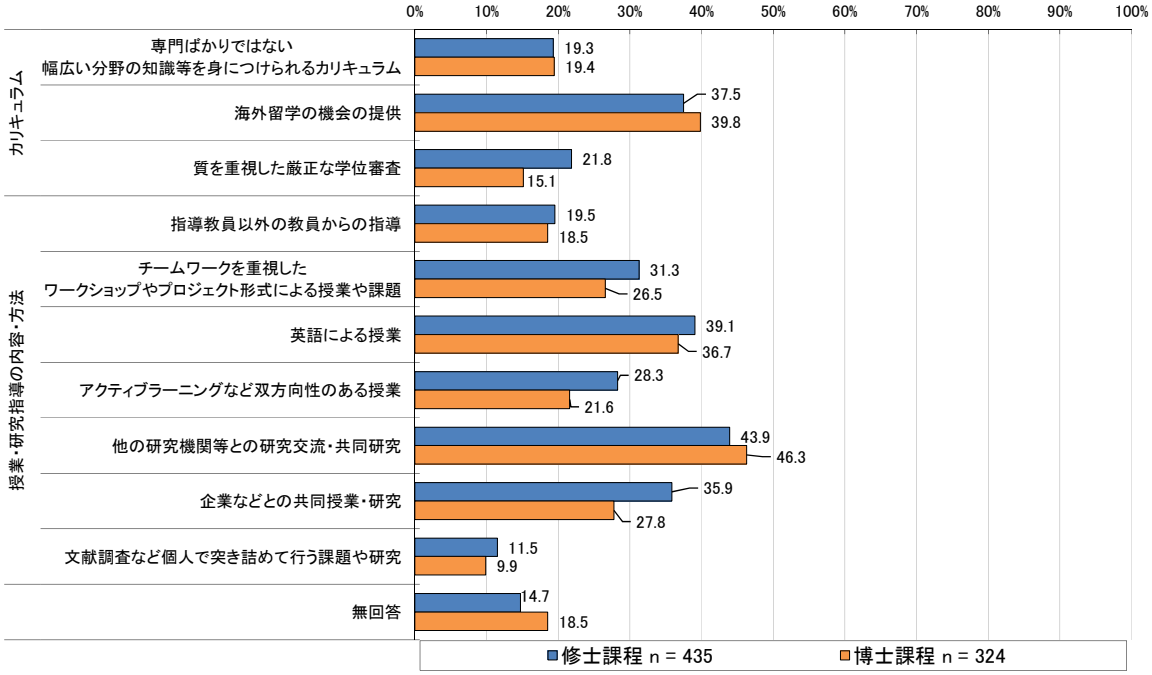
他方、同一の項目で「今後実施・充実が必要と考えること」についてたずねた設問に対する回答を見ると（図表 91）、「修士課程」「博士課程」ともに、「他の研究機関等との研究交流・共同研究」について回答割合が最も高くなっており、それぞれ 4 割以上の回答となっている。なお、この点については、修了者が「もっと充実していてほしかったと考えること」としても、回答割合が最も高くなっている（図表 85）。

また、「海外留学機会の提供」「英語による授業」についても「修士課程」「博士課程」ともに 3 割以上の回答が集まっており、このほか、「チームワークを重視したワークショップやプロジェクト形式による授業や課題」「企業などとの共同授業・研究」については、「修士課程」について、回答割合が 3 割以上となっている。

図表 90　カリキュラム編成、授業・研究指導の内容・方法に関して、
「実施・提供していること」（大学院研究科の回答、複数回答）



図表 91　カリキュラム編成、授業・研究指導の内容・方法に関して、
「今後実施・充実が必要と考えること」（大学院研究科の回答、複数回答）

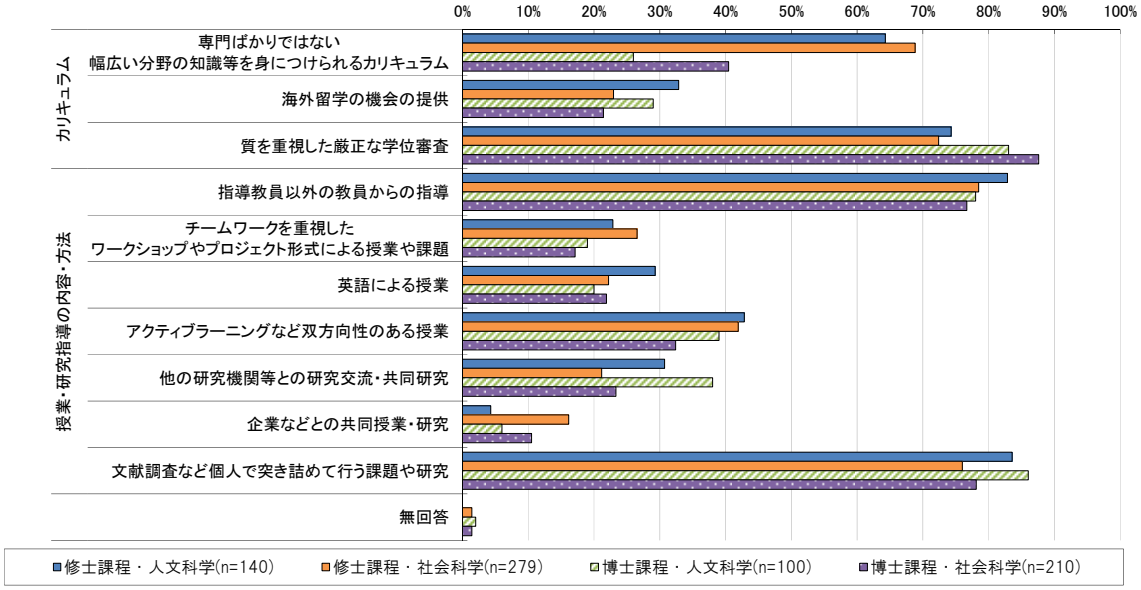


⑤大学院研究科における現状と課題認識（専門分野別）

現在大学院で「実施・提供していること」、ならびに、「今後実施・充実が必要と考えること」について、大学院研究科の学校基本調査上の分類別に見ると（図表 92、図表 93）、まず、「実施・提供していること」に関して、「企業などとの共同授業・研究」については、全体として回答割合が低い中で、「人文科学」よりも「社会科学」の研究科で実施・提供されている割合が若干高くなっていることがわかる。他方で、「海外留学の機会の提供」や「他の研究機関等との研究交流・共同研究」は、「人文科学」の研究科において実施・提供されている割合が比較的高くなっている。

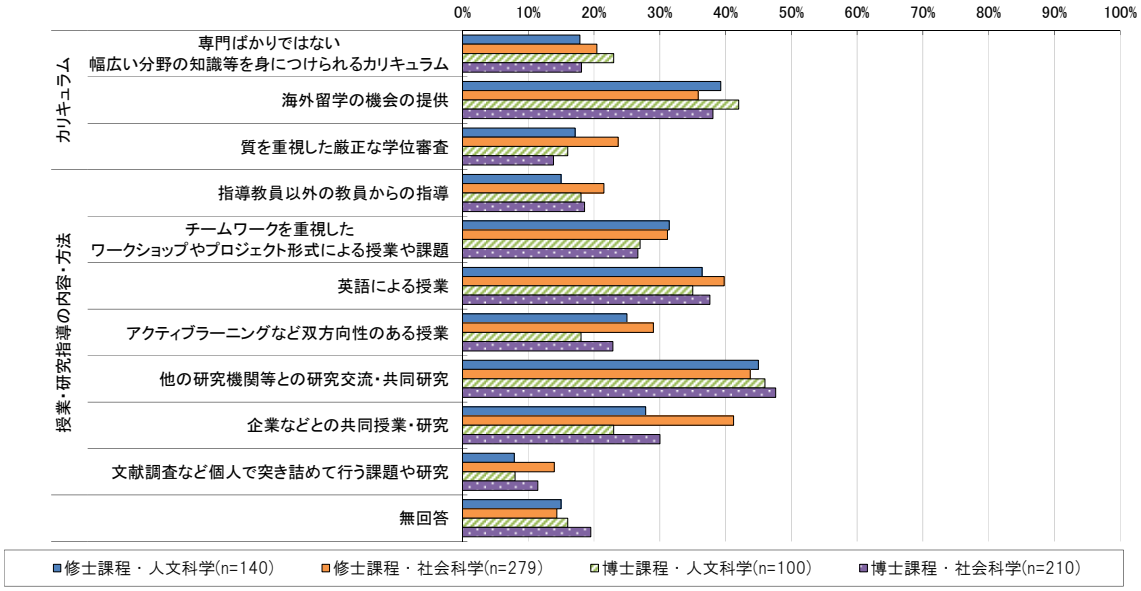
「今後実施・充実が必要と考えること」については、「企業などとの共同授業・研究」に関し、「人文科学」よりも「社会科学」の研究科で回答割合が高くなっていることなどが見て取れる。

図表 92　課程・専門分野別、「実施・提供していること」（複数回答）



※研究科の学校基本調査上の分類について「その他」ならびに「無回答」であった研究科については、度数が少ないことから、ここでの集計では対象外とした。

図表 93　課程・専門分野別、「今後実施・充実が必要と考えること」（複数回答）



※研究科の学校基本調査上の分類について「その他」ならびに「無回答」であった研究科については、度数が少ないことから、ここでの集計では対象外とした。

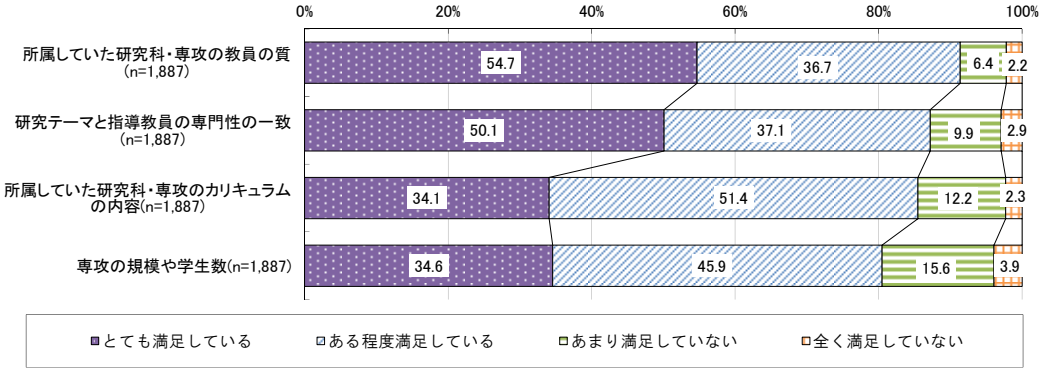
（３）修了者の満足度と大学院の教育内容等の関係性に関する分析

①教員の質やカリキュラム等に対する満足度

「修了者向け調査」で、「所属していた研究科・専攻の教員の質」「研究テーマと指導教員の専門性の一致」「所属していた研究科・専攻のカリキュラム」「専攻の規模や学生数」の 4 点に関する満足度をたずねた（図表 94）。

いずれについても、「とても満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合は 8 割以上となっているが、「所属していた研究科・専攻の教員の質」については「とても満足している」の割合が 5 割を超えており、これらの項目の中では特に満足度が高くなっている。他方で、「専攻の規模や学生数」に関しては、「あまり満足していない」「全く満足していない」の回答割合が比較的高くなっており、「教員の質」「研究テーマと指導教員の専門性の一致」という点に比べて、「カリキュラムの内容」「専攻の規模や学生数」に関しては、満足度が相対的に低くなっている。

図表 94　教員の質やカリキュラム等に関する満足度

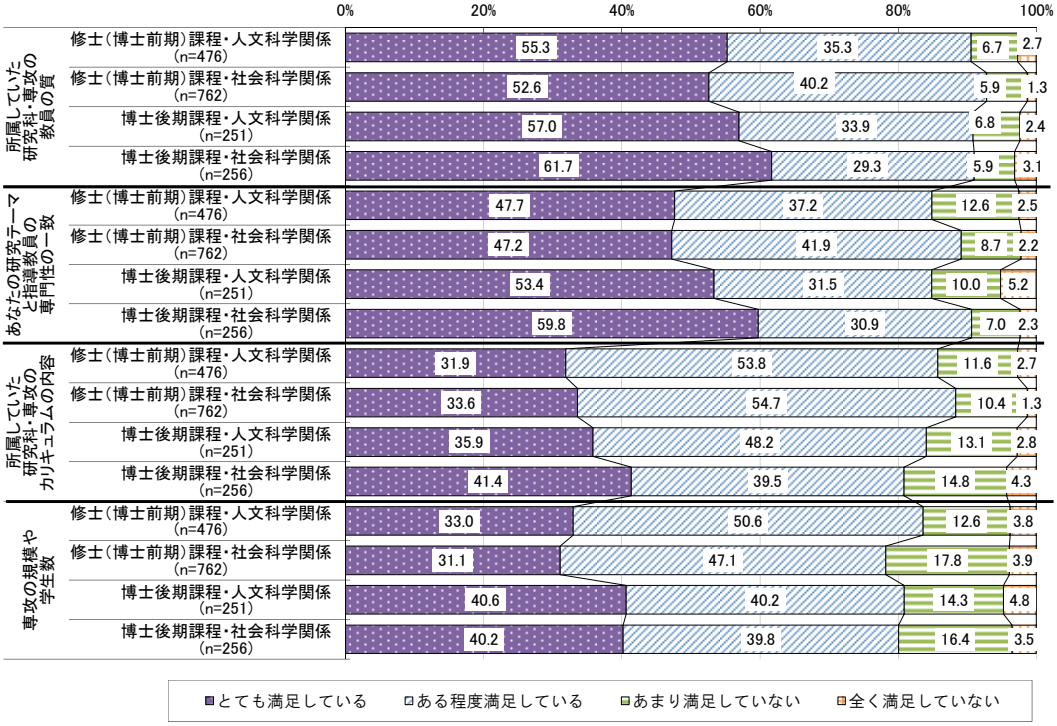


②教員の質やカリキュラム等に関する満足度（課程・専門分野別、設置主体別）

教員の質やカリキュラム等に関する満足度について、修了した課程・専門分野別に見ると（図表 95）、いずれの点についても、「修士（博士前期）課程」修了者よりも、「博士後期課程」修了者のほうが、「とても満足している」の回答割合が若干高くなっていることがわかる。ただし、「カリキュラムの内容」に関しては、「あまり満足していない」「全く満足していない」の割合の合計値について、「博士後期課程」修了者のほうが若干高くなっていることもわかる。

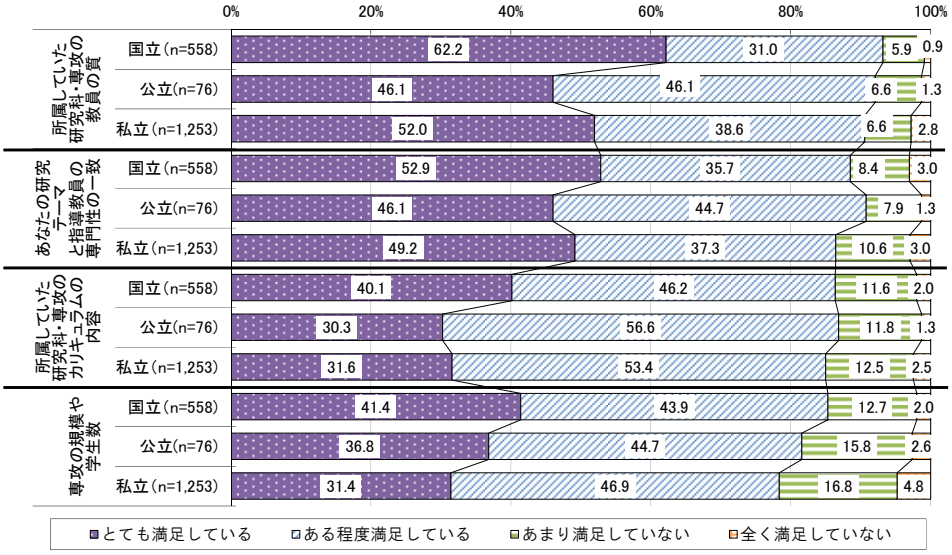
これらについて大学の設置主体別に見ると（図表 96）、いずれの点についても「国立」の大学院修了者のほうが「とても満足している」の回答割合が高くなっている。なお、「専攻の規模や学生数」に関しては、「私立」の大学院修了者において「とても満足している」の割合が最も低くなっている。

図表 95　課程・専門分野別、教員の質やカリキュラム等に関する満足度



※課程について「5 年一貫博士課程」ならびに、専門分野について「その他」の者については、度数が少ないことから、ここでの集計では対象外とした。

図表 96　設置主体別、教員の質やカリキュラム等に関する満足度



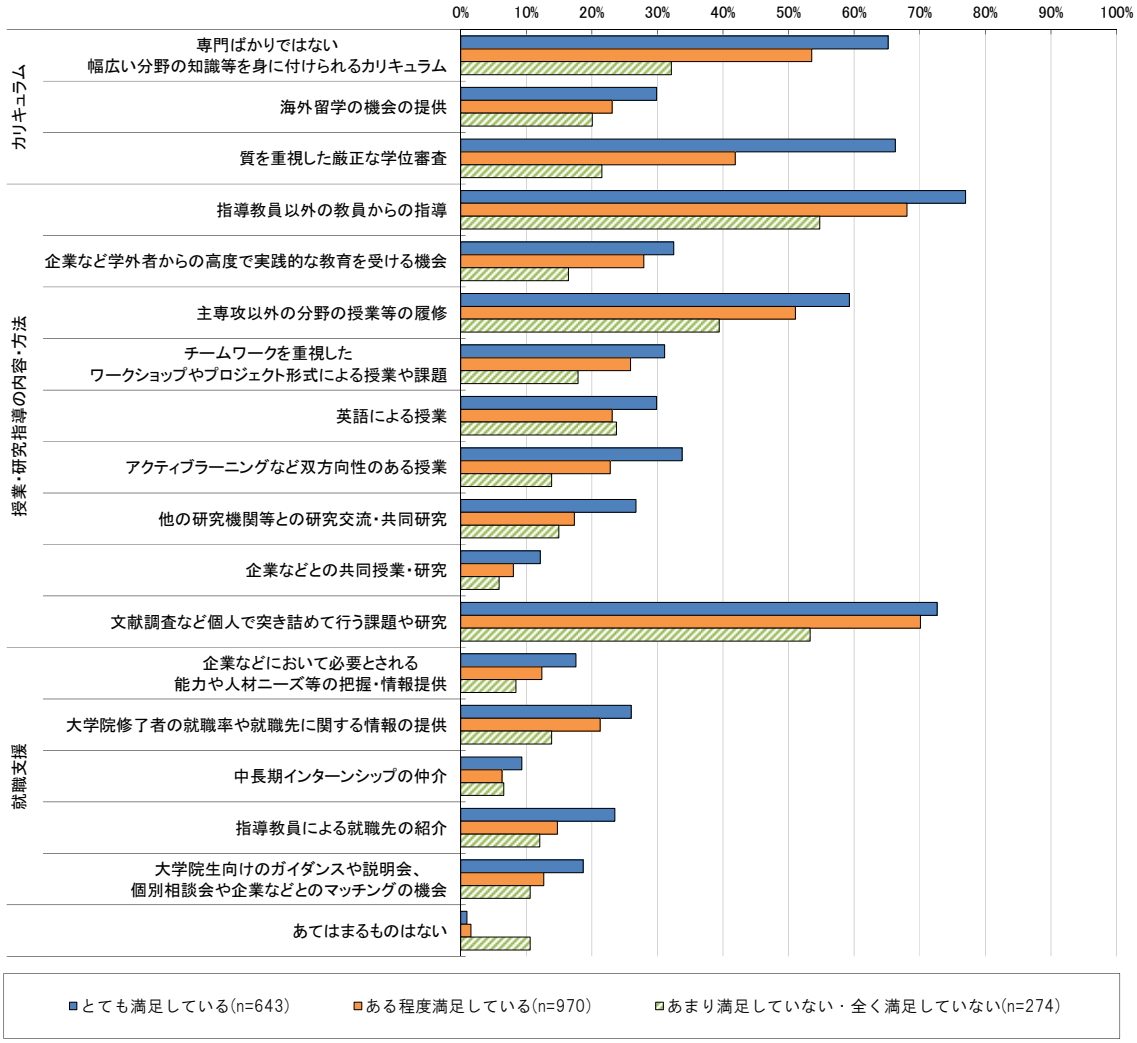
③カリキュラムの内容に関する満足度と求められる教育内容等との関係性

「所属していた研究科・専攻のカリキュラム」に関する満足度の回答別に、修了者を「とても満足している」「ある程度満足している」「あまり満足していない・全く満足していない」の 3 群に分類し、修了した大学院・研究科において「実施・提供されていたこと」「もっと充実していてほしかったと考えること」のそれぞれの回答状況について把握した。

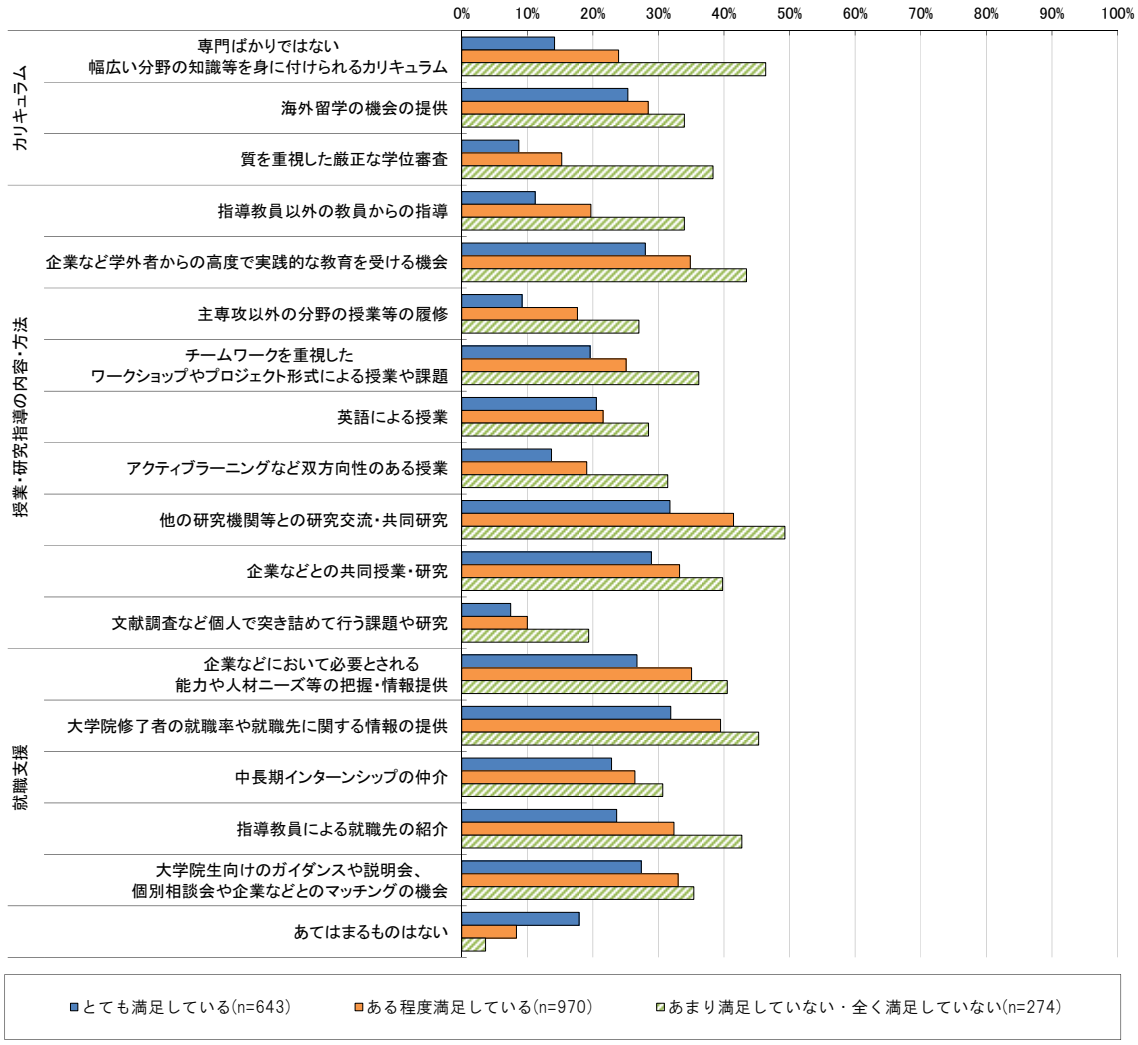
まず、「実施・提供されていたこと」について見ると（図表 97）、カリキュラムに関する満足度について「とても満足している」と回答した者については、いずれの項目に関しても「実施・提供されていた」との回答割合が高くなっているが、特に「専門ばかりではない幅広い分野の知識等を身に付けられるカリキュラム」や「質を重視した厳正な学位審査」に関して、「あまり満足していない・全く満足していない」と回答した者との差が大きくなっていることがわかる。

また、「もっと充実していてほしかったと考えること」についての回答を見ると（図表 98）、いずれの項目に関しても「あまり満足していない・全く満足していない」と回答した者で回答割合が高くなっている。そのなかでも、「専門ばかりではない幅広い分野の知識等を身に付けられるカリキュラム」や「質を重視した厳正な学位審査」に関して、満足度別の回答割合の違いが大きいことが確認できる。

図表 97　「所属していた研究科・専攻のカリキュラム」に関する満足度別、大学院・研究科において「実施・提供されていたこと」（複数回答）



図表 98　「所属していた研究科・専攻のカリキュラム」に関する満足度別、大学院・研究科において「もっと充実していてほしかったこと」（複数回答）



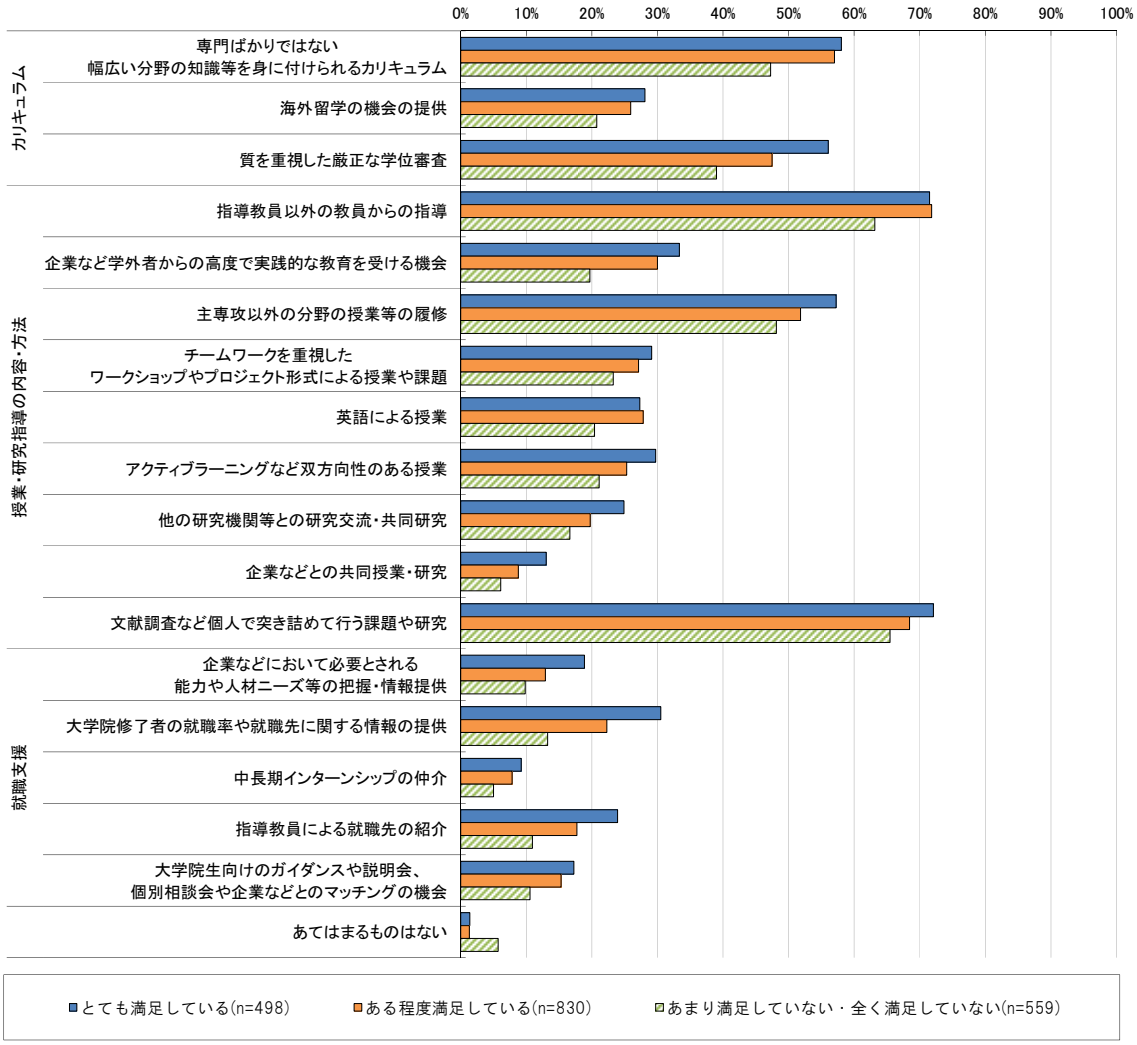
④修了後の進路や就職先に関する満足度と提供されていた教育内容等との関係性

「大学院修了後の進路や就職先」に関する満足度の回答別に、修了者を「とても満足している」「ある程度満足している」「あまり満足していない・全く満足していない」の 3 群に分類し、修了した大学院・研究科において「実施・提供されていたこと」「もっと充実していてほしかったと考えること」のそれぞれの回答状況について把握した。

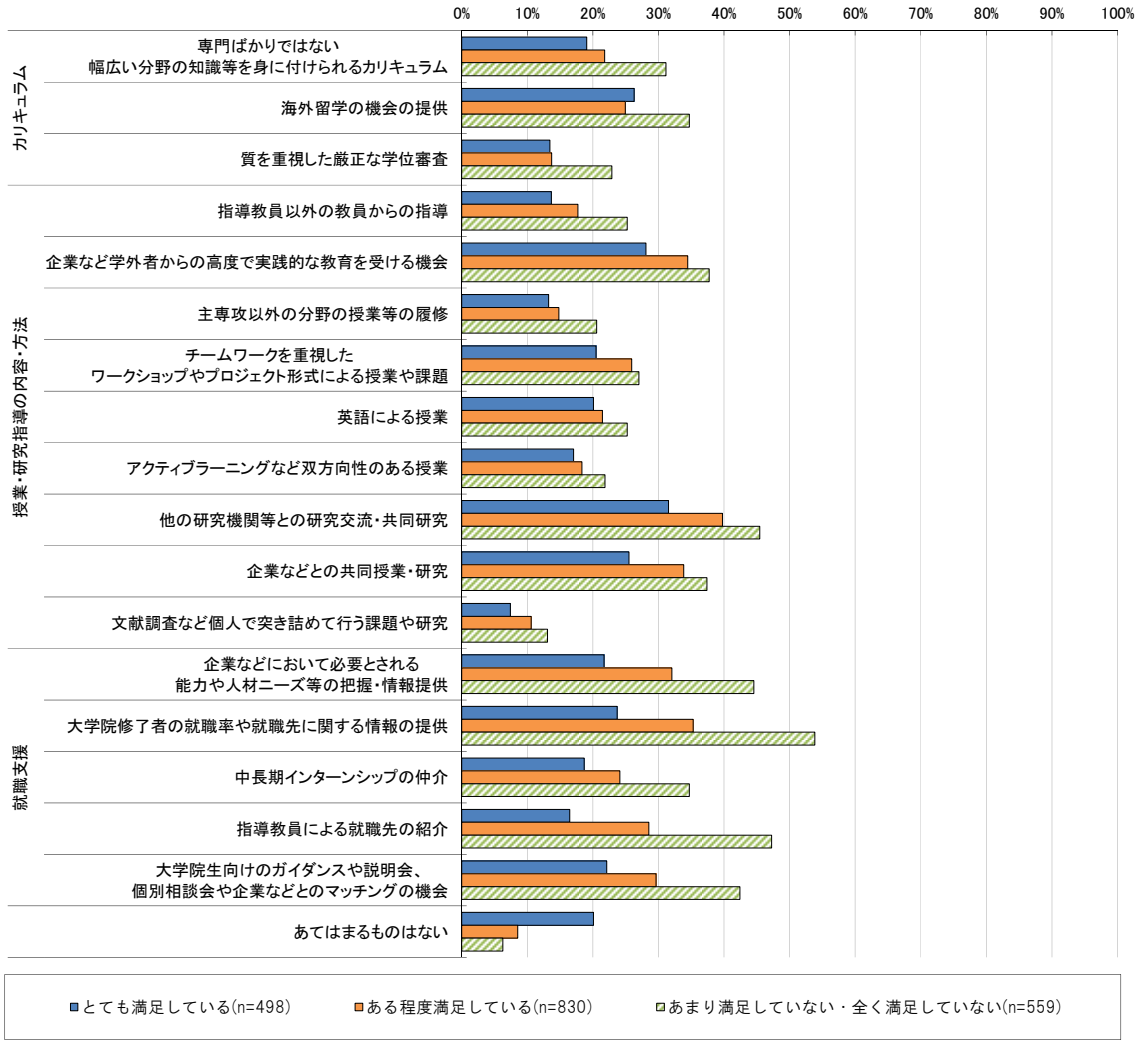
「実施・提供されていたこと」について見ると（図表 99）、修了後の進路や就職先について「とても満足している」と回答した者については、「実施・提供されていた」との回答割合が高くなっている項目が多いことがわかるが、カリキュラムに関する満足度別の集計（図表 97）と比べると、3 つの群の間の差が小さいことが見て取れる。

「もっと充実していてほしかったと考えること」についての回答を見ると（図表 100）、いずれの項目に関しても「あまり満足していない・全く満足していない」と回答した者で回答割合が高くなっている。なかでも、「就職支援」に関する回答割合の違いが比較的大きくなっていることがうかがえる。

図表 99　「大学院修了後の進路や就職先」に関する満足度別、
大学院・研究科において「実施・提供されていたこと」（複数回答）



図表 100　「大学院修了後の進路や就職先」に関する満足度別、
大学院・研究科において「もっと充実していてほしかったこと」（複数回答）



（４）就職状況等の改善のために必要と考えられることに関する分析

①修了者から改善が必要と考えられていること

修了者に対して、「人文・社会科学系の大学院修了者の就職状況等の改善のために必要と考えること、教育カリキュラムや研究指導のあり方等について大学に望むことや産業界などに望むこと等」についてたずねたところ、自由記述による回答で、「特になし」等の回答を除き 649 件の回答が得られた。これらの回答については、その回答内容に基づき分類し、次の図表 101 のように整理した[20]。

内容は多岐にわたっていることがわかるが、これらのうち、回答件数が最も多かったのは、「就職支援の充実・情報提供」に関するものであり、約 90 件の回答があった。この点に関しては、民間企業等に就職する者、研究者を目指す者それぞれに対して情報提供等の支援が求められていることがうかがえた。また、次いで「企業からの評価等の改善」に関する回答件数が多く、大学院修了者に対する偏見や先入観をなくし、積極的に採用するよう考え方の改善を求める意見が見られた。

なお、「教育カリキュラム・研究指導体制の改善」に関しては、企業との共同研究、産学連携の推進や、インターンシップ等を活発にさせるなど、連携・交流を推進させる方策を求める意見が比較的多く見られ、「実務に関連するカリキュラムの導入」に関する意見も含め、就職支援等を充実させるだけでなく、カリキュラムの構成としても、将来的な就職や社会での活躍を意識した教育・人材育成の取り組みを求める考え方があることが把握された。

また、「大学院制度等に関する要望」に関し、「入学定員・審査等の厳格化」として、大学院進学者をむやみに増やさないこと、質の向上のために審査等をより厳しいものにすること等についての意見も比較的多く見られた。このほか、他と比べて回答件数が多いわけではなかったが、「その他」として、就職等の支援よりも、研究機関としての機能向上、学習・研究環境の充実を求める声もあった。

図表 101　修了者が就職状況等の改善のために必要と考えること（自由記述）

分類	テーマ	回答内容（要約・抜粋）
就職状況の改善・キャリア形成に関する支援	就職支援・情報提供等の充実	■大学院学生向けの就職ガイダンス等があるとよい。 ■大学院に進学することのメリット・デメリットや修了後の就職の状況について事前に情報がほしい。 ■研究職ポストや企業からの求人に関する情報提供を充実してほしい。 ■指導教官による推薦等、就職先の紹介を充実してほしい。
	企業からの評価等の改善	■大学院生に対する偏見や先入観をなくしてほしい。 ■大学院修了者の能力等を評価し、積極的に採用してほしい。 ■大学院で学んだことを活かせる職種配置をしてほしい。
	雇用枠の拡大・確保	■任期のない仕事を増やしてほしい。 ■専門性が活かせる就職先が増えてほしい。
	採用等基準の明確化・適正化	■年齢等による制限をなくしてほしい。 ■学閥や縁故により採用が決まっているのではないかという懸念がある。
	留学生向けの支援等の充実	■外国人留学生に対する就職説明会の開催や就職先の紹介をしてほしい。

[20] 得られた回答を「分類」「テーマ」ごとに整理し、「分類」のなかで、「テーマ」ごとに、概ね件数が多かったものから順に掲載した。なお、「分類」「テーマ」は、自由記述による回答に基づき、分析者側で作成したものであり、あらかじめ調査票等で項目として設定していたわけではない。また、これらの「分類」「テーマ」の中に該当しない回答も 100 件程度あった。「回答内容」については、自由記述により得られた回答の一部を、抜粋・要約等して掲載したものであり、得られた回答の全てを網羅できているわけではない。

図表 101　修了者が就職状況等の改善のために必要と考えること（自由記述、続き）

分類	テーマ	回答内容（要約・抜粋）
教育カリキュラム・研究指導体制の改善	企業等との連携・交流の推進	■企業等との共同研究、産学連携などが活発になるとよい。 ■インターンシップ等、企業との接点を持つ機会をもっと増やしてほしい。
	教員の質・指導力の向上	■指導教員は研究指導をしっかり行ってほしい。 ■能力・専門性や人格等の面で十分でないと思われる教員も見られた。
	実務に関連性の高いカリキュラムの導入	■研究だけでなく実践的なスキル等が身に付けられるカリキュラムを導入してほしい。 ■実践とアカデミックの融合が進めばよい。
	基礎的な能力を向上させるカリキュラムの充実	■コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等、基礎的な能力を高められる機会がもっとあるとよかった。
	学際化・コースワークの充実	■専門分野だけでなく、幅広く複数の領域についてバランスよく学べる機会がもっとあってもよいと思う。
	外部機関等との連携・交流の推進	■大学を超えた研究会や研究者ネットワークへの加入など、交流をもっと広げられるとよかった。
	語学力の向上、留学等支援	■英語による授業や留学の機会を増やしてほしい。
大学院制度等に関する要望	入学定員・審査等の厳格化	■就職先が少ない現状においては大学院進学者をむやみに増やさないことも必要である。 ■入学者の質を向上するために審査等はもっと厳しく行うべき。
	社会人向け課程の充実	■社会人として就職しながら進学できるような仕組みを拡充してほしい。
	奨学金等経済的支援の拡充	■給付奨学金の充実等、経済的な支援を充実してほしい。
	資格等との関連性の強化	■大学院を修了することで得られる資格等を増やすなどの方策をとってほしい。
その他	価値の明確化	■社会全体として、人文・社会科学系の専門性を身に付けることの意義や価値についての理解を高めていく必要がある。 ■修士号・博士号に対する評価を高めていく必要がある。
	研究機関としての機能向上	■大学院は就職予備校・就職斡旋機関ではないため、即時的に役に立つことを重視することで学問としての質が低下することに懸念がある。 ■就職等の支援よりも図書館の充実や研究室の充実など、学習・研究環境の充実を望む。
	学生側の意識の改善	■学生自身が、自分のことは自分でできるように能力や意識を高めていく必要がある。

②大学院から改善が必要と考えられていること

大学院・研究科に対して、「修了者の就職状況の改善のために必要と考えること、産業界に望むことや学生自身に望むこと等」についてたずねたところ、自由記述による回答で、167 件の回答が得られた。これらの回答については、その回答内容に基づき分類し、次の図表 102 のように整理した[21]。

これらのうち、「大学院で改善すること」としては、「就職支援・情報提供の充実」や「企業等との連携・交流の推進」に関する意見が見られた。特に、これらの点については、学部生等に比べて大学院生向けの支援が不足している状況にあることがうかがえた。

「産業界・企業に望むこと」としては、大学院修了者に対する評価や待遇等の改善を求める意見が多く見られた。なお、「企業からの評価等の改善」に関する意見が全体の中で最も多く、約 50 件の回答があった。この点については、修了者からの意見も比較的多く見られており、現状として産業界・企業に対しての改善要望が強くなっているということがうかがえる。

このほか、大学院・研究科からは、大学院として各種の支援を充実させるということだけでなく、「学生自身に望むこと」として、幅広い興味や視野を持つことや、インターンシップの参加など企業とのかかわりを持つこと、また、社会で必要とされる各種の能力を身に付けることについて、学生自身の意識等の改善も必要であるとの考え方も示されている。

図表 102　大学院・研究科が修了者の就職状況等の改善のために必要と考えること（自由記述）

分類	テーマ	回答内容（要約・抜粋）
大学院で改善すること	就職支援・情報提供の充実	■一般企業への就職を希望する院生に対する支援を学部生と同様に、大学全体として強化する必要があると考える。 ■教員の間の就職支援に対する意識が十分ではないため、研究科として指導教員をサポートしつつ、情報共有の仕組み等を作っていきたい。
	企業等との連携・交流の推進	■産業界と連携した共同研究や共同開講の授業を充実させることが重要と考える。 ■大学院生向けのインターンシップや企業説明会等を実施・充実させたい。 ■企業からの人材ニーズ等に関する情報を得たい。
	教育・研究環境の改善	■学位の価値を高めるような研究施設が必要である。 ■より柔軟なカリキュラムの構築や学費の減免等の支援が必要である。
産業界・企業に望むこと	企業からの評価等の改善	■大学院修了者を積極的に採用するようにしてほしい。 ■せめて、学部生と同様に求人・採用をしてほしい。
	企業における待遇等の改善	■修士・博士の学位を有する者を優遇してほしい。 ■学卒者と区別して評価するようにしてほしい。
	留学生に対する待遇の改善	■留学生の採用を増やしてほしい。
	社会人学生への理解	■社員に対して、大学院に進学し学位を取得することを推奨してほしい。

[21] 得られた回答を「分類」「テーマ」ごとに整理し、「分類」のなかで、「テーマ」ごとに、概ね件数が多かったものから順に掲載した。なお、「分類」「テーマ」は、自由記述による回答に基づき、分析者側で作成したものであり、あらかじめ調査票等で項目として設定していたわけではない。「回答内容」については、自由記述により得られた回答の一部を、抜粋・要約等して掲載したものであり、得られた回答の全てを網羅できているわけではない。

図表 102　大学院・研究科が修了者の就職状況等の改善のために必要と考えること（自由記述、続き）

分類	テーマ	回答内容（要約・抜粋）
学生自身に望むこと	学生の意識等の改善	■専門分野にとらわれることなく広く社会に対する関心を持ってほしい。 ■インターンシップに参加するなど、企業と接点を持つようにしてほしい。 ■高い就労意識を持って、積極的に就職活動に臨んでほしい
	学生の能力の向上	■思考力、判断力、表現力、主体性、協働性、コンピュータ運用能力、統計に関する知識、語学力、プレゼンテーション能力、俯瞰的視野、国際的視野、独創性、実証性、仮説設定能力、企画力、文献調査能力、問題発見・解決能力等の諸能力を身に付けるようにしてほしい
その他	雇用枠の拡大・確保	■大学・産業界ともに、専門職としての力を発揮できるポストの整備・拡充、および待遇の改善が必要である
	その他	■社会人学生がほとんどであり、就職等に関する支援等は課題となっていない

③企業から改善が必要であると考えられていること

企業に対して、「文系の大学院生の就職状況の改善のために必要と考えること、課題と感じていること」についてたずねたところ、自由記述による回答で、33 件の回答が得られた。これらの回答については、その回答内容に基づき分類し、次の図表 103 のように整理した[22]。

これらに関し、分類・テーマとしては、主に「学んできたことの内容や強み等のアピール不足の改善」「必要な能力の習得」「協働の機会の充実」「学生側の意識の改善」が挙げられ、大学院で得たことや強みを明確に説明できることが重要であるほか、専門性以外の能力等の習得が必要であるとの考えが示されており、主に学生の意識・能力の不足を指摘する意見が多くなっていた。

企業から求められている能力として、特に「他者と協働する力」を向上させることについては、そのことを目的とした内容をカリキュラムに盛り込むなど、機会の提供が重要であるとの意見があった。このほか、文系の大学院生の就職状況の改善のためには、企業における採用方針等の現状をふまえ、場合によっては研究テーマとは関わりの薄い職種等についても検討することが重要であるといった考え方も示されている。

図表 103　企業が文系の大学院生の就職状況等の改善のために必要と考えること（自由記述）

分類・テーマ	回答内容（要約・抜粋）
学んできたことの内容や強み等のアピール不足の改善	■大学院で何を学び、何が強みであるかをしっかり説明できるようにしてほしい。 ■なぜ大学院に進学したのか、社会に出て何がしたいのかの動機・目標を説明できるようにしてほしい。
必要な能力の習得	■専門だけでなく、幅広い知識や視野を持ってほしい。 ■コミュニケーション能力や、自分でしっかり考え積極的に行動できる力、問題解決能力、チームワークやリーダーシップ等の能力を評価する。 ■専門性以上に社会人として不可欠な基礎的な能力の養成が重要だと考える。
協働の機会の充実	■地域社会等、幅広い年齢層と協力し合う機会を与えてほしい。 ■他者と協働する力や周囲の人と協力して目標を達成しようとした経験が重要であるため、それらの力を向上させられるカリキュラムがあればよいと考える
学生側の意識等の改善	■企業の多くは学部生・大学院生で区別していないことを認識した上で就職等に臨むことも必要である。 ■企業には多様な職種があり、流動的に人材配置を行っている。学生自身も研究テーマにかかわらない職種の可能性を理解し受け入れられれば、就職の道ももっと広がるのではないか。
その他	■学部生と大学院生は区別なく選考・採用をしているが、年齢が高く初任給も高いことから能力等高い水準が求められることになる。 ■文系の大学院で学ぶ専門的知識が一般的な民間企業で活かされるのか疑問・違和感がある。

[22] 得られた回答を「分類・テーマ」ごとに整理した。なお、「分類・テーマ」は、自由記述による回答に基づき、分析者側で作成したものであり、あらかじめ調査票等で項目として設定していたわけではない。「回答内容」については、自由記述により得られた回答の一部を、抜粋・要約等して掲載したものであり、得られた回答の全てを網羅できているわけではない。

６．まとめ・考察

（１）分析結果のまとめ

①進路・就職等の状況

集計・分析の結果、修了者の進路・就職先等の状況に関して明らかになったことについて、あらためて、次のように整理した。

＜修了者向け調査から＞

○修士（博士前期）課程修了者においては、「人文科学関係」「社会科学関係」ともに、「民間企業等」で働いている者の割合が最も高く、特に「社会科学関係」では 5 割以上となっていることから、主要な進路先となっていることがわかる[23]（図表 21）。

○博士後期課程修了者については「高等教育機関」で働いている者の割合が 6 割以上と最も高く、主要な進路となっていることがわかる。なお、専門分野別では「人文科学関係」の方が「社会科学関係」より若干その割合が高い（図表 22）。

○雇用形態に関し、「正規雇用」である割合は、修士（博士前期）課程修了者の方が博士後期課程修了者よりも高く、「修士（博士前期）課程・社会科学関係」が約 9 割と最も高いが、「博士後期課程・人文科学関係」が 5 割以下と最も低くなっている（図表 27、図表 28）。なお、「非正規雇用」の割合は、「民間企業等」で働いている者では約 1 割と比較的低いが、「高等教育機関」で働いている者では約 4 割と高くなっている（図表 29、図表 30）。これらの状況の背景としては、博士課程修了後に「高等教育機関」で雇用された場合、任期付きの研究職のポストに就く者等が多いという事情があるのではないかと推察される。

○「仕事の職務内容と修了した大学院の専門分野との関連性」については、修士（博士前期）課程修了者よりも博士後期課程修了者のほうが「関係している」との回答割合は高い（図表 32、図表 33）。所属先や職種別に見た場合には、「公的研究機関」「高等教育機関」で働いている者では「とても関係している」との回答割合が高いが、「民間企業等」で働いている者では、「どちらともいえない」「あまり関係していない」「全く関係していない」との回答割合が高くなっている（図表 34）。

○「大学院修了後の進路や就職先に関する満足度」については、「とても満足している」「ある程度満足している」の回答が約 7 割以上と高い。なお、専門分野が「人文科学関係」の者と比べて「社会科学関係」のほうが、満足度は若干高い傾向にある（図表 37、図表 38）。また、仕事の所属先別では「高等教育機関」で働いている者について、職種別では「教員・研究者」「高度専門職業人」の者において、満足度が高い傾向にあることが把握される（図表 40、図表 41）。

○雇用形態や満足度等に関する回答の結果から、「民間企業等」については、正規雇用の割合は高いが、大学院で学んだこととの関連性が弱い職務内容の仕事に従事している者の割合が高く、進路や就職先に関する満足度も高くないことがわかる。一方で、「高等教育機関」については、非

[23] 社会人経験を有する者も比較的多いことから、大学院入学前に、民間企業等に就職していた者も集計の対象となっている点には一定の留意が必要である。

正規雇用の割合が高いが、大学院で学んだこととの関連性が強い職務に従事することが多く、進路や就職先に関する満足度が高いことが把握される。

○修士（博士前期）課程修了者が博士後期課程に進学しなかった理由として、「もともと進学する予定ではなかったから」が約 5 割と、修士（博士前期）課程入学時に博士後期課程への進学を予定しなかった者が半数程度いることがわかる（図表 44）。また、社会人経験がない者では「生活の経済的見通しが立たなかったから」の回答割合が約 3 割となっており（図表 46）、進学希望がありながらも、経済的理由により進学することを断念した者が一定割合で存在していることがわかる。

＜企業向け調査から＞

○東証一部上場企業の新規卒業者の採用状況について、学卒者については、文系の学生のほうが理系の学生よりも「毎年必ず採用している」と回答した企業の割合は高い。他方で、修士（博士前期）課程修了者や博士後期課程修了者については、理系の修了者のほうが「毎年必ず採用している」との回答割合は高くなっている。なお、文系の学卒者については 7 割以上の企業が「毎年必ず採用している」と回答しているが、文系の修士（博士前期）課程修了者についてその割合は 1 割未満と、低くなっている。博士後期課程修了者に関しては、文系・理系ともに、「毎年必ず採用している」との回答割合は 1 割未満となっている（図表 47~図表 49）。

○文系の修士（博士前期）課程修了者の採用状況に着目すると、従業員数が多い企業のほうが、採用実績がある割合が高いという関係性が見られる（図表 50）。この背景には、従業員数が多い企業に関しては、新規卒業者採用の募集人数が多く、文系の大学院生も採用される可能性が高いこと、あるいは、従業員数が多い企業では多様な職種があることから、大学院修了者の専門性等がより活かされる機会が多い可能性があること等が考えられる。

○採用後の大学院修了者の処遇に関して、「初任給」については約 8 割の企業が「差を設けている」と回答している（図表 56）。他方で、「昇任のタイミング」「昇給のタイミング」については、「差を設けていない」との回答が 7 割以上、「最初の配属先」については、「差を設けていない」の割合は 9 割以上となっており、採用後、初任給以外の部分は学卒者と大学院修了者との待遇がほとんど変わらない企業が多いことがわかる。

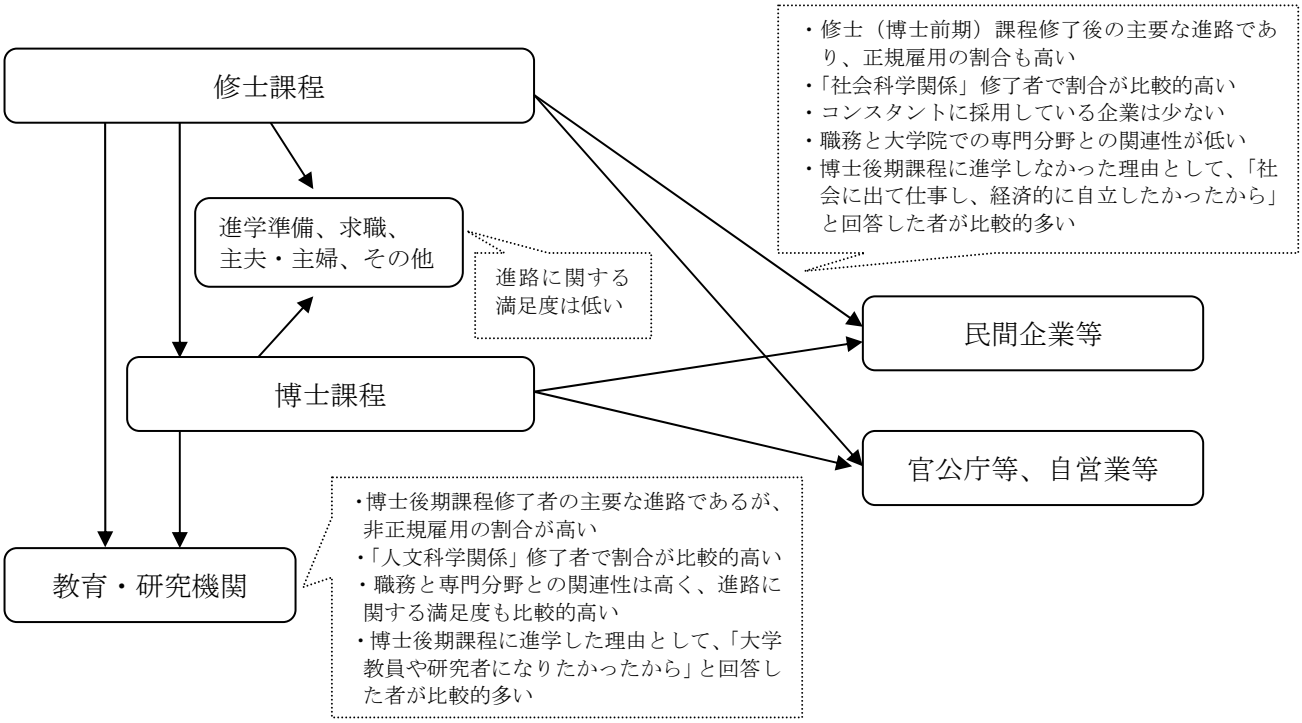
＜大学院向け調査から＞

○大学院が把握している平成 25 年度の修了者の状況に関して、修士（博士前期）課程修了者のうち 1 割強が博士課程に進学しており、その割合は「人文科学関係」の研究科のほうが「社会科学関係」の研究科に比べて高いこと等が把握される（図表 61～図表 63）。

○進学でも就職でもない「その他」としての回答割合は、修士（博士前期）課程で約 3 割、博士後期課程で約 5 割となっている（図表 61～図表 63）。この点に関して、修了者向け調査で「働いている」以外を回答した割合は、修士（博士前期）課程で約 1 割、博士後期課程でも低いことから（図表 18、図表 19）、修了時点で進路が不明確な者についても、その後就職等の進路が決まる者が一定割合存在するのではないかと推察される。

○修士（博士前期）課程修了者で働いている者については、その多くが「大学教員・研究者」「民間企業等の研究者」「高度専門職業人」以外の、「上記以外」の分類となっており、博士後期課程修了者で働いている者については、「大学教員・研究者」である割合が高くなっている（図表 61~図表 63）。なお、これらの回答の状況は、修了者向け調査の結果から把握される就職等の状況とある程度対応していることが把握される。

＜進路・就職等の状況に関するイメージ図＞



②教育内容等に関する改善点等

人文・社会科学系大学院の教育内容等の改善点等に関して、「大学院修了者に求められる能力等と大学院で身に付けられる能力等」「大学院の教育内容等で充実が求められること」の 2 点について、大学・修了者・企業のそれぞれの回答結果から、次のような点が明らかになった。

＜大学院修了者に求められる能力等と大学院で身に付けられる能力等＞

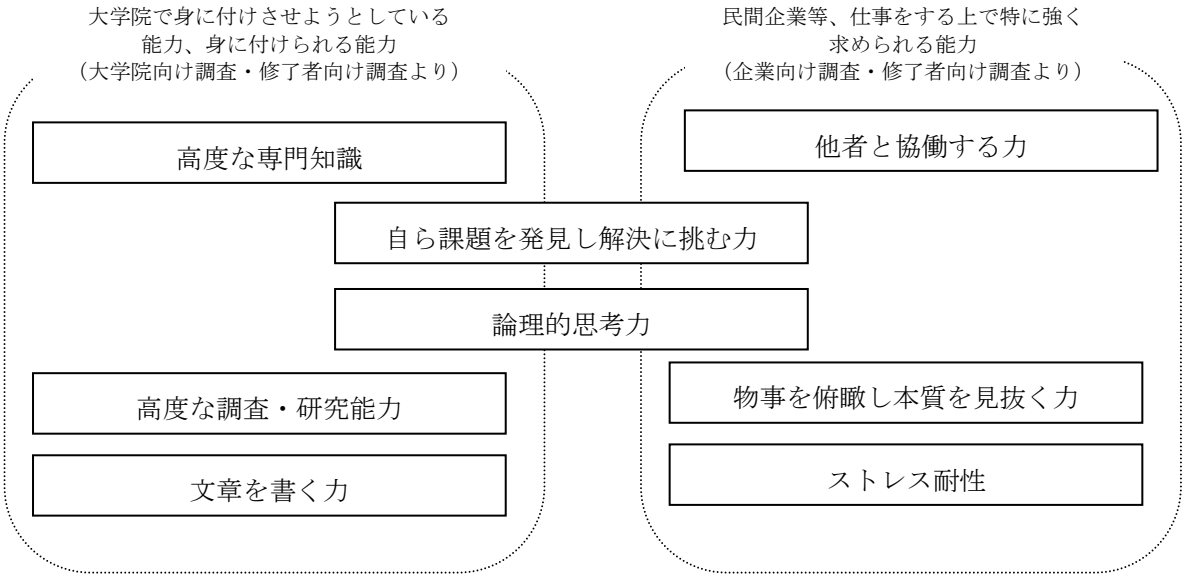
○修了者が「仕事をする上で特に強く求められていると考える能力等」としては、「他者と協働する力」をはじめ、「自ら課題を発見し解決に挑む力」「ストレス耐性」「物事を俯瞰し本質を見抜く力」「論理的思考力」に関する回答割合が相対的に高い（図表 70）。

○他方、修了者が「大学院教育を通じて身に付いた能力等」としては、「論理的思考力」「高度な専門的知識」「文章を書く力」「高度な調査・研究能力」で回答割合が約 7 割と比較的高くなっている（図表 71）。「仕事をする上で特に強く求められていると考える能力等」と対比させてみると、求められているとの回答割合が比較的高かった能力のうち、「論理的思考力」については大学院教育で身に付いたと考えられるが、「他者と協働する力」「ストレス耐性」等については、「求められている」と回答された割合が高い一方で、「身に付いた」との回答割合が低くなっていることが把握された（図表 72）。

○企業から、「入社を希望する文系の大学院生に特に高い水準で期待すること」としては、「自ら課題を発見し解決に挑む力」をはじめ、「論理的思考力」「物事を俯瞰し本質を見抜く力」「他者と協働する力」「ストレス耐性」の順で高い（図表 77）。これらについては、回答割合の多寡やその割合の高さの順番等の違いはあるものの、修了者が「仕事をする上で特に強く求められていると考える能力等」としての回答割合が高い上位 5 項目と同一であった。

○大学院が「身に付けさせることを重視していること」としては、「高度な専門知識」「高度な調査・研究能力」「論理的思考力」「自ら課題を発見し解決に挑む力」について回答割合が比較的高い。他方で、企業が高い水準で期待している「ストレス耐性」「プロジェクトやタスクのマネジメント力」「他者と協働する力」等については、回答割合が低くなっており、これらについては、修了者が「大学院教育を通じて身についた能力等」においても回答割合が低くなっている（図表 78）。

＜大学院修了者に求められる能力等と大学院で身に付けられる能力等に関するイメージ図＞



＜大学院の教育内容等で充実が求められること＞

○修了者が、大学院・研究科において「もっと充実していてほしかったと考えること」として、「授業・研究指導の内容・方法」に関しては、「企業など学外者からの高度で実践的な教育を受ける機会」「他の研究機関等との研究交流・共同研究」「企業などとの共同授業・研究」について比較的高い割合の回答が見られている（図表 85）。このことから、企業や他の研究機関との共同研究・交流等の機会の充実に関する要望があることがわかる。

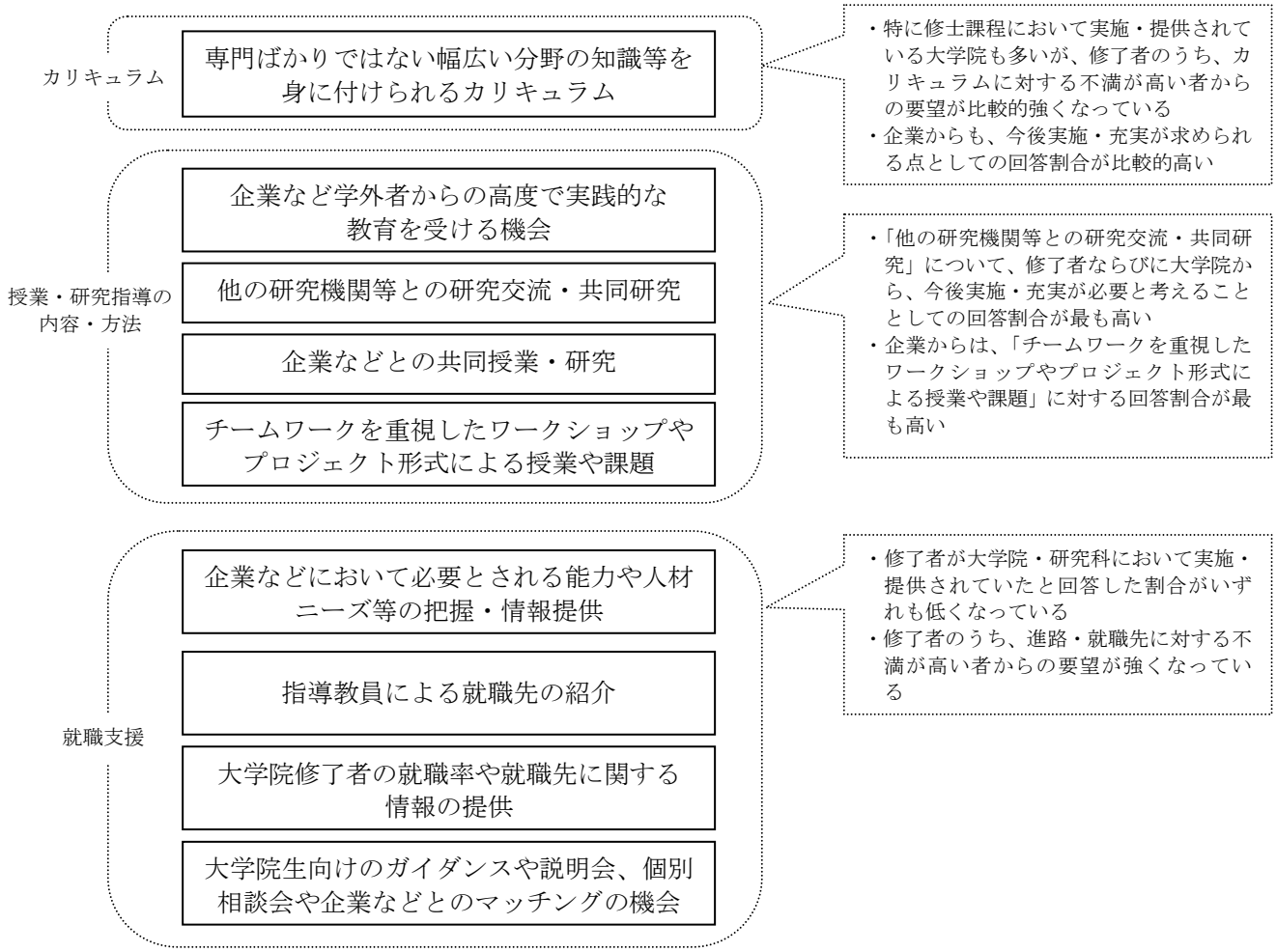
○また、「就職支援」に関して、「企業などにおいて必要とされる能力や人材ニーズ等の把握・情報提供」「大学院修了者の就職率や就職先に関する情報の提供」「指導教員による就職先の紹介」「大学院生向けのガイダンスや説明会、個別相談会や企業などとのマッチングの機会」について比較的高い割合の回答が集まっており（図表 85）、就職支援の充実に関する要望があることがわかる。

○なお、所属していた研究科・専攻のカリキュラムに関する満足度が低かった者では、「専門ばかりではない幅広い分野の知識等を身に付けられるカリキュラム」等に関して、「もっと充実していてほしかった」との回答割合が特に高くなっているということも明らかになった（図表 98）。

○企業から、「今後文系の大学院において実施・充実したほうがよいと思われること」としては、「チームワークを重視したワークショップやプロジェクト形式による授業や課題」や「専門ばかりではない幅広い分野の知識等を身に付けられるカリキュラム」について回答割合が比較的高くなっている（図表 89）。これらから、企業からは「自ら課題を発見し解決に挑む力」や「他者と協働する力」に対応するような授業・カリキュラムが重要であると考えられていることがうかがえる。また、ひとつの専門性だけでなく幅広い知識等が重要であると考えられていることがわかる。

○大学院・研究科として、「今後実施・充実が必要と考えること」としては、「他の研究機関等との研究交流・共同研究」に関する回答割合が最も高くなっている（図表 91）。なお、この点については、大学院・研究科として「実施・提供していること」の回答割合は比較的低くなっていることも確認できる（図表 90）。また、「他の研究機関等との研究交流・共同研究」については、修了者から「もっと充実していてほしかったこと」としての回答割合も最も高くなっており、大学院・修了者双方から、今後実施・充実が必要であるとの認識が高くなっていることが把握される。

＜大学院の教育内容等で充実が求められることに関するイメージ図＞



③人文・社会科学大学院の修了者の社会での活用が進まない理由・背景等

上記①、②の点について集計・分析を行う中で、人文・社会科学大学院の修了者の社会での活用が進まない理由・背景等に関して、次のような点が明らかになった。

＜企業の採用に関する考え方、専門性等への評価＞

○企業向け調査の結果から、文系の大学院修了者の採用実績がない企業で採用しない理由としては、「応募がないから」が約 5 割と最も高く、「文系大学院レベルの専門性を求めていないから」との回答も 4 割以上で見られる（図表 51）。このことから、職務の内容を学部生が有する能力等で十分対応できるものであると判断し、大学院での経験等が評価の対象となっていないという可能性が考えられる。また、「応募がないから」という回答が見られる状況に関して、採用される可能性があるにも関わらず大学院生側から十分に認識されていない企業もあるのではないかと推察される。

○今後の採用意向としては 7 割以上の企業が「優秀であれば、学卒者・大学院修了者を問わず採用数を増やしていきたい」としているが、理系の大学院修了者を増やしていこうとする明確な意向がある企業が 1 割以上見られるのに対して、文系の大学院修了者を積極的に増やしていこうとしている企業は非常に少ない状況にある（図表 53）。このような回答からは、採用意向について学卒者と大学院修了者とを区別はしていないが、理系の大学院修了者についてはその専門性やスキル等に対する一定のニーズがある中で、文系の大学院修了者については企業が特別なニーズを認識していないのではないかと推察される。採用後の配属等に関して専門性等を考慮するかに関する回答の結果からは、理系の大学院修了者については「とても考慮している」「まあ考慮している」の割合が 7 割以上であるのに対して、文系の大学院修了者に関してはその割合は 3 割程度であることも把握された（図表 57、図表 58）。

＜大学院でのキャリア支援等の状況＞

○大学院における人材育成・輩出の考え方として、修士課程においては特に、「高度専門職業人」の輩出を目指しているとの回答割合が比較的高くなっている（図表 64）が、現状の進路・就職先としては必ずしもそのようにはなっておらず（図表 24、図表 25）、目標とする人材育成・輩出が実施できているわけではないことがうかがえる。

○また、そもそも修了者の就職状況に関して、進学か就職かが分類できない「その他」としての回答割合が高くなっているが（図表 61）、修了者向け調査から把握される進路の状況としては「働いている」以外の回答が少ないことから、大学院・研究科として、修了者の進路について明確に把握できていない場合もあるのではないかと推察される。

○このほか、大学院生に対する産業界の人材ニーズに関する情報の入手は主に「教員の個人的なネットワーク」や「企業からの公開情報」に基づいてなされている状況にあり（図表 68）、組織的に対応している大学院・研究科の割合は高くないことが把握される。

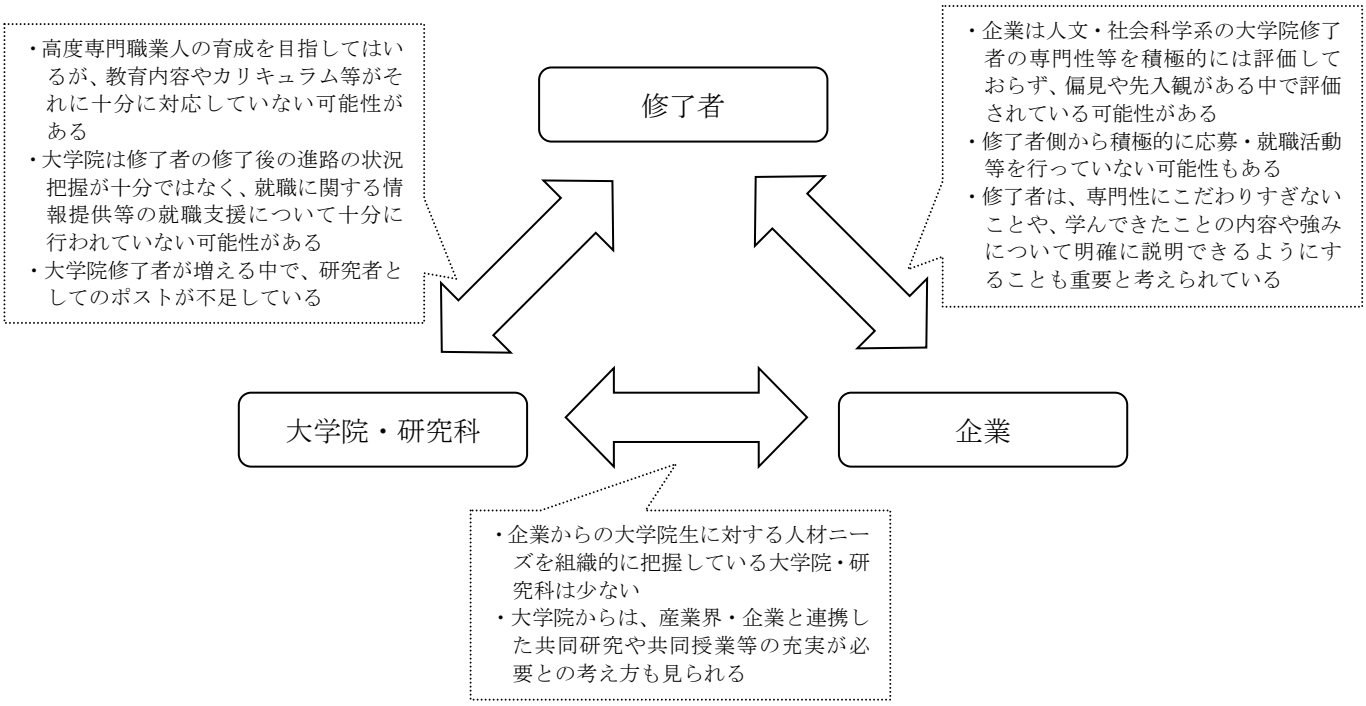
＜自由記述による回答から把握されたこと＞

○修了者からの自由記述による回答では、「就職支援・情報提供等の充実」「企業からの評価等の改善」に関する回答件数が比較的多くなっており、これらから、現状として、大学院における就職支援等の取組は不足しており、また、企業から人文・社会科学系の大学院修了者が高い評価を受けているわけではないことが確認できる（図表 101）。なお、修了者からは、「大学院制度等に関する要望」に関し、「入学定員・審査等の厳格化」として、就職先が十分にない現状においては大学院進学者をむやみに増やさないことや、質の向上のためには審査等をより厳しいものにすることが重要であるとの意見も比較的多い。

○大学院からの回答としても、「企業からの評価等の改善」に関する意見は比較的多くなっている（図表 102）。また、「大学院で改善すること」として、「就職支援・情報提供の充実」が必要と考える意見や、「企業等との連携・交流の推進」が必要であるとの意見が見られる。

○他方で、大学院や企業からは、学生自身に望むことについても意見があった。大学院からは、民間企業等への就職にあたり専門分野にとらわれすぎないようにすることや、インターンシップへの参加等も含め、積極的に就職活動を行うことについて学生自身の意識等の改善も必要であるとの考え方が示されている（図表 102）。また、企業からは、「学生側の意識等の改善」として、大学院生であることや学んできた専門分野等にこだわりを持ちすぎないことが、企業から採用されるにあたっては重要になるという考え方が示されている。また、「学んできたことの内容や強み等のアピール不足の改善」として、大学院で学んできたことやその動機・理由等に関しての説明力が求められることが指摘されている。

＜人文・社会科学大学院の修了者の社会での活用が進まない理由・背景等について把握されたことに関するイメージ図＞



（２）今後講じるべき施策の在り方についての検討・考察

集計・分析の結果把握された以上のような点をふまえ、今後講じるべき施策に関し、次の 3 点について、検討・考察を行った。

①大学院生向けの情報提供等就職に関する支援の充実

修了者が「大学院・研究科においてもっと充実していてほしかったと考えること」として、「大学院修了者の就職率や就職先に関する情報の提供」をはじめ、就職支援に関する取組の充実を求める回答が比較的多くなっていることが把握された。また、自由記述による回答でも、大学院の学生に対する就職等に関する支援を求める声が比較的多くなっていた。

現状として、修了者の進路・就職先等を十分に把握していない大学院・研究科も少なくないのではないかと想定される。自由記述による回答から、大学院の認識としても、大学院生に対する就職支援・情報提供の充実が課題になっていることがうかがえた。

この点に関して、企業からは、修了者に対して、「学んできたことの内容や強み等のアピール不足」を指摘する意見も見られた。修士（博士前期）課程修了者の仕事の所属先の多くが「民間企業等」であることも把握されたが、場合によっては、博士後期課程への進学を断念して民間企業等への就職に向かう者もいるのではないかと想定される。これら修士（博士前期）課程修了後に民間企業等への就職を目指す者に関しては、就職活動への臨み方等も含めて、大学院・研究科等から働きかけを行っていくことが重要になりうることが示唆されているのではないかと考える。

また、必ずしも民間企業等に就職する者ばかりではなく、研究職として職を得ることを目指す者に関しても、就職に関する支援が求められている。現状としては、博士後期課程修了後、必ずしも安定した職に就いている者ばかりではないと想定される。博士後期課程進学者に対して、修了者の進路に関してそのような現状にあるということを情報として知らせていくということや、在学中の研究指導の充実、奨学金等経済的な支援策等も含めて、学生へのキャリア支援を行っていくことが重要である。

このほか、社会人経験を有する者が多いということや、留学生が多いということも、人文・社会科学系の大学院の特徴となっている。これらの者に対するキャリア支援のあり方を検討していくという視点も求められるものと想定される。

②産業界との連携・情報交換等の取組の推進、カリキュラム開発等による状況の改善

人文・社会科学系の大学院修了者の民間企業等への就職状況を促進させるという観点からは、大学院・研究科として学生に対する就職支援を行っていくというだけでなく、産業界・企業がどのような人材を高く評価しており、どのような人材を求めているのか等についての情報を得ていくということも重要になるものと考えられる。

大学院・研究科における現状として、産業界の人材ニーズに関する情報の入手は主に「教員の個人的なネットワーク」や「企業からの公開情報」に基づいてなされている状況にあり、必ずしも組織的に対応がなされているわけではないことが明らかになった。今後においては、上記「就職等に関する支援の充実」とあわせて、組織的に産業界・企業との情報交換の機会等を増やしていく、ということも重要になりうる。

方策としては、修了者から「もっと充実していてほしかったと考えること」として回答が比較的多く集まっていた、「企業など学外者からの高度で実践的な教育を受ける機会」「他の研究機関等との研究交流・共同研究」「企業などとの共同授業・研究」等の機会を、カリキュラムのなかにもっと増やしていくということ、もしくは、カリキュラム自体を産学連携で作っていく、そのことにより、企業からの評価の確立、社会的認知度にもつながることが考えられる。

これらの機会の増加は、大学院学生の能力の育成の面や、対外的なネットワークを形成すること、あるいは理論的な知識と実践的な業務等とをどのように結び付けるのかの考えを深めること等の面で大いに刺激になるというだけでなく、人文・社会科学系の人材育成に関して、大学と企業との間の連携・交流をより促すきっかけになるのではないかと思われる。

③育成すべき能力等の明確化、大学院修了者の専門性や能力等の再評価

連携・交流の機会等を増やし、産業界・企業からの人材ニーズ等の情報を収集することに加え、それら求められている能力と、大学院で身に付けるべき・身に付けられる能力との関係性について、整理していくことも重要であると考える。

本事業・調査研究の結果、企業からは、「自ら課題を発見し解決に挑む力」「論理的思考力」「物事を俯瞰し本質を見抜く力」「他者と協働する力」「ストレス耐性」について、人文・社会科学系の大学院生に対して特に高い水準で期待されていることが明らかになった。また、これらのうち、「他者と協働する力」や「ストレス耐性」に関しては、大学院ではそれらの能力の育成がそれほど重視されているわけではないという現状にあり、この点にはギャップがあることが明らかになった。逆に、「高度な専門的知識」「高度な調査・研究能力」「文章を書く力」等は大学院で身に付けられている能力であると考えられるが、これらの点は企業等からは特段評価・期待されているわけではないということがうかがえた。

このようなギャップがあることに対して、今後どのように対処していくかということが重要になる。ひとつの方向性としては、他者と協力して成果を挙げるような機会や、負担が多くかかる中でも責任を持って何かを成し遂げるような機会を大学院の学習・研究活動の中により盛り込んでいくということが考えられる。また、専攻の枠を超えた広範なコースワークや研究室ローテーション等、ひとつの専門ばかりではない幅広い分野を学べるカリキュラムとしていくということも、企業等から求められる方策である。

他方で、大学院修了者が有する高い専門性や能力を、企業等に適切に理解・評価してもらうということも重要になりうる。「自ら課題を発見し解決に挑む力」「論理的思考力」等については、大学院において身に付けられる能力として、企業からも評価の対象となる。現状でも、人文・社会科学系の大学院の学生を積極的に評価するということも行われていると思われるが、今後はより一層、人文・社会科学系の大学院修了者の有する専門性や能力等を再評価するための働きかけ等が重要になりうる。これらの点は、上記「産業界との連携・情報交換等の取組の推進」とあわせて、取り組む必要があると考えられる。

＜参考資料＞

（１）調査票

①大学院向け調査

文部科学省委託調査
人文・社会科学系の大学院（修士・博士課程）における教育内容及び修了者のキャリアパスの実態に関する調査（大学院研究科調査）

＜調査の趣旨等に関して＞

※本調査は、文部科学省平成 26 年度「先導的大学改革推進委託事業」として、文部科学省高等教育局大学振興課より委託を受け、株式会社浜銀総合研究所が実施するものです。
※本調査は、人文・社会科学系大学院においては、従来より、学生の進路動向が十分把握されておらず、就職率も低い傾向にあることや、特に博士課程段階の教育が担当教員による研究活動を通じて行われるものにとどまっていることが多い等の様々な指摘がなされてきたことを踏まえ、修了者・企業の大学院教育に対する期待を明らかにし、今後の人文・社会科学系大学院の振興方策の検討に反映していくことを目的としています。
※誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、本アンケート調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。
※なお、本調査で、「修士課程」は修士課程、博士前期課程及び５年一貫制博士課程の１、２年次を指し、「博士課程」は博士後期課程及び５年一貫制博士課程の３～５年次を指します。

＜調査の回答に関するお願い＞

※本調査には、人文・社会科学系の各研究科長に御回答をお願いしております。
※各設問について、選択肢から回答を選択していただくか、記入欄に回答してください。
※本調査の結果は、上記の調査の目的以外に使用することはございません。また、大学名・研究科名等をおたずねしますが、大学名･研究科名等が特定できる形で集計･公表することはいたしません。
※回答いただいた調査票は、返信用封筒に封入・封緘の上、平成 27 年 2 月 20 日（金）までにポストにご投函ください。（切手は不要です）

＜問い合わせ先＞

本調査の目的や内容、データの取扱い、アンケートへの回答の方法等について、不明な点等がございましたら、以下までお問い合わせください。

株式会社浜銀総合研究所　地域戦略研究部（担当：有海（ありかい）・加藤（学））
電話：045-225-2372／ Fax：045-225-2197／ Mail：graduatesurvey@yokohama-ri.co.jp

１．貴研究科のことについてお伺いします

（１）貴大学・研究科名をお教えください。

大学名	
研究科名	

（２）貴研究科の学校基本調査上の分類を、お教えください。（一つを選択）

１．人文科学	２．社会科学	３．その他

（３）貴研究科が授与する学位の種類についてお教えください。（あてはまるものすべてを選択）

１．修士	２．博士

２．貴研究科における教育目標・教育内容についてお伺いします

（１）貴研究科では、以下のような人材をどの程度輩出することを目指していますか。修士課程・博士課程別にお答えください。

	修士課程	博士課程
A. 博士後期課程への進学者	（　　）割	
B. 大学教員・研究者	（　　）割	（　　）割
C. 民間企業等の研究者	（　　）割	（　　）割
D. 高度専門職業人※	（　　）割	（　　）割
E. その他	（　　）割	（　　）割

※ここでいう「高度専門職業人」とは、「理論と実務の架橋」を重視し、深い知的学識に裏打ちされた国際的に通用する高度な専門的知識・能力が必要と社会的に認知され、例えば、職能団体や資格をはじめとする一定の職業的専門領域の基礎が確立している職業（例：士業など）に就く方を指します。

（２）貴研究科では、学生にどのような知識・技能を身に付けさせることを重視していますか。修士課程・博士課程別にお答えください。（あてはまるものすべてを選択）

	修士課程	博士課程
A. 高度な専門的知識	A1	A2
B. 高度な調査・研究能力	B1	B2
C. 専門以外の分野の幅広い知識	C1	C2
D. 物事を俯瞰し本質を見抜く力	D1	D2
E. 独創的な能力	E1	E2
F. 自ら課題を発見し解決に挑む力	F1	F2
G. 論理的思考力	G1	G2
H. 国際感覚・語学力	H1	H2
I. プレゼンテーション能力	I1	I2
J. 他者と協働する力	J1	J2
K. ストレス耐性	K1	K2
L. 文章を書く力	L1	L2
M. プロジェクトやタスクのマネジメント力	M1	M2

（３）現状として、望ましい能力を持つ人材が、大学院を目指していると思いますか。修士課程・博士課程別にお答えください。（それぞれ、一つを選択）

＜修士課程＞

１．とてもそう思う	２．ある程度そう思う	３．分からない
４．あまりそう思わない	５．全くそう思わない	

＜博士課程＞

１．とてもそう思う	２．ある程度そう思う	３．分からない
４．あまりそう思わない	５．全くそう思わない	

（４）貴研究科では、カリキュラム編成、授業・研究指導の内容・方法に関して、①どのような取り組みを実施・提供していますか。また、②今後実施したり、さらに充実したりする必要があると考えられていることはどのようなことですか。修士課程・博士課程別に、それぞれお答えください。（あてはまるものすべてを選択）

		修士課程		博士課程	
		①実施・提供していること	②今後実施・充実が必要と考えること	①実施・提供していること	②今後実施・充実が必要と考えること
カリキュラム	A. 専門ばかりではない幅広い分野の知識等を身につけられるカリキュラム	MA1	MA2	DA1	DA2
	B. 海外留学の機会の提供	MB1	MB2	DB1	DB2
	C. 質を重視した厳正な学位審査	MC1	MC2	DC1	DC2
授業・研究指導の内容・方法	D. 指導教員以外の教員からの指導	MD1	MD2	DD1	DD2
	E. チームワークを重視したワークショップやプロジェクト形式による授業や課題	ME1	ME2	DE1	DE2
	F. 英語による授業	MF1	MF2	DF1	DF2
	G. アクティブラーニングなど双方向性のある授業	MG1	MG2	DG1	DG2
	H. 他の研究機関等との研究交流・共同研究	MH1	MH2	DH1	DH2
	I. 企業などとの共同授業・研究	MI1	MI2	DI1	DI2
	J. 文献調査など個人で突き詰めて行う課題や研究	MJ1	MJ2	DJ1	DJ2

３．貴研究科における修了者の就職状況等についてお伺いします

（１）貴研究科における平成２５年度修了者の就職状況について、修士課程・博士課程別にそれぞれお答えください。

		修士課程	博士課程
A. 博士後期課程への進学者		（　　）人	
B. 就職者（学校基本調査における「就職者」と同じ）		（　　）人	（　　）人
	うち、大学教員・研究者	（　　）人	（　　）人
	うち、民間企業等の研究者	（　　）人	（　　）人
	うち、高度専門職業人※	（　　）人	（　　）人
	うち、上記以外	（　　）人	（　　）人
C. その他		（　　）人	（　　）人

※ここでいう「高度専門職業人」とは、「理論と実務の架橋」を重視し、深い知的学識に裏打ちされた国際的に通用する高度な専門的知識・能力が必要と社会的に認知され、例えば、職能団体や資格をはじめとする一定の職業的専門領域の基礎が確立している職業（例：士業など）に就く方を指します。

（２）貴研究科では、大学院生に対する産業界の人材ニーズについて、どのように情報を得ていますか。全学で実施している内容も含め、実施しているものについてお教えください。（あてはまるものすべてを選択）

１．企業からの求人情報や冊子、ホームページ等の公開情報から情報を得ている
２．人材マッチングサービス・就職情報提供サービス等を行う企業等から情報を得ている
３．企業の担当者等との交流や情報交換の機会等を組織的に設けて情報を得ている
４．教員の個人的なネットワーク等を通じて企業等からの情報を得ている
５．企業に就職した修了生や研究科に入学している社会人学生から情報を得ている
６．産業界の人材ニーズに関する情報を把握する必要性を感じていない
７．その他（　　）

（３）その他、貴研究科の修了者の就職状況の改善のために必要と考えること、産業界に望むことや学生自身に望むこと等があれば、その内容についてお教えください。

②修了者向け調査

※修了者向け調査は、WEB 上に設置した調査回答用のページから回答を得ている。調査項目・内容は以下の通りであるが、調査回答ページのレイアウト等については、以下に掲載したものとは異なっている。

文部科学省委託調査
人文・社会科学系の大学院（修士・博士課程）における教育内容及び修了者のキャリアパスの実態に関する調査（修了者調査）

＜調査の回答に関するお願い＞

※本調査は、文部科学省平成 26 年度「先導的大学改革推進委託事業」として、文部科学省高等教育局大学振興課より委託を受け、株式会社浜銀総合研究所が実施するものです。
※本調査は、人文・社会科学系大学院においては、従来より、学生の進路動向が十分把握されておらず、就職率も低い傾向にあることや、特に博士課程段階の教育が担当教員による研究活動を通じて行われるものにとどまっていることが多い等の様々な指摘がなされてきたことを踏まえ、修了者・企業の大学院教育に対する期待を明らかにし、今後の人文・社会科学系大学院の振興方策の検討に反映していくことを目的としています。
※調査票は、大学からの協力により、平成 21 年度、23 年度、25 年度に人文科学・社会科学系の大学院（修士・博士課程）を修了（満期退学を含む）した方にお送りさせていただきました。なお、上記の期間中に大学院を修了した方であっても、現在別の大学院等に在学している方は対象としません。
※本調査の結果は、上記の調査の目的以外に使用することはございません。また、大学名や回答者個人等が特定できる形で集計・公表することはいたしません。所属されていた大学に個別の情報を提供することもありませんので、ありのままをお答えください。

＜問い合わせ先＞

本調査の目的や内容、データの取扱い、アンケートへの回答の方法等について、不明な点等がございましたら、以下までお問い合わせください。

株式会社浜銀総合研究所　地域戦略研究部（担当：有海（ありかい）・加藤（学））
電話：045-225-2372／ Fax：045-225-2197／ Mail：graduatesurvey@yokohama-ri.co.jp

１．あなたのことについてお伺いします

（１）現在の状況についてお教えください。（一つを選択）

１．大学院等に在学中である　→本調査の対象ではありませんので、回答は不要です。
２．働いている
３．求職中
４．専業主夫・主婦
５．資格取得や進学のために準備している
６．その他（　　）

（１－１）（上記１．（１）で「２．働いている」を選択した場合）

主たる収入を得ている仕事の所属先についてお教えください。（一つを選択）

１．高等教育機関
２．その他教育機関（小・中・高等学校等）
３．公的研究機関
４．民間企業等（公益法人、NPO 等を含む）
５．官公庁及び関連施設（公的な博物館、資料館、文書館等を含む）
６．自営業
７．その他（　　）

（１－２）（上記１．（１）で「２．働いている」を選択した場合）

主たる収入を得ている仕事の職種をお教えください（一つを選択）

１．教員・研究者	２．高度専門職業人※	３．その他

※ここでいう「高度専門職業人」とは、「理論と実務の架橋」を重視し、深い知的学識に裏打ちされた国際的に通用する高度な専門的知識・能力が必要と社会的に認知され、例えば、職能団体や資格をはじめとする一定の職業的専門領域の基礎が確立している職業（例：士業など）に就く方を指します。

（１－３）（上記１．（１）で「２．働いている」を選択した場合）

主たる収入を得ている仕事の雇用形態についてお教えください。（一つを選択）

１．正規雇用（常勤、フルタイム雇用であり、雇用期間の定めのないもの）
２．非正規雇用（上記以外）

（１－４）（上記１．（１）で「２．働いている」を選択した場合）

主たる収入を得ている仕事の職務内容は、最終的に修了した大学院の専門分野と関係していますか。（一つを選択）

１．とても関係している	２．やや関係している
３．どちらともいえない	４．あまり関係していない
５．全く関係していない	

（２）性別（一つを選択）

１．男性	２．女性

（３）年齢（一つを選択）

１．20 歳代前半	２．20 歳代後半	３．30 歳代前半
４．30 歳代後半	５．40 歳代前半	６．40 歳代後半
７．50 歳代前半	８．50 歳代後半	９．60 歳以上

（４）大学院入学前に社会人としての経験はありますか。（一つを選択）

１．ある（在職又は休職中）	２．ある（退職）	３．ない

２．修了した大学院・研究科のことについてお伺いします

（１）あなたが最終的に修了した大学院のことについて、お教えください。

※満期退学した場合には、満期退学した大学院についてお教えください。

設置主体 （一つを選択）	１．国立　　２．公立　　３．私立
課程 （一つを選択）	１．修士（博士前期）課程　　２．博士後期課程 ３．５年一貫博士課程

（１－１）（上記２．（１）で課程について「修士（博士前期）課程」を選択した場合）

博士後期課程へ進学しなかったのはなぜですか。（あてはまるものすべてを選択）

１．大学教員などの仕事に魅力を感じなかったから
２．博士後期課程に進学すると就職が困難になると思ったから
３．博士後期課程に進学すると生活の経済的見通しが立たなかったから
４．博士後期課程進学のコストに対して生涯賃金などのパフォーマンスが悪いから
５．社会に出て仕事し、経済的に自立したかったから
６．希望の就職先がみつかったから
７．博士論文を書き上げることが難しいと感じたから
８．もともと進学する予定ではなかったから
９．その他（　　）

（２）あなたが最終的に修了した研究科・専攻が扱う学問分野が以下のどの分類に該当するか、お教えください。なお、分類がわからない場合には「その他」を選択の上、括弧の中にあなたが学んだ専門分野をご記入ください。（一つを選択）

１．人文科学関係（文学、史学、哲学、地理学等）
２．社会科学関係（法学、政治学、商学、経済学、社会学等）
３．その他（　　）

（３）あなたが最終的に修了した大学院・課程に進学した理由・動機をお教えください。（あてはまるものすべてを選択）

１．大学教員や研究者になりたかったから
２．専門分野をより深く学びたかったから
３．学位を取得したかったから
４．よりよい就職や処遇に繋がると考えたから
５．資格取得に必要だったから
６．指導教員に勧められたから
７．就職したかったが、希望の就職先がみつからなかったから
８．社会に出て仕事をしたくなかったから
９．その他（　　）

３．修了した大学院・研究科での研究・教育の実施内容等についてお伺いします

（１）①仕事をする上で、特に強く求められている能力等は、どのようなことだとお考えですか。②また、大学院教育を通じて身に付いたと考える能力等はどのようなことだとお考えですか。（それぞれ、あてはまるものすべてを選択）

	①仕事をする上で特に強く求められていると考える能力等	②大学院教育を通じて身に付いたと考える能力等
A. 高度な専門的知識	A１	A2
B. 高度な調査・研究能力	B１	B2
C. 専門以外の分野の幅広い知識	C１	C2
D. 物事を俯瞰し本質を見抜く力	D１	D2
E. 独創的な能力	E１	E2
F. 自ら課題を発見し解決に挑む力	F１	F2
G. 論理的思考力	G１	G2
H. 国際感覚・語学力	H１	H2
I. プレゼンテーション能力	I1	I2
J. 他者と協働する力	J１	J2
K. ストレス耐性	K１	K2
L. 文章を書く力	L1	L2
M. プロジェクトやタスクのマネジメント力	M１	M2
N. あてはまるものはない	N１	N2

（２）あなたが修了した大学院・研究科において、以下のうち①実施・提供されていたものをお教えください。また、②もっと充実していてほしかったと考えるのはどのような点かお教えください。（それぞれ、あてはまるものすべてを選択）

		①実施・提供されていたこと	②もっと充実していてほしかったと考えること
カリキュラム	A. 専門ばかりではない幅広い分野の知識等を身に付けられるカリキュラム	A1	A2
	B. 海外留学の機会の提供	B1	B2
	C. 質を重視した厳正な学位審査	C1	C2
授業・研究指導の内容・方法	D. 指導教員以外の教員からの指導	D1	D2
	E. 企業など学外者からの高度で実践的な教育を受ける機会	E1	E2
	F. 主専攻以外の分野の授業等の履修	F1	F2
	G. チームワークを重視したワークショップやプロジェクト形式による授業や課題	G1	G2
	H. 英語による授業	H1	H2
	I. アクティブラーニングなど双方向性のある授業	I1	I2
	J. 他の研究機関等との研究交流・共同研究	J1	J2
	K. 企業などとの共同授業・研究	K1	K2
	L. 文献調査など個人で突き詰めて行う課題や研究	L1	L2
就職支援	M. 企業などにおいて必要とされる能力や人材ニーズ等の把握・情報提供	M1	M2
	N. 大学院修了者の就職率や就職先に関する情報の提供	N1	N2
	O. 中長期インターンシップの仲介	O1	O2
	P. 指導教員による就職先の紹介	P1	P2
	Q. 大学院生向けのガイダンスや説明会、個別相談会や企業などとのマッチングの機会	Q1	Q2
R. あてはまるものはない		R1	R2

４．研究・教育内容や修了後の進路・就職に関する満足度等についてお伺いします

（１）次のようなことについて、あなたはどの程度満足していますか。（それぞれ、一つを選択）

	とても満足している	ある程度満足している	あまり満足していない	全く満足していない
A.　所属していた研究科・専攻の教員の質	1	2	3	4
B.　所属していた研究科・専攻のカリキュラムの内容	1	2	3	4
C.　あなたの研究テーマと指導教員の専門性の一致	1	2	3	4
D.　専攻の規模や学生数	1	2	3	4
E.　大学院修了後の進路や就職先	1	2	3	4

（２）その他、人文・社会科学系の大学院修了者の就職状況等の改善のために必要と考えること、教育カリキュラムや研究指導のあり方等について大学に望むことや産業界などに望むこと等があれば、その内容についてお教えください。

③企業向け調査

文部科学省委託調査
人文・社会科学系の大学院（修士・博士課程）における教育内容及び修了者のキャリアパスの実態に関する調査（企業調査）

＜調査の趣旨等に関して＞

※本調査は、文部科学省平成 26 年度「先導的大学改革推進委託事業」として、文部科学省高等教育局大学振興課より委託を受け、株式会社浜銀総合研究所が実施するものです。
※本調査は、人文・社会科学系大学院においては、従来より、学生の進路動向が十分把握されておらず、就職率も低い傾向にあること等の様々な指摘がなされてきたことを踏まえ、修了者・企業の大学院教育に対する期待を明らかにし、今後の人文・社会科学系大学院の振興方策の検討に反映していくことを目指しています。
※誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、本アンケート調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

＜調査の回答に関するお願い＞

※貴社における学生の採用活動や、文系の大学院修了者に対する認識等について、選択肢から回答を選択していただくか、記入欄に回答をお願いいたします。なお、貴社が持株会社の場合には、傘下の企業のうち、学生の採用数が最も多い企業について御回答をお願いします。
※本調査の結果は上記の調査の目的以外に使用することはございません。また、回答いただいた会社名等が特定できる形で集計・公表することはいたしませんので、ありのままをお答えください。
※回答いただいた調査票は、返信用封筒に封入・封緘の上、平成 27 年 2 月 18 日（水）までにポストにご投函ください。（切手は不要です）

＜問い合わせ先＞

本調査の目的や内容、データの取扱い、アンケートへの回答の方法等について、不明な点等がございましたら、以下までお問い合わせください。

株式会社浜銀総合研究所　地域戦略研究部（担当：有海（ありかい）・加藤（学））
電話：045-225-2372／ Fax：045-225-2197／ Mail：graduatesurvey@yokohama-ri.co.jp

１．貴社のことについてお伺いします

（１）貴社の業種についてお教えください。複数該当する場合は、直近年度の総売り上げに占める割合が大きい分野を１つ選択してください。（一つを選択）

１．農業・林業	２．漁業
３．鉱業、採石業、砂利採取業	４．建設業
５．製造業	６．電気・ガス・熱供給・水道業
７．情報通信業	８．運輸業、郵便業
９．卸売業、小売業	10．金融業、保険業
11．不動産業、物品賃貸業	12．学術研究、専門・技術サービス業
13．宿泊業、飲食サービス業	14．生活関連サービス業、娯楽業
15．教育、学習支援業	16．医療、福祉
17．その他のサービス業	18．その他（　　）

（２）貴社の従業員数についてお教えください。（一つを選択）

１．100 人未満	２．100 人以上 300 人未満	３．300 人以上 1000 人未満
４．1000 人以上 3000 人未満	５．3000 人以上 1 万人未満	６．１万人以上

（３）資本金の規模についてお教えください。（一つを選択）

１．10 億円未満	２．10 億円以上 30 億円未満	３．30 億円以上 50 億円未満
４．50 億円以上 100 億円未満	５．100 億円以上 200 億円未満	６．200 億円以上 500 億円未満
７．500 億円以上		

（４）設立年についてお教えください。（一つを選択）

１．西暦 1929 年以前	２．西暦 1930 年～1939 年	３．西暦 1940 年～1949 年
４．西暦 1950 年～1959 年	５．西暦 1960 年～1969 年	６．西暦 1970 年～1979 年
７．西暦 1980 年～1989 年	８．西暦 1990 年～1999 年	９．西暦 2000 年以降

２．貴社の採用活動の状況についてお伺いします

（１）貴社の過去５年間での新規卒業者の採用状況についてお教えください。（それぞれ、一つを選択）

	過去５年間での新規卒業者の採用状況			
	毎年必ず採用している	ほぼ毎年採用している	採用する年もある	採用していない
A. 文系の学部の学生	1	2	3	4
B. 文系の修士課程の学生	1	2	3	4
C. 文系の博士課程の学生	1	2	3	4
D. 理系の学部の学生	1	2	3	4
E. 理系の修士課程の学生	1	2	3	4
F. 理系の博士課程の学生	1	2	3	4

（１－１）（上記２．（１）のＢ．及びＣ．で選択肢４．を選択した場合についておたずねします）
文系の大学院修了者の採用実績がないのはなぜですか。（あてはまるものすべてを選択）

１．文系大学院レベルの専門性を求めていないから
２．理系の大学院修了者と比較して能力等が物足りなく感じるから
３．学卒者と比較して能力等が物足りなく感じるから
４．同年代で既に働いている職員等と比較して能力等が物足りなく感じるから
５．文系の大学院修了者からの応募がないから
６．採用面接者に文系大学院修了者がいないため、大学院修了者の能力評価ができないから
７．その他（　　）
８．わからない

再び、全ての方におたずねします。採用実績がない場合等については該当する項目を選択してください。

（２）貴社では、学卒者と大学院修了者とで初任給や昇給制度等について差を設けていますか。（それぞれ、一つを選択）

	採用実績がないためわからない	差を設けている	差を設けていない
A. 初任給	0	1	2
B. 最初の配属先	0	1	2
C. 昇任のタイミング	0	1	2
D. 昇給のタイミング	0	1	2

（３）貴社では大学院修了者の配属等について、大学院で学んできたことの専門性等を考慮していますか。（それぞれ、一つを選択）

	採用実績がないためわからない	とても考慮している	まあ考慮している	あまり考慮していない	まったく考慮していない
A. 文系の修士（博士前期）課程の修了者	0	1	2	3	4
B. 文系の博士（博士後期）課程の修了者	0	1	2	3	4
C. 理系の修士（博士前期）課程の修了者	0	1	2	3	4
D. 理系の博士（博士後期）課程の修了者	0	1	2	3	4

（４）大学院修了者の能力・資質全般について、採用後の印象をお答えください。（それぞれ、一つを選択）

	採用実績がない	期待を上回った	ほぼ期待通り	期待を下回った	わからない
A. 文系の修士（博士前期）課程の修了者	0	1	2	3	4
B. 文系の博士（博士後期）課程の修了者	0	1	2	3	4
C. 理系の修士（博士前期）課程の修了者	0	1	2	3	4
D. 理系の博士（博士後期）課程の修了者	0	1	2	3	4

（５）大学院修了者の採用に関して、今後採用数を増やしていく意向はありますか。（あてはまるものすべてを選択）

１．文系の修士課程修了者の採用を増やしていきたい
２．文系の博士課程修了者の採用を増やしていきたい
３．理系の修士・博士課程修了者の採用を増やしていきたい
４．優秀であれば、学卒者・大学院修了者を問わず採用数を増やしていきたい
５．大学院修了者の採用を増やす考えはない
６．わからない
７．その他（　　）

３．大学院教育に対する期待等についてお伺いします

（１）貴社に入社を希望する新規卒業者に期待する知識・技能等について、文系の大学院生に関し、特に高い水準で期待することがあれば、その内容をお教えください。（あてはまるものすべてを選択）

１．高度な専門的知識	２．高度な調査・研究能力
３．専門以外の分野の幅広い知識	４．物事を俯瞰し本質を見抜く力
５．独創的な能力	６．自ら課題を発見し解決に挑む力
７．論理的思考力	８．国際感覚・語学力
９．プレゼンテーション能力	10．他者と協働する力
11．ストレス耐性	12．文章を書く力
13．プロジェクトやタスクのマネジメント力	14．特にない
15．募集・採用実績等がなく考えたことがないためわからない	

（２）企業のお立場から、以下のうち、今後文系の大学院において実施・充実したほうがよいと思われることがあれば、その内容についてお教えください（あてはまるものすべてを選択）

	修士課程	博士課程
A. 企業などと協働したカリキュラムの構築	A1	A2
B. 専門ばかりではない幅広い分野の知識等を身につけられるカリキュラム	B1	B2
C. 海外留学の機会の提供	C1	C2
D. 中長期インターンシップの仲介	D1	D2
E. 質を重視した厳正な学位審査	E1	E2
F. 企業など学外者からの高度で実践的な教育を受ける機会	F1	F2
G. チームワークを重視したワークショップやプロジェクト形式による授業や課題	G1	G2
H. 英語による授業	H1	H2
I. 企業などとの共同授業・研究	I1	I2
J. 文献調査など個人で突き詰めて行う課題や研究	J1	J2
K. 特にない	K1	K2

（３）その他、文系の大学院生の就職状況の改善のために必要と考えること、課題と感じていることがあれば、その内容についてお教えください。（貴社でどのような人材を採用したいか等をふまえ、大学や学生自身に対して求めることがあれば具体的に記載してください）

（２）単純集計結果

①大学院向け調査

１．貴研究科のことについて

１（２）分類

	件数	割合 N=445	割合 (除無回答) N=442
人文科学	140	31.5	31.7
社会科学	287	64.5	64.9
その他	15	3.4	3.4
無回答	3	0.7	－
全　体	445	100.0	100.0

１（３）学位の種類（複数回答）

	件数	割合 N=445	割合 (除無回答) N=445
修士	435	97.8	97.8
博士	324	72.8	72.8
無回答	0	0.0	－
全　体	759	－	－

２．貴研究科における教育目標・教育内容について

２（１）以下のような人材をどの程度輩出することを目指していますか

【1(3)で「修士」と回答した人のみ】

〈修士課程〉

			0	２割未満	２割以上 ４割未満	４割以上 ６割未満	６割以上 ８割未満	８割以上 10割未満	10割	無回答	全体	平均 (割)
件数	博士後期課程への進学者		53	142	148	56	6	2	1	27	435	2.0
	大学教員・研究者		206	130	55	8	2	0	0	34	435	0.8
	民間企業等の研究者		185	119	73	15	5	2	0	36	435	1.0
	高度専門職業人		41	49	84	89	58	66	18	30	435	4.4
	その他		153	65	83	41	27	18	7	41	435	2.1
割合	博士後期課程への進学者	N=435	12.2	32.6	34.0	12.9	1.4	0.5	0.2	6.2	100.0	
	大学教員・研究者	N=435	47.4	29.9	12.6	1.8	0.5	0.0	0.0	7.8	100.0	
	民間企業等の研究者	N=435	42.5	27.4	16.8	3.4	1.1	0.5	0.0	8.3	100.0	
	高度専門職業人	N=435	9.4	11.3	19.3	20.5	13.3	15.2	4.1	6.9	100.0	
	その他	N=435	35.2	14.9	19.1	9.4	6.2	4.1	1.6	9.4	100.0	
割合 (除無回答)	博士後期課程への進学者	N=408	13.0	34.8	36.3	13.7	1.5	0.5	0.2	－	100.0	
	大学教員・研究者	N=401	51.4	32.4	13.7	2.0	0.5	0.0	0.0	－	100.0	
	民間企業等の研究者	N=399	46.4	29.8	18.3	3.8	1.3	0.5	0.0	－	100.0	
	高度専門職業人	N=405	10.1	12.1	20.7	22.0	14.3	16.3	4.4	－	100.0	
	その他	N=394	38.8	16.5	21.1	10.4	6.9	4.6	1.8	－	100.0	

【1(3)で「博士」と回答した人のみ】

〈博士課程〉

			0	２割未満	２割以上 ４割未満	４割以上 ６割未満	６割以上 ８割未満	８割以上 10割未満	10割	無回答	全体	平均 (割)
件数	大学教員・研究者		8	35	57	77	39	56	27	25	324	5.2
	民間企業等の研究者		106	77	90	13	2	5	0	31	324	1.4
	高度専門職業人		68	68	85	44	13	12	6	28	324	2.4
	その他		170	56	32	13	5	6	3	39	324	1.1
割合	大学教員・研究者	N=324	2.5	10.8	17.6	23.8	12.0	17.3	8.3	7.7	100.0	
	民間企業等の研究者	N=324	32.7	23.8	27.8	4.0	0.6	1.5	0.0	9.6	100.0	
	高度専門職業人	N=324	21.0	21.0	26.2	13.6	4.0	3.7	1.9	8.6	100.0	
	その他	N=324	52.5	17.3	9.9	4.0	1.5	1.9	0.9	12.0	100.0	
割合 (除無回答)	大学教員・研究者	N=299	2.7	11.7	19.1	25.8	13.0	18.7	9.0	－	100.0	
	民間企業等の研究者	N=293	36.2	26.3	30.7	4.4	0.7	1.7	0.0	－	100.0	
	高度専門職業人	N=296	23.0	23.0	28.7	14.9	4.4	4.1	2.0	－	100.0	
	その他	N=285	59.6	19.6	11.2	4.6	1.8	2.1	1.1	－	100.0	

2（2）学生にどのような知識・技能を身に付けさせることを重視していますか（複数回答）

	件数		割合		割合（除無回答）	
	修士課程	博士課程	修士課程 N=435	博士課程 N=324	修士課程 N=435	博士課程 N=324
高度な専門的知識	408	310	93.8	95.7	93.8	95.7
高度な調査・研究能力	346	318	79.5	98.1	79.5	98.1
専門以外の分野の幅広い知識	256	111	58.9	34.3	58.9	34.3
物事を俯瞰し本質を見抜く力	307	237	70.6	73.1	70.6	73.1
独創的な能力	159	256	36.6	79.0	36.6	79.0
自ら課題を発見し解決に挑む力	376	270	86.4	83.3	86.4	83.3
論理的思考力	387	293	89.0	90.4	89.0	90.4
国際感覚・語学力	209	186	48.0	57.4	48.0	57.4
プレゼンテーション能力	261	180	60.0	55.6	60.0	55.6
他者と協働する力	177	91	40.7	28.1	40.7	28.1
ストレス耐性	74	57	17.0	17.6	17.0	17.6
文章を書く力	329	231	75.6	71.3	75.6	71.3
プロジェクトやタスクのマネジメント力	122	92	28.0	28.4	28.0	28.4
無回答	0	0	0.0	0.0	－	－
全　体	3,411	2,632	－	－	－	－

2（3）望ましい能力を持つ人材が大学院を目指していると思いますか

			とてもそう思う	ある程度そう思う	分からない	あまりそう思わない	全くそう思わない	無回答	全体
件数	修士課程		15	313	27	75	3	2	435
	博士課程		39	230	20	34	1	0	324
割合	修士課程	N=435	3.4	72.0	6.2	17.2	0.7	0.5	100.0
	博士課程	N=324	12.0	71.0	6.2	10.5	0.3	0.0	100.0
割合	修士課程	N=433	3.5	72.3	6.2	17.3	0.7	－	100.0
(除無回答)	博士課程	N=324	12.0	71.0	6.2	10.5	0.3	－	100.0

2（4）カリキュラム編成、授業・研究指導の内容・方法に関して

①実施・提供していること（複数回答）

		件数		割合		割合（除無回答）	
		修士課程	博士課程	修士課程 N=435	博士課程 N=324	修士課程 N=431	博士課程 N=318
カリキュラム	専門ばかりではない幅広い分野の知識等を身につけられるカリキュラム	296	118	68.0	36.4	68.7	37.1
	海外留学の機会の提供	112	77	25.7	23.8	26.0	24.2
	質を重視した厳正な学位審査	318	277	73.1	85.5	73.8	87.1
授業・研究指導の内容・方法	指導教員以外の教員からの指導	347	249	79.8	76.9	80.5	78.3
	チームワークを重視したワークショップやプロジェクト形式による授業や課題	113	60	26.0	18.5	26.2	18.9
	英語による授業	105	70	24.1	21.6	24.4	22.0
	アクティブラーニングなど双方向性のある授業	183	112	42.1	34.6	42.5	35.2
	他の研究機関等との研究交流・共同研究	106	93	24.4	28.7	24.6	29.2
	企業などとの共同授業・研究	53	30	12.2	9.3	12.3	9.4
	文献調査など個人で突き詰めて行う課題や研究	343	260	78.9	80.2	79.6	81.8
無回答		4	6	0.9	1.9	－	－
全　体		1,980	1,352	－	－	－	－

②今後実施・充実が必要と考えること（複数回答）

		件数		割合		割合（除無回答）	
		修士課程	博士課程	修士課程 N=435	博士課程 N=324	修士課程 N=371	博士課程 N=264
カリキュラム	専門ばかりではない幅広い分野の知識等を身につけられるカリキュラム	84	63	19.3	19.4	22.6	23.9
	海外留学の機会の提供	163	129	37.5	39.8	43.9	48.9
	質を重視した厳正な学位審査	95	49	21.8	15.1	25.6	18.6
授業・研究指導の内容・方法	指導教員以外の教員からの指導	85	60	19.5	18.5	22.9	22.7
	チームワークを重視したワークショップやプロジェクト形式による授業や課題	136	86	31.3	26.5	36.7	32.6
	英語による授業	170	119	39.1	36.7	45.8	45.1
	アクティブラーニングなど双方向性のある授業	123	70	28.3	21.6	33.2	26.5
	他の研究機関等との研究交流・共同研究	191	150	43.9	46.3	51.5	56.8
	企業などとの共同授業・研究	156	90	35.9	27.8	42.0	34.1
	文献調査など個人で突き詰めて行う課題や研究	50	32	11.5	9.9	13.5	12.1
無回答		64	60	14.7	18.5	－	－
全　体		1,317	908	－	－	－	－

３．貴研究科における修了者の就職状況等について

３（１）平成２５年度修了者の就職状況について

【1(3)で「修士」と回答した人のみ】

〈修士課程〉

			０人	～４人	５～９人	10～14人	15～19人	20人以上	無回答	全体	平均（人）
件数	博士後期課程への進学者		214	157	23	11	6	9	15	435	2.1
	就職者		37	164	101	40	27	50	16	435	9.0
	うち、大学教員・研究者		370	36	0	0	0	1	28	435	0.2
	うち、民間企業等の研究者		382	20	0	2	2	1	28	435	0.3
	うち、高度専門職業人		286	82	31	7	5	1	23	435	1.4
	うち、上記以外		81	165	74	35	21	33	26	435	7.0
	その他		88	159	83	41	23	28	13	435	5.9
割合	博士後期課程への進学者	N=435	49.2	36.1	5.3	2.5	1.4	2.1	3.4	100.0	
	就職者	N=435	8.5	37.7	23.2	9.2	6.2	11.5	3.7	100.0	
	うち、大学教員・研究者	N=435	85.1	8.3	0.0	0.0	0.0	0.2	6.4	100.0	
	うち、民間企業等の研究者	N=435	87.8	4.6	0.0	0.5	0.5	0.2	6.4	100.0	
	うち、高度専門職業人	N=435	65.7	18.9	7.1	1.6	1.1	0.2	5.3	100.0	
	うち、上記以外	N=435	18.6	37.9	17.0	8.0	4.8	7.6	6.0	100.0	
	その他	N=435	20.2	36.6	19.1	9.4	5.3	6.4	3.0	100.0	
割合（除無回答）	博士後期課程への進学者	N=420	51.0	37.4	5.5	2.6	1.4	2.1	－	100.0	
	就職者	N=419	8.8	39.1	24.1	9.5	6.4	11.9	－	100.0	
	うち、大学教員・研究者	N=407	90.9	8.8	0.0	0.0	0.0	0.2	－	100.0	
	うち、民間企業等の研究者	N=407	93.9	4.9	0.0	0.5	0.5	0.2	－	100.0	
	うち、高度専門職業人	N=412	69.4	19.9	7.5	1.7	1.2	0.2	－	100.0	
	うち、上記以外	N=409	19.8	40.3	18.1	8.6	5.1	8.1	－	100.0	
	その他	N=422	20.9	37.7	19.7	9.7	5.5	6.6	－	100.0	

【1(3)で「博士」と回答した人のみ】

〈博士課程〉

			０人	～４人	５～９人	10～14人	15～19人	20人以上	無回答	全体	平均（人）
件数	就職者		145	105	31	9	3	1	30	324	1.8
	うち、大学教員・研究者		183	86	15	2	2	0	36	324	1.1
	うち、民間企業等の研究者		274	10	2	0	0	0	38	324	0.1
	うち、高度専門職業人		268	20	0	0	0	0	36	324	0.1
	うち、上記以外		207	71	8	0	0	0	38	324	0.6
	その他		151	108	21	9	4	1	30	324	1.8
割合	就職者	N=324	44.8	32.4	9.6	2.8	0.9	0.3	9.3	100.0	
	うち、大学教員・研究者	N=445	41.1	19.3	3.4	0.4	0.4	0.0	8.1	72.8	
	うち、民間企業等の研究者	N=445	61.6	2.2	0.4	0.0	0.0	0.0	8.5	72.8	
	うち、高度専門職業人	N=445	60.2	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	8.1	72.8	
	うち、上記以外	N=445	46.5	16.0	1.8	0.0	0.0	0.0	8.5	72.8	
	その他	N=445	33.9	24.3	4.7	2.0	0.9	0.2	6.7	72.8	
割合（除無回答）	就職者	N=294	49.3	35.7	10.5	3.1	1.0	0.3	－	100.0	
	うち、大学教員・研究者	N=409	44.7	21.0	3.7	0.5	0.5	0.0	－	70.4	
	うち、民間企業等の研究者	N=407	67.3	2.5	0.5	0.0	0.0	0.0	－	70.3	
	うち、高度専門職業人	N=409	65.5	4.9	0.0	0.0	0.0	0.0	－	70.4	
	うち、上記以外	N=407	50.9	17.4	2.0	0.0	0.0	0.0	－	70.3	
	その他	N=415	36.4	26.0	5.1	2.2	1.0	0.2	－	70.8	

３（２）大学院生に対する産業界の人材ニーズについて、どのように情報を得ていますか（複数回答）

	件数	割合 N=445	割合（除無回答） N=423
企業からの求人情報や冊子、ホームページ等の公開情報から情報を得ている	264	59.3	62.4
人材マッチングサービス・就職情報提供サービス等を行う企業等から情報を得ている	101	22.7	23.9
企業の担当者等との交流や情報交換の機会等を組織的に設けて情報を得ている	132	29.7	31.2
教員の個人的なネットワーク等を通じて企業等からの情報を得ている	270	60.7	63.8
企業に就職した修了生や研究科に入学している社会人学生から情報を得ている	184	41.3	43.5
産業界の人材ニーズに関する情報を把握する必要性を感じていない	14	3.1	3.3
その他	29	6.5	6.9
無回答	22	4.9	－
全　体	1,016	－	－

②修了者向け調査

１．あなたのことについて

１（１）現在の状況についてお教えください

	件数	割合 N=2,226	割合 (除在学中) N=1,887
大学院等に在学中である（本調査の対象外）	339	15.2	－
働いている	1,673	75.2	88.7
求職中	77	3.5	4.1
専業主夫・主婦	38	1.7	2.0
資格取得や進学のために準備している	29	1.3	1.5
その他	70	3.1	3.7
全　　体	2,226	100.0	100.0

【１（１）で「働いている」と回答した者のみ】

１（１－１）主たる収入を得ている仕事の所属先についてお教えください

	件数	割合 N=1,673
高等教育機関	447	26.7
その他教育機関（小・中・高等学校等）	148	8.8
公的研究機関	26	1.6
民間企業等（公益法人、ＮＰＯ等を含む）	629	37.6
官公庁及び関連施設（公的な博物館、資料館、文書館等を含む）	201	12.0
自営業	120	7.2
その他	102	6.1
全　　体	1,673	100.0

【１（１）で「働いている」と回答した者のみ】

１（１－２）主たる収入を得ている仕事の職種をお教えください

	件数	割合 N=1,673
教員・研究者	571	34.1
高度専門職業人	287	17.2
その他	815	48.7
全　　体	1,673	100.0

【１（１）で「働いている」と回答した者のみ】

１（１－３）主たる収入を得ている仕事の雇用形態についてお教えください

	件数	割合 N=1,673
正規雇用（常勤、フルタイム雇用であり、雇用期間の定めのないもの）	1,208	72.2
非正規雇用（上記以外）	465	27.8
全　　体	1,673	100.0

【１（１）で「働いている」と回答した者のみ】

１（１－４）主たる収入を得ている仕事の職務内容は、最終的に修了した大学院の専門分野と関係していますか

	件数	割合 N=1,673
とても関係している	772	46.1
やや関係している	476	28.5
どちらともいえない	125	7.5
あまり関係していない	156	9.3
全く関係していない	144	8.6
全　　体	1,673	100.0

1（2）性別

	件数	割合 N=1,887
男性	1,059	56.1
女性	828	43.9
全　体	1,887	100.0

1（3）年齢

	件数	割合 N=1,887
２０歳代前半	48	2.5
２０歳代後半	653	34.6
３０歳代前半	430	22.8
３０歳代後半	255	13.5
４０歳代前半	153	8.1
４０歳代後半	100	5.3
５０歳代前半	91	4.8
５０歳代後半	53	2.8
６０歳以上	104	5.5
全　体	1,887	100.0

1（4）大学院入学前に社会人としての経験はありますか

	件数	割合 N=1,887
ある（在職又は休職中）	586	31.1
ある（退職）	295	15.6
ない	1,006	53.3
全　体	1,887	100.0

２．最終的に修了した大学院のことについて

2（1）設置主体

	件数	割合 N=1,887
国立	558	29.6
公立	76	4.0
私立	1,253	66.4
全　体	1,887	100.0

2（1）課程

	件数	割合 N=1,887
修士（博士前期）課程	1,333	70.6
博士後期課程	533	28.2
５年一貫博士課程	21	1.1
全　体	1,887	100.0

【２（１）で「修士（博士前期）課程」と回答した者のみ】

2（1－1）博士後期課程へ進学しなかったのはなぜですか（複数回答）

	件数	割合 N=1,333
大学教員などの仕事に魅力を感じなかったから	117	8.8
博士後期課程に進学すると就職が困難になると思ったから	261	19.6
博士後期課程に進学すると生活の経済的見通しが立たなかったから	378	28.4
博士後期課程進学のコストに対して生涯賃金などのパフォーマンスが悪いから	176	13.2
社会に出て仕事し、経済的に自立したかったから	443	33.2
希望の就職先がみつかったから	148	11.1
博士論文を書き上げることが難しいと感じたから	304	22.8
もともと進学する予定ではなかったから	637	47.8
その他	182	13.7
全　体	2,646	－

2（2）最終的に修了した研究科・専攻が扱う学問分野が以下のどの分類に該当するか、お教えください

	件数	割合 N=1,887
人文科学関係（文学、史学、哲学、地理学等）	738	39.1
社会科学関係（法学、政治学、商学、経済学、社会学等）	1,026	54.4
その他	123	6.5
全　　体	1,887	100.0

2（3）あなたが最終的に修了した大学院・課程に進学した理由・動機をお教えください（複数回答）

	件数	割合 N=1,887
大学教員や研究者になりたかったから	625	33.1
専門分野をより深く学びたかったから	1,460	77.4
学位を取得したかったから	687	36.4
よりよい就職や処遇に繋がると考えたから	405	21.5
資格取得に必要だったから	273	14.5
指導教員に勧められたから	174	9.2
就職したかったが、希望の就職先がみつからなかったから	88	4.7
社会に出て仕事をしたくなかったから	87	4.6
その他	105	5.6
全　　体	3,904	－

3．修了した大学院・研究科での研究・教育の実施内容等について

3（1）①仕事をする上で、特に強く求められていると考える能力等（複数回答）

	件数	割合 N=1,887
高度な専門的知識	1,100	58.3
高度な調査・研究能力	810	42.9
専門以外の分野の幅広い知識	1,128	59.8
物事を俯瞰し本質を見抜く力	1,269	67.2
独創的な能力	741	39.3
自ら課題を発見し解決に挑む力	1,319	69.9
論理的思考力	1,264	67.0
国際感覚・語学力	816	43.2
プレゼンテーション能力	1,164	61.7
他者と協働する力	1,415	75.0
ストレス耐性	1,300	68.9
文章を書く力	1,085	57.5
プロジェクトやタスクのマネジメント力	1,037	55.0
あてはまるものはない	10	0.5
全　　体	14,458	－

3（1）②大学院教育を通じて身に付いたと考える能力等（複数回答）

	件数	割合 N=1,887
高度な専門的知識	1,365	72.3
高度な調査・研究能力	1,313	69.6
専門以外の分野の幅広い知識	583	30.9
物事を俯瞰し本質を見抜く力	923	48.9
独創的な能力	528	28.0
自ら課題を発見し解決に挑む力	1,093	57.9
論理的思考力	1,371	72.7
国際感覚・語学力	616	32.6
プレゼンテーション能力	825	43.7
他者と協働する力	416	22.0
ストレス耐性	581	30.8
文章を書く力	1,323	70.1
プロジェクトやタスクのマネジメント力	348	18.4
あてはまるものはない	34	1.8
全　　体	11,319	－

3（2）①大学院・研究科において実施・提供されていたこと（複数回答）

	件数	割合 N=1,887
専門ばかりではない幅広い分野の知識等を身に付けられるカリキュラム	1,026	54.4
海外留学の機会の提供	471	25.0
質を重視した厳正な学位審査	891	47.2
指導教員以外の教員からの指導	1,305	69.2
企業など学外者からの高度で実践的な教育を受ける機会	525	27.8
主専攻以外の分野の授業等の履修	984	52.1
チームワークを重視したワークショップやプロジェクト形式による授業や課題	500	26.5
英語による授業	481	25.5
アクティブラーニングなど双方向性のある授業	476	25.2
他の研究機関等との研究交流・共同研究	381	20.2
企業などとの共同授業・研究	172	9.1
文献調査など個人で突き詰めて行う課題や研究	1,293	68.5
企業などにおいて必要とされる能力や人材ニーズ等の把握・情報提供	256	13.6
大学院修了者の就職率や就職先に関する情報の提供	411	21.8
中長期インターンシップの仲介	139	7.4
指導教員による就職先の紹介	327	17.3
大学院生向けのガイダンスや説明会、個別相談会や企業などとのマッチングの機会	272	14.4
あてはまるものはない	50	2.6
全　体	9,960	－

3（2）②大学院・研究科においてもっと充実していてほしかったと考えること（複数回答）

	件数	割合 N=1,887
専門ばかりではない幅広い分野の知識等を身に付けられるカリキュラム	450	23.8
海外留学の機会の提供	532	28.2
質を重視した厳正な学位審査	309	16.4
指導教員以外の教員からの指導	356	18.9
企業など学外者からの高度で実践的な教育を受ける機会	637	33.8
主専攻以外の分野の授業等の履修	304	16.1
チームワークを重視したワークショップやプロジェクト形式による授業や課題	468	24.8
英語による授業	419	22.2
アクティブラーニングなど双方向性のある授業	359	19.0
他の研究機関等との研究交流・共同研究	741	39.3
企業などとの共同授業・研究	617	32.7
文献調査など個人で突き詰めて行う課題や研究	198	10.5
企業などにおいて必要とされる能力や人材ニーズ等の把握・情報提供	623	33.0
大学院修了者の就職率や就職先に関する情報の提供	712	37.7
中長期インターンシップの仲介	487	25.8
指導教員による就職先の紹介	583	30.9
大学院生向けのガイダンスや説明会、個別相談会や企業などとのマッチングの機会	593	31.4
あてはまるものはない	206	10.9
全　体	8,594	－

4．研究・教育内容や修了後の進路・就職に関する満足度等について

4（1）次のようなことについて、あなたはどの程度満足していますか

			とても満足している	ある程度満足している	あまり満足していない	全く満足していない	全体
件数	所属していた研究科・専攻の教員の質		1033	692	121	41	1,887
	所属していた研究科・専攻のカリキュラムの内容		643	970	231	43	1,887
	あなたの研究テーマと指導教員の専門性の一致		946	700	186	55	1,887
	専攻の規模や学生数		653	867	294	73	1,887
	大学院修了後の進路や就職先		498	830	375	184	1,887
割合	所属していた研究科・専攻の教員の質	N=1,887	54.7	36.7	6.4	2.2	100.0
	所属していた研究科・専攻のカリキュラムの内容	N=1,887	34.1	51.4	12.2	2.3	100.0
	あなたの研究テーマと指導教員の専門性の一致	N=1,887	50.1	37.1	9.9	2.9	100.0
	専攻の規模や学生数	N=1,887	34.6	45.9	15.6	3.9	100.0
	大学院修了後の進路や就職先	N=1,887	26.4	44.0	19.9	9.8	100.0

③企業向け調査

１．貴社のことについて

１（１）業種

	件数	割合 N=260	割合 (除無回答) N=253
農業・林業	0	0.0	0.0
漁業	0	0.0	0.0
鉱業、採石業、砂利採取業	1	0.4	0.4
建設業	19	7.3	7.5
製造業	112	43.1	44.3
電気・ガス・熱供給・水道業	4	1.5	1.6
情報通信業	16	6.2	6.3
運輸業、郵便業	5	1.9	2.0
卸売業、小売業	38	14.6	15.0
金融業、保険業	26	10.0	10.3
不動産業、物品賃貸業	7	2.7	2.8
学術研究、専門・技術サービス業	3	1.2	1.2
宿泊業、飲食サービス業	7	2.7	2.8
生活関連サービス業、娯楽業	4	1.5	1.6
教育、学習支援業	0	0.0	0.0
医療、福祉	1	0.4	0.4
その他のサービス業	3	1.2	1.2
その他	7	2.7	2.8
無回答	7	2.7	－
全　体	260	100.0	100.0

１（２）従業員数

	件数	割合 N=260	割合 (除無回答) N=260
100人未満	6	2.3	2.3
100人以上300人未満	13	5.0	5.0
300人以上1000人未満	68	26.2	26.2
1000人以上3000人未満	96	36.9	36.9
3000人以上１万人未満	51	19.6	19.6
１万人以上	26	10.0	10.0
無回答	0	0.0	－
全　体	260	100.0	100.0

１（３）資本金

	件数	割合 N=260	割合 (除無回答) N=259
10億円未満	15	5.8	5.8
10億円以上30億円未満	32	12.3	12.4
30億円以上50億円未満	23	8.8	8.9
50億円以上100億円未満	63	24.2	24.3
100億円以上200億円未満	49	18.8	18.9
200億円以上500億円未満	35	13.5	13.5
500億円以上	42	16.2	16.2
無回答	1	0.4	－
全　体	260	100.0	100.0

１（４）設立年

	件数	割合 N=260	割合 (除無回答) N=259
西暦1929年以前	61	23.5	23.6
西暦1930年～1939年	21	8.1	8.1
西暦1940年～1949年	41	15.8	15.8
西暦1950年～1959年	40	15.4	15.4
西暦1960年～1969年	32	12.3	12.4
西暦1970年～1979年	27	10.4	10.4
西暦1980年～1989年	7	2.7	2.7
西暦1990年～1999年	12	4.6	4.6
西暦2000年以降	18	6.9	6.9
無回答	1	0.4	－
全　体	260	100.0	100.0

２．貴社の採用活動の状況について

２（１）過去５年間での新規卒業者の採用状況について

			毎年必ず採用している	ほぼ毎年採用している	採用する年もある	採用していない	無回答	全体
件数	文系の学部の学生		196	40	15	8	1	260
	文系の修士課程の学生		18	30	137	73	2	260
	文系の博士課程の学生		2	3	57	195	3	260
	理系の学部の学生		164	52	35	7	2	260
	理系の修士課程の学生		117	43	71	27	2	260
	理系の博士課程の学生		12	17	96	132	3	260
割合	文系の学部の学生	N=260	75.4	15.4	5.8	3.1	0.4	100.0
	文系の修士課程の学生	N=260	6.9	11.5	52.7	28.1	0.8	100.0
	文系の博士課程の学生	N=260	0.8	1.2	21.9	75.0	1.2	100.0
	理系の学部の学生	N=260	63.1	20.0	13.5	2.7	0.8	100.0
	理系の修士課程の学生	N=260	45.0	16.5	27.3	10.4	0.8	100.0
	理系の博士課程の学生	N=260	4.6	6.5	36.9	50.8	1.2	100.0
割合	文系の学部の学生	N=259	75.7	15.4	5.8	3.1	－	100.0
(除無回答)	文系の修士課程の学生	N=258	7.0	11.6	53.1	28.3	－	100.0
	文系の博士課程の学生	N=257	0.8	1.2	22.2	75.9	－	100.0
	理系の学部の学生	N=258	63.6	20.2	13.6	2.7	－	100.0
	理系の修士課程の学生	N=258	45.3	16.7	27.5	10.5	－	100.0
	理系の博士課程の学生	N=257	4.7	6.6	37.4	51.4	－	100.0

【２（１）“Ｂ．文系の修士課程の学生”または“Ｃ．文系の博士課程の学生”で「採用していない」と回答した企業のみ】

２（１－１）文系の大学院修了者の採用実績がないのはなぜですか（複数回答）

	件数	割合 N=195	割合 (除無回答) N=175
文系大学院レベルの専門性を求めていないから	85	43.6	48.6
理系の大学院修了者と比較して能力等が物足りなく感じるから	2	1.0	1.1
学卒者と比較して能力等が物足りなく感じるから	2	1.0	1.1
同年代で既に働いている職員等と比較して能力等が物足りなく感じるから	12	6.2	6.9
文系の大学院修了者からの応募がないから	99	50.8	56.6
採用面接者に文系大学院修了者がいないため、大学院修了者の能力評価ができないから	7	3.6	4.0
その他	23	11.8	13.1
わからない	3	1.5	1.7
無回答	20	10.3	－
全　体	253	－	－

２（２）学卒者と大学院修了者とで初任給や昇給制度等について差を設けていますか

			採用実績がないためわからない	差を設けている	差を設けていない	無回答	全体
件数	初任給		7	201	51	1	260
	最初の配属先		7	4	246	3	260
	昇任のタイミング		8	62	185	5	260
	昇給のタイミング		8	48	199	5	260
割合	初任給	N=260	2.7	77.3	19.6	0.4	100.0
	最初の配属先	N=260	2.7	1.5	94.6	1.2	100.0
	昇任のタイミング	N=260	3.1	23.8	71.2	1.9	100.0
	昇給のタイミング	N=260	3.1	18.5	76.5	1.9	100.0
割合	初任給	N=259	2.7	77.6	19.7	－	100.0
(除無回答)	最初の配属先	N=257	2.7	1.6	95.7	－	100.0
	昇任のタイミング	N=255	3.1	24.3	72.5	－	100.0
	昇給のタイミング	N=255	3.1	18.8	78.0	－	100.0

２（３）大学院修了者の配属等について、大学院で学んできたことの専門性等を考慮していますか

			採用実績がないためわからない	とても考慮している	まあ考慮している	あまり考慮していない	まったく考慮していない	無回答	全体
件数	文系の修士(博士前期)課程の修了者		59	2	71	90	35	3	260
	文系の博士(博士後期)課程の修了者		163	1	27	43	22	4	260
	理系の修士(博士前期)課程の修了者		25	36	135	46	15	3	260
	理系の博士(博士後期)課程の修了者		106	42	75	22	12	3	260
割合	文系の修士(博士前期)課程の修了者	N=260	22.7	0.8	27.3	34.6	13.5	1.2	100.0
	文系の博士(博士後期)課程の修了者	N=260	62.7	0.4	10.4	16.5	8.5	1.5	100.0
	理系の修士(博士前期)課程の修了者	N=260	9.6	13.8	51.9	17.7	5.8	1.2	100.0
	理系の博士(博士後期)課程の修了者	N=260	40.8	16.2	28.8	8.5	4.6	1.2	100.0
割合	文系の修士(博士前期)課程の修了者	N=257	23.0	0.8	27.6	35.0	13.6	－	100.0
(除無回答)	文系の博士(博士後期)課程の修了者	N=256	63.7	0.4	10.5	16.8	8.6	－	100.0
	理系の修士(博士前期)課程の修了者	N=257	9.7	14.0	52.5	17.9	5.8	－	100.0
	理系の博士(博士後期)課程の修了者	N=257	41.2	16.3	29.2	8.6	4.7	－	100.0

2（4）大学院修了者の能力・資質全般について、採用後の印象をお答えください

			採用実績がないためわからない	期待を上回った	ほぼ期待通り	期待を下回った	わからない	無回答	全体
件数	文系の修士(博士前期)課程の修了者		64	4	138	3	46	5	260
	文系の博士(博士後期)課程の修了者		173	1	48	3	32	3	260
	理系の修士(博士前期)課程の修了者		28	6	188	3	31	4	260
	理系の博士(博士後期)課程の修了者		113	3	111	2	28	3	260
割合	文系の修士(博士前期)課程の修了者	N=260	24.6	1.5	53.1	1.2	17.7	1.9	100.0
	文系の博士(博士後期)課程の修了者	N=260	66.5	0.4	18.5	1.2	12.3	1.2	100.0
	理系の修士(博士前期)課程の修了者	N=260	10.8	2.3	72.3	1.2	11.9	1.5	100.0
	理系の博士(博士後期)課程の修了者	N=260	43.5	1.2	42.7	0.8	10.8	1.2	100.0
割合(除無回答)	文系の修士(博士前期)課程の修了者	N=255	25.1	1.6	54.1	1.2	18.0	－	100.0
	文系の博士(博士後期)課程の修了者	N=257	67.3	0.4	18.7	1.2	12.5	－	100.0
	理系の修士(博士前期)課程の修了者	N=256	10.9	2.3	73.4	1.2	12.1	－	100.0
	理系の博士(博士後期)課程の修了者	N=257	44.0	1.2	43.2	0.8	10.9	－	100.0

2（5）大学院修了者の採用に関して、今後採用数を増やしていく意向はありますか（複数回答）

	件数	割合 N=260	割合(除無回答) N=258
文系の修士課程修了者の採用を増やしていきたい	2	0.8	0.8
文系の博士課程修了者の採用を増やしていきたい	0	0.0	0.0
理系の修士・博士課程修了者の採用を増やしていきたい	33	12.7	12.8
優秀であれば、学卒者・大学院修了者を問わず採用数を増やしていきたい	194	74.6	75.2
大学院修了者の採用を増やす考えはない	20	7.7	7.8
わからない	29	11.2	11.2
その他	8	3.1	3.1
無回答	2	0.8	－
全　体	288	－	－

3．大学院教育に対する期待等について

3（1）入社を希望する新規卒業者に期待する知識・技能等について、文系の大学院生に関して特に高い水準で期待すること（複数回答）

	件数	割合 N=260	割合(除無回答) N=257
高度な専門的知識	53	20.4	20.6
高度な調査・研究能力	30	11.5	11.7
専門以外の分野の幅広い知識	47	18.1	18.3
物事を俯瞰し本質を見抜く力	127	48.8	49.4
独創的な能力	52	20.0	20.2
自ら課題を発見し解決に挑む力	176	67.7	68.5
論理的思考力	144	55.4	56.0
国際感覚・語学力	86	33.1	33.5
プレゼンテーション能力	68	26.2	26.5
他者と協働する力	126	48.5	49.0
ストレス耐性	116	44.6	45.1
文章を書く力	37	14.2	14.4
プロジェクトやタスクのマネジメント力	60	23.1	23.3
特にない	19	7.3	7.4
募集・採用実績等がなく考えたことがないためわからない	19	7.3	7.4
無回答	3	1.2	－
全　体	1,163	－	－

3（2）企業の立場から、今後文系の大学院において実施・充実したほうがよいと思われること（複数回答）

	件数		割合		割合（除無回答）	
	修士課程	博士課程	修士課程 N=260	博士課程 N=260	修士課程 N=244	博士課程 N=199
企業などと協働したカリキュラムの構築	70	50	26.9	19.2	28.7	25.1
専門ばかりではない幅広い分野の知識等を身につけられるカリキュラム	104	72	40.0	27.7	42.6	36.2
海外留学の機会の提供	76	51	29.2	19.6	31.1	25.6
中長期インターンシップの仲介	29	20	11.2	7.7	11.9	10.1
質を重視した厳正な学位審査	45	44	17.3	16.9	18.4	22.1
企業など学外者からの高度で実践的な教育を受ける機会	63	54	24.2	20.8	25.8	27.1
チームワークを重視したワークショップやプロジェクト形式による授業や課題	131	89	50.4	34.2	53.7	44.7
英語による授業	63	45	24.2	17.3	25.8	22.6
企業などとの共同授業・研究	54	48	20.8	18.5	22.1	24.1
文献調査など個人で突き詰めて行う課題や研究	23	21	8.8	8.1	9.4	10.6
特にない	43	49	16.5	18.8	17.6	24.6
無回答	16	61	6.2	23.5	－	－
全　体	717	604	－	－	－	－

（３）クロス集計結果

①現在の状況

			現在の状況についてお教えください。（一つを選択）					合計
			働いている	求職中	専業主夫・主婦	資格取得や進学のために準備している	その他	
性別	男性	度数	950	45	5	17	42	1059
		%	89.7%	4.2%	0.5%	1.6%	4.0%	100.0%
	女性	度数	723	32	33	12	28	828
		%	87.3%	3.9%	4.0%	1.4%	3.4%	100.0%
設置主体	国立	度数	514	20	7	2	15	558
		%	92.1%	3.6%	1.3%	0.4%	2.7%	100.0%
	公立	度数	69	2	0	1	4	76
		%	90.8%	2.6%	0.0%	1.3%	5.3%	100.0%
	私立	度数	1090	55	31	26	51	1253
		%	87.0%	4.4%	2.5%	2.1%	4.1%	100.0%
課程・専門分野	修士（博士前期）課程・人文科学関係	度数	418	13	17	13	15	476
		%	87.8%	2.7%	3.6%	2.7%	3.2%	100.0%
	修士（博士前期）課程・社会科学関係	度数	698	21	8	13	22	762
		%	91.6%	2.8%	1.0%	1.7%	2.9%	100.0%
	修士（博士前期）課程・その他	度数	85	2	4	1	3	95
		%	89.5%	2.1%	4.2%	1.1%	3.2%	100.0%
	博士後期課程・人文科学関係	度数	195	30	6	2	18	251
		%	77.7%	12.0%	2.4%	0.8%	7.2%	100.0%
	博士後期課程・社会科学関係	度数	237	10	1	0	8	256
		%	92.6%	3.9%	0.4%	0.0%	3.1%	100.0%
	博士後期課程・その他	度数	25	0	0	0	1	26
		%	96.2%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%	100.0%
	5年一貫博士課程・人文科学関係	度数	9	0	0	0	2	11
		%	81.8%	0.0%	0.0%	0.0%	18.2%	100.0%
	5年一貫博士課程・社会科学関係	度数	6	1	0	0	1	8
		%	75.0%	12.5%	0.0%	0.0%	12.5%	100.0%
	5年一貫博士課程・その他	度数	0	0	2	0	0	2
		%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
社会人経験の有無	ある（在職又は休職中）	度数	554	5	6	6	15	586
		%	94.5%	0.9%	1.0%	1.0%	2.6%	100.0%
	ある（退職）	度数	232	16	17	7	23	295
		%	78.6%	5.4%	5.8%	2.4%	7.8%	100.0%
	ない	度数	887	56	15	16	32	1006
		%	88.2%	5.6%	1.5%	1.6%	3.2%	100.0%
合計		度数	1673	77	38	29	70	1887
		%	88.7%	4.1%	2.0%	1.5%	3.7%	100.0%

②主たる収入を得ている仕事の所属先

			主たる収入を得ている仕事の所属先についてお教えください。（一つを選択）							合計
			高等教育機関	その他教育機関（小・中・高等学校等）	公的研究機関	民間企業等（公益法人、NPO等を含む）	官公庁及び関連施設（公的な博物館、資料館、文書館等を含む）	自営業	その他	
性別	男性	度数	240	61	13	385	120	93	38	950
		%	25.3%	6.4%	1.4%	40.5%	12.6%	9.8%	4.0%	100.0%
	女性	度数	207	87	13	244	81	27	64	723
		%	28.6%	12.0%	1.8%	33.7%	11.2%	3.7%	8.9%	100.0%
設置主体	国立	度数	160	25	12	196	84	19	18	514
		%	31.1%	4.9%	2.3%	38.1%	16.3%	3.7%	3.5%	100.0%
	公立	度数	15	12	0	25	11	4	2	69
		%	21.7%	17.4%	0.0%	36.2%	15.9%	5.8%	2.9%	100.0%
	私立	度数	272	111	14	408	106	97	82	1090
		%	25.0%	10.2%	1.3%	37.4%	9.7%	8.9%	7.5%	100.0%
課程・専門分野別	修士（博士前期）課程・人文科学関係	度数	78	89	7	141	44	20	39	418
		%	18.7%	21.3%	1.7%	33.7%	10.5%	4.8%	9.3%	100.0%
	修士（博士前期）課程・社会科学関係	度数	53	20	3	391	113	78	40	698
		%	7.6%	2.9%	0.4%	56.0%	16.2%	11.2%	5.7%	100.0%
	修士（博士前期）課程・その他	度数	12	13	1	27	13	4	15	85
		%	14.1%	15.3%	1.2%	31.8%	15.3%	4.7%	17.6%	100.0%
	博士後期課程・人文科学関係	度数	119	23	8	16	16	10	3	195
		%	61.0%	11.8%	4.1%	8.2%	8.2%	5.1%	1.5%	100.0%
	博士後期課程・社会科学関係	度数	159	0	6	45	14	8	5	237
		%	67.1%	0.0%	2.5%	19.0%	5.9%	3.4%	2.1%	100.0%
	博士後期課程・その他	度数	17	2	1	5	0	0	0	25
		%	68.0%	8.0%	4.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	5年一貫博士課程・人文科学関係	度数	7	1	0	1	0	0	0	9
		%	77.8%	11.1%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	5年一貫博士課程・社会科学関係	度数	2	0	0	3	1	0	0	6
		%	33.3%	0.0%	0.0%	50.0%	16.7%	0.0%	0.0%	100.0%
社会人経験の有無	ある（在職又は休職中）	度数	116	38	1	209	89	73	28	554
		%	20.9%	6.9%	0.2%	37.7%	16.1%	13.2%	5.1%	100.0%
	ある（退職）	度数	85	14	3	74	15	22	19	232
		%	36.6%	6.0%	1.3%	31.9%	6.5%	9.5%	8.2%	100.0%
	ない	度数	246	96	22	346	97	25	55	887
		%	27.7%	10.8%	2.5%	39.0%	10.9%	2.8%	6.2%	100.0%
合計		度数	447	148	26	629	201	120	102	1673
		%	26.7%	8.8%	1.6%	37.6%	12.0%	7.2%	6.1%	100.0%

③主たる収入を得ている仕事の職種

			主たる収入を得ている仕事の職種をお教えください。（一つを選択）			合計
			教員・研究者	高度専門職業人	その他	
性別	男性	度数	307	167	476	950
		%	32.3%	17.6%	50.1%	100.0%
	女性	度数	264	120	339	723
		%	36.5%	16.6%	46.9%	100.0%
設置主体	国立	度数	193	57	264	514
		%	37.5%	11.1%	51.4%	100.0%
	公立	度数	24	9	36	69
		%	34.8%	13.0%	52.2%	100.0%
	私立	度数	354	221	515	1090
		%	32.5%	20.3%	47.2%	100.0%
課程・専門分野別	修士（博士前期）課程・人文科学関係	度数	138	75	205	418
		%	33.0%	17.9%	49.0%	100.0%
	修士（博士前期）課程・社会科学関係	度数	59	156	483	698
		%	8.5%	22.3%	69.2%	100.0%
	修士（博士前期）課程・その他	度数	18	20	47	85
		%	21.2%	23.5%	55.3%	100.0%
	博士後期課程・人文科学関係	度数	152	10	33	195
		%	77.9%	5.1%	16.9%	100.0%
	博士後期課程・社会科学関係	度数	174	21	42	237
		%	73.4%	8.9%	17.7%	100.0%
	博士後期課程・その他	度数	20	3	2	25
		%	80.0%	12.0%	8.0%	100.0%
	5年一貫博士課程・人文科学関係	度数	8	1	0	9
		%	88.9%	11.1%	0.0%	100.0%
	5年一貫博士課程・社会科学関係	度数	2	1	3	6
		%	33.3%	16.7%	50.0%	100.0%
社会人経験の有無	ある（在職又は休職中）	度数	155	132	267	554
		%	28.0%	23.8%	48.2%	100.0%
	ある（退職）	度数	95	43	94	232
		%	40.9%	18.5%	40.5%	100.0%
	ない	度数	321	112	454	887
		%	36.2%	12.6%	51.2%	100.0%
合計		度数	571	287	815	1673
		%	34.1%	17.2%	48.7%	100.0%

④主たる収入を得ている仕事の雇用形態

			主たる収入を得ている仕事の雇用形態についてお教えください。（一つを選択）		合計
			正規雇用（常勤、フルタイム雇用であり、雇用期間の定めのないもの）	非正規雇用	
性別	男性	度数	766	184	950
		%	80.6%	19.4%	100.0%
	女性	度数	442	281	723
		%	61.1%	38.9%	100.0%
設置主体	国立	度数	429	85	514
		%	83.5%	16.5%	100.0%
	公立	度数	50	19	69
		%	72.5%	27.5%	100.0%
	私立	度数	729	361	1090
		%	66.9%	33.1%	100.0%
課程・専門分野別	修士（博士前期）課程・人文科学関係	度数	245	173	418
		%	58.6%	41.4%	100.0%
	修士（博士前期）課程・社会科学関係	度数	626	72	698
		%	89.7%	10.3%	100.0%
	修士（博士前期）課程・その他	度数	55	30	85
		%	64.7%	35.3%	100.0%
	博士後期課程・人文科学関係	度数	90	105	195
		%	46.2%	53.8%	100.0%
	博士後期課程・社会科学関係	度数	171	66	237
		%	72.2%	27.8%	100.0%
	博士後期課程・その他	度数	12	13	25
		%	48.0%	52.0%	100.0%
	5年一貫博士課程・人文科学関係	度数	6	3	9
		%	66.7%	33.3%	100.0%
	5年一貫博士課程・社会科学関係	度数	3	3	6
		%	50.0%	50.0%	100.0%
社会人経験の有無	ある（在職又は休職中）	度数	452	102	554
		%	81.6%	18.4%	100.0%
	ある（退職）	度数	136	96	232
		%	58.6%	41.4%	100.0%
	ない	度数	620	267	887
		%	69.9%	30.1%	100.0%
合計		度数	1208	465	1673
		%	72.2%	27.8%	100.0%

⑤主たる収入を得ている仕事の職務内容と大学院の専門分野との関係性

			主たる収入を得ている仕事の職務内容は、最終的に修了した大学院の専門分野と関係していますか。（一つを選択）					合計
			とても関係している	やや関係している	どちらともいえない	あまり関係していない	全く関係していない	
性別	男性	度数	444	269	66	90	81	950
		%	46.7%	28.3%	6.9%	9.5%	8.5%	100.0%
	女性	度数	328	207	59	66	63	723
		%	45.4%	28.6%	8.2%	9.1%	8.7%	100.0%
設置主体	国立	度数	234	145	39	56	40	514
		%	45.5%	28.2%	7.6%	10.9%	7.8%	100.0%
	公立	度数	27	22	6	6	8	69
		%	39.1%	31.9%	8.7%	8.7%	11.6%	100.0%
	私立	度数	511	309	80	94	96	1090
		%	46.9%	28.3%	7.3%	8.6%	8.8%	100.0%
課程・専門分野別	修士（博士前期）課程・人文科学関係	度数	185	92	38	43	60	418
		%	44.3%	22.0%	9.1%	10.3%	14.4%	100.0%
	修士（博士前期）課程・社会科学関係	度数	237	243	64	88	66	698
		%	34.0%	34.8%	9.2%	12.6%	9.5%	100.0%
	修士（博士前期）課程・その他	度数	47	25	6	4	3	85
		%	55.3%	29.4%	7.1%	4.7%	3.5%	100.0%
	博士後期課程・人文科学関係	度数	120	57	6	7	5	195
		%	61.5%	29.2%	3.1%	3.6%	2.6%	100.0%
	博士後期課程・社会科学関係	度数	158	46	10	13	10	237
		%	66.7%	19.4%	4.2%	5.5%	4.2%	100.0%
	博士後期課程・その他	度数	16	9	0	0	0	25
		%	64.0%	36.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	5年一貫博士課程・人文科学関係	度数	7	2	0	0	0	9
		%	77.8%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	5年一貫博士課程・社会科学関係	度数	2	2	1	1	0	6
		%	33.3%	33.3%	16.7%	16.7%	0.0%	100.0%
社会人経験の有無	ある（在職又は休職中）	度数	289	159	29	34	43	554
		%	52.2%	28.7%	5.2%	6.1%	7.8%	100.0%
	ある（退職）	度数	113	72	14	18	15	232
		%	48.7%	31.0%	6.0%	7.8%	6.5%	100.0%
	ない	度数	370	245	82	104	86	887
		%	41.7%	27.6%	9.2%	11.7%	9.7%	100.0%
合計		度数	772	476	125	156	144	1673
		%	46.1%	28.5%	7.5%	9.3%	8.6%	100.0%

⑥（修士（博士前期）課程修了者について）博士後期課程へ進学しなかった理由

			博士後期課程に進学しなかった理由（複数回答）									合計
			大学教員などの仕事に魅力を感じなかったから	博士後期課程に進学すると就職が困難になると思ったから	博士後期課程に進学すると生活の経済的見通しが立たなかったから	博士後期課程進学のコストに対して生涯賃金などのパフォーマンスが悪いから	社会に出て仕事し、経済的に自立したかったから	希望の就職先がみつかったから	博士論文を書き上げることが難しいと感じたから	もともと進学する予定ではなかったから	その他	
性別	男性	度数	59	140	212	104	207	70	147	361	110	728
		%	8.1%	19.2%	29.1%	14.3%	28.4%	9.6%	20.2%	49.6%	15.1%	
	女性	度数	58	121	166	72	236	78	157	276	72	605
		%	9.6%	20.0%	27.4%	11.9%	39.0%	12.9%	26.0%	45.6%	11.9%	
設置主体	国立	度数	30	72	94	45	116	48	87	156	54	357
		%	8.4%	20.2%	26.3%	12.6%	32.5%	13.4%	24.4%	43.7%	15.1%	
	公立	度数	8	13	16	5	22	11	15	27	11	62
		%	12.9%	21.0%	25.8%	8.1%	35.5%	17.7%	24.2%	43.5%	17.7%	
	私立	度数	79	176	268	126	305	89	202	454	117	914
		%	8.6%	19.3%	29.3%	13.8%	33.4%	9.7%	22.1%	49.7%	12.8%	
課程・専門分野別	修士（博士前期）課程・人文科学関係	度数	43	112	170	68	185	69	135	201	56	476
		%	9.0%	23.5%	35.7%	14.3%	38.9%	14.5%	28.4%	42.2%	11.8%	
	修士（博士前期）課程・社会科学関係	度数	64	138	181	97	231	72	150	388	110	762
		%	8.4%	18.1%	23.8%	12.7%	30.3%	9.4%	19.7%	50.9%	14.4%	
	修士（博士前期）課程・その他	度数	10	11	27	11	27	7	19	48	16	95
		%	10.5%	11.6%	28.4%	11.6%	28.4%	7.4%	20.0%	50.5%	16.8%	
社会人経験の有無	ある（在職又は休職中）	度数	30	23	92	54	50	17	90	262	92	450
		%	6.7%	5.1%	20.4%	12.0%	11.1%	3.8%	20.0%	58.2%	20.4%	
	ある（退職）	度数	15	28	51	21	53	18	48	87	26	194
		%	7.7%	14.4%	26.3%	10.8%	27.3%	9.3%	24.7%	44.8%	13.4%	
	ない	度数	72	210	235	101	340	113	166	288	64	689
		%	10.4%	30.5%	34.1%	14.7%	49.3%	16.4%	24.1%	41.8%	9.3%	
合計		度数	117	261	378	176	443	148	304	637	182	1333
		%	8.8%	19.6%	28.4%	13.2%	33.2%	11.1%	22.8%	47.8%	13.7%	

⑦最終的に修了した大学院・課程に進学した理由・動機

			最終的に修了した大学院・課程に進学した理由・動機（複数回答）									合計
			大学教員や研究者になりたかったから	専門分野をより深く学びたかったから	学位を取得したかったから	よりよい就職や処遇に繋がると考えたから	資格取得に必要だったから	指導教員に勧められたから	就職したかったが、希望の就職先がみつからなかったから	社会に出て仕事をしたくなかったから	その他	
性別	男性	度数	384	812	397	214	128	93	48	53	65	1059
		%	36.3%	76.7%	37.5%	20.2%	12.1%	8.8%	4.5%	5.0%	6.1%	
	女性	度数	241	648	290	191	145	81	40	34	40	828
		%	29.1%	78.3%	35.0%	23.1%	17.5%	9.8%	4.8%	4.1%	4.8%	
設置主体	国立	度数	220	414	220	124	13	43	24	32	38	558
		%	39.4%	74.2%	39.4%	22.2%	2.3%	7.7%	4.3%	5.7%	6.8%	
	公立	度数	20	64	39	19	8	9	3	4	9	76
		%	26.3%	84.2%	51.3%	25.0%	10.5%	11.8%	3.9%	5.3%	11.8%	
	私立	度数	385	982	428	262	252	122	61	51	58	1253
		%	30.7%	78.4%	34.2%	20.9%	20.1%	9.7%	4.9%	4.1%	4.6%	
課程・専門分野別	修士（博士前期）課程・人文科学関係	度数	108	397	143	111	111	49	27	32	20	476
		%	22.7%	83.4%	30.0%	23.3%	23.3%	10.3%	5.7%	6.7%	4.2%	
	修士（博士前期）課程・社会科学関係	度数	124	587	300	191	113	60	45	34	56	762
		%	16.3%	77.0%	39.4%	25.1%	14.8%	7.9%	5.9%	4.5%	7.3%	
	修士（博士前期）課程・その他	度数	13	73	23	15	34	8	2	2	11	95
		%	13.7%	76.8%	24.2%	15.8%	35.8%	8.4%	2.1%	2.1%	11.6%	
	博士後期課程・人文科学関係	度数	175	199	94	42	8	21	8	11	7	251
		%	69.7%	79.3%	37.5%	16.7%	3.2%	8.4%	3.2%	4.4%	2.8%	
	博士後期課程・社会科学関係	度数	179	172	107	40	5	33	5	8	9	256
		%	69.9%	67.2%	41.8%	15.6%	2.0%	12.9%	2.0%	3.1%	3.5%	
	博士後期課程・その他	度数	13	19	14	4	1	3	0	0	0	26
		%	50.0%	73.1%	53.8%	15.4%	3.8%	11.5%	0.0%	0.0%	0.0%	
	5年一貫博士課程・人文科学関係	度数	10	8	5	2	1	0	0	0	0	11
		%	90.9%	72.7%	45.5%	18.2%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	5年一貫博士課程・社会科学関係	度数	3	5	1	0	0	0	1	0	0	8
		%	37.5%	62.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	
	5年一貫博士課程・その他	度数	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
		%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
社会人経験の有無	ある（在職又は休職中）	度数	132	455	263	112	97	28	3	2	63	586
		%	22.5%	77.6%	44.9%	19.1%	16.6%	4.8%	0.5%	0.3%	10.8%	
	ある（退職）	度数	101	214	122	70	42	24	3	4	20	295
		%	34.2%	72.5%	41.4%	23.7%	14.2%	8.1%	1.0%	1.4%	6.8%	
	ない	度数	392	791	302	223	134	122	82	81	22	1006
		%	39.0%	78.6%	30.0%	22.2%	13.3%	12.1%	8.2%	8.1%	2.2%	
合計		度数	625	1460	687	405	273	174	88	87	105	1887
		%	33.1%	77.4%	36.4%	21.5%	14.5%	9.2%	4.7%	4.6%	5.6%	

⑧仕事をする上で、特に強く求められていると考える能力等

			仕事をする上で特に強く求められていると考える能力（複数回答）														合計
			高度な専門的知識	高度な調査・研究能力	専門以外の分野の幅広い知識	物事を俯瞰し本質を見抜く力	独創的な能力	自ら課題を発見し解決に挑む力	論理的思考力	国際感覚・語学力	プレゼンテーション能力	他者と協働する力	ストレス耐性	文章を書く力	プロジェクトやタスクのマネジメント力	あてはまるものはない	
性別	男性	度数	619	501	627	715	422	729	726	413	678	749	697	615	602	8	1059
		%	58.5%	47.3%	59.2%	67.5%	39.8%	68.8%	68.6%	39.0%	64.0%	70.7%	65.8%	58.1%	56.8%	0.8%	
	女性	度数	481	309	501	554	319	590	538	403	486	666	603	470	435	2	828
		%	58.1%	37.3%	60.5%	66.9%	38.5%	71.3%	65.0%	48.7%	58.7%	80.4%	72.8%	56.8%	52.5%	0.2%	
設置主体	国立	度数	303	278	332	383	215	385	391	282	365	413	396	350	350	3	558
		%	54.3%	49.8%	59.5%	68.6%	38.5%	69.0%	70.1%	50.5%	65.4%	74.0%	71.0%	62.7%	62.7%	0.5%	
	公立	度数	43	30	43	52	33	51	57	28	51	54	48	42	39	0	76
		%	56.6%	39.5%	56.6%	68.4%	43.4%	67.1%	75.0%	36.8%	67.1%	71.1%	63.2%	55.3%	51.3%	0.0%	
	私立	度数	754	502	753	834	493	883	816	506	748	948	856	693	648	7	1253
		%	60.2%	40.1%	60.1%	66.6%	39.3%	70.5%	65.1%	40.4%	59.7%	75.7%	68.3%	55.3%	51.7%	0.6%	
課程・専門分野別	修士（博士前期）課程・人文科学関係	度数	262	146	282	306	173	339	304	195	252	389	338	268	218	4	476
		%	55.0%	30.7%	59.2%	64.3%	36.3%	71.2%	63.9%	41.0%	52.9%	81.7%	71.0%	56.3%	45.8%	0.8%	
	修士（博士前期）課程・社会科学関係	度数	367	277	451	531	264	543	512	279	489	561	538	411	461	1	762
		%	48.2%	36.4%	59.2%	69.7%	34.6%	71.3%	67.2%	36.6%	64.2%	73.6%	70.6%	53.9%	60.5%	0.1%	
	修士（博士前期）課程・その他	度数	62	32	50	66	38	63	61	29	57	78	61	50	49	2	95
		%	65.3%	33.7%	52.6%	69.5%	40.0%	66.3%	64.2%	30.5%	60.0%	82.1%	64.2%	52.6%	51.6%	2.1%	
	博士後期課程・人文科学関係	度数	176	151	164	164	118	166	176	140	159	181	169	154	123	2	251
		%	70.1%	60.2%	65.3%	65.3%	47.0%	66.1%	70.1%	55.8%	63.3%	72.1%	67.3%	61.4%	49.0%	0.8%	
	博士後期課程・社会科学関係	度数	196	169	150	167	124	173	179	146	177	171	161	170	154	1	256
		%	76.6%	66.0%	58.6%	65.2%	48.4%	67.6%	69.9%	57.0%	69.1%	66.8%	62.9%	66.4%	60.2%	0.4%	
	博士後期課程・その他	度数	20	20	17	21	14	19	20	14	17	19	22	20	19	0	26
		%	76.9%	76.9%	65.4%	80.8%	53.8%	73.1%	76.9%	53.8%	65.4%	73.1%	84.6%	76.9%	73.1%	0.0%	
	5年一貫博士課程・人文科学関係	度数	10	8	7	7	5	9	5	8	8	8	7	6	8	0	11
		%	90.9%	72.7%	63.6%	63.6%	45.5%	81.8%	45.5%	72.7%	72.7%	72.7%	63.6%	54.5%	72.7%	0.0%	
	5年一貫博士課程・社会科学関係	度数	5	5	5	5	4	5	6	3	4	6	4	5	4	0	8
		%	62.5%	62.5%	62.5%	62.5%	50.0%	62.5%	75.0%	37.5%	50.0%	75.0%	50.0%	62.5%	50.0%	0.0%	
	5年一貫博士課程・その他	度数	2	2	2	2	1	2	1	2	1	2	0	1	1	0	2
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	50.0%	100.0%	50.0%	100.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	
社会人経験の有無	ある（在職又は休職中）	度数	384	265	333	399	240	424	408	218	369	404	343	347	336	3	586
		%	65.5%	45.2%	56.8%	68.1%	41.0%	72.4%	69.6%	37.2%	63.0%	68.9%	58.5%	59.2%	57.3%	0.5%	
	ある（退職）	度数	199	141	164	204	126	203	185	159	183	211	186	165	160	1	295
		%	67.5%	47.8%	55.6%	69.2%	42.7%	68.8%	62.7%	53.9%	62.0%	71.5%	63.1%	55.9%	54.2%	0.3%	
	ない	度数	517	404	631	666	375	692	671	439	612	800	771	573	541	6	1006
		%	51.4%	40.2%	62.7%	66.2%	37.3%	68.8%	66.7%	43.6%	60.8%	79.5%	76.6%	57.0%	53.8%	0.6%	
合計		度数	1100	810	1128	1269	741	1319	1264	816	1164	1415	1300	1085	1037	10	1887
		%	58.3%	42.9%	59.8%	67.2%	39.3%	69.9%	67.0%	43.2%	61.7%	75.0%	68.9%	57.5%	55.0%	0.5%	

⑨大学院教育を通じて身に付いたと考える能力等

			大学院教育を通じて身に付いたと考えること（複数回答）														合計
			高度な専門的知識	高度な調査・研究能力	専門以外の分野の幅広い知識	物事を俯瞰し本質を見抜く力	独創的な能力	自ら課題を発見し解決に挑む力	論理的思考力	国際感覚・語学力	プレゼンテーション能力	他者と協働する力	ストレス耐性	文章を書く力	プロジェクトやタスクのマネジメント力	あてはまるものはない	
性別	男性	度数	786	745	354	539	309	601	770	310	434	223	296	713	198	21	1059
		%	74.2%	70.3%	33.4%	50.9%	29.2%	56.8%	72.7%	29.3%	41.0%	21.1%	28.0%	67.3%	18.7%	2.0%	
	女性	度数	579	568	229	384	219	492	601	306	391	193	285	610	150	13	828
		%	69.9%	68.6%	27.7%	46.4%	26.4%	59.4%	72.6%	37.0%	47.2%	23.3%	34.4%	73.7%	18.1%	1.6%	
設置主体	国立	度数	396	378	171	280	164	333	408	221	237	106	172	367	106	11	558
		%	71.0%	67.7%	30.6%	50.2%	29.4%	59.7%	73.1%	39.6%	42.5%	19.0%	30.8%	65.8%	19.0%	2.0%	
	公立	度数	51	50	33	36	17	43	58	21	39	18	25	53	20	2	76
		%	67.1%	65.8%	43.4%	47.4%	22.4%	56.6%	76.3%	27.6%	51.3%	23.7%	32.9%	69.7%	26.3%	2.6%	
	私立	度数	918	885	379	607	347	717	905	374	549	292	384	903	222	21	1253
		%	73.3%	70.6%	30.2%	48.4%	27.7%	57.2%	72.2%	29.8%	43.8%	23.3%	30.6%	72.1%	17.7%	1.7%	
課程・専門分野別	修士（博士前期）課程・人文科学関係	度数	332	311	131	219	127	286	330	153	196	119	163	354	73	8	476
		%	69.7%	65.3%	27.5%	46.0%	26.7%	60.1%	69.3%	32.1%	41.2%	25.0%	34.2%	74.4%	15.3%	1.7%	
	修士（博士前期）課程・社会科学関係	度数	505	490	261	373	165	410	572	226	322	146	193	501	137	13	762
		%	66.3%	64.3%	34.3%	49.0%	21.7%	53.8%	75.1%	29.7%	42.3%	19.2%	25.3%	65.7%	18.0%	1.7%	
	修士（博士前期）課程・その他	度数	70	57	22	35	15	50	60	27	52	21	25	57	22	2	95
		%	73.7%	60.0%	23.2%	36.8%	15.8%	52.6%	63.2%	28.4%	54.7%	22.1%	26.3%	60.0%	23.2%	2.1%	
	博士後期課程・人文科学関係	度数	210	213	78	135	96	163	194	103	118	54	87	194	43	4	251
		%	83.7%	84.9%	31.1%	53.8%	38.2%	64.9%	77.3%	41.0%	47.0%	21.5%	34.7%	77.3%	17.1%	1.6%	
	博士後期課程・社会科学関係	度数	208	209	81	133	107	156	185	86	117	65	90	186	64	5	256
		%	81.3%	81.6%	31.6%	52.0%	41.8%	60.9%	72.3%	33.6%	45.7%	25.4%	35.2%	72.7%	25.0%	2.0%	
	博士後期課程・その他	度数	21	17	3	14	7	15	18	9	9	4	10	16	4	2	26
		%	80.8%	65.4%	11.5%	53.8%	26.9%	57.7%	69.2%	34.6%	34.6%	15.4%	38.5%	61.5%	15.4%	7.7%	
	5年一貫博士課程・人文科学関係	度数	11	10	3	6	6	8	7	6	7	7	8	8	4	0	11
		%	100.0%	90.9%	27.3%	54.5%	54.5%	72.7%	63.6%	54.5%	63.6%	63.6%	72.7%	72.7%	36.4%	0.0%	
	5年一貫博士課程・社会科学関係	度数	6	4	2	6	3	3	3	4	2	0	3	5	1	0	8
		%	75.0%	50.0%	25.0%	75.0%	37.5%	37.5%	37.5%	50.0%	25.0%	0.0%	37.5%	62.5%	12.5%	0.0%	
	5年一貫博士課程・その他	度数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	2	2	0	0	2
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
社会人経験の有無	ある（在職又は休職中）	度数	417	384	232	288	134	312	402	150	226	105	130	373	94	12	586
		%	71.2%	65.5%	39.6%	49.1%	22.9%	53.2%	68.6%	25.6%	38.6%	17.9%	22.2%	63.7%	16.0%	2.0%	
	ある（退職）	度数	212	220	85	133	85	181	218	104	141	73	95	205	55	8	295
		%	71.9%	74.6%	28.8%	45.1%	28.8%	61.4%	73.9%	35.3%	47.8%	24.7%	32.2%	69.5%	18.6%	2.7%	
	ない	度数	736	709	266	502	309	600	751	362	458	238	356	745	199	14	1006
		%	73.2%	70.5%	26.4%	49.9%	30.7%	59.6%	74.7%	36.0%	45.5%	23.7%	35.4%	74.1%	19.8%	1.4%	
合計		度数	1365	1313	583	923	528	1093	1371	616	825	416	581	1323	348	34	1887
		%	72.3%	69.6%	30.9%	48.9%	28.0%	57.9%	72.7%	32.6%	43.7%	22.0%	30.8%	70.1%	18.4%	1.8%	

⑩修了した大学院・研究科において実施・提供されていたこと

			修了した大学院・研究科において実施・提供されていたこと（複数回答）																		
			専門ばかりではない幅広い分野の知識等を身に付けられるカリキュラム	海外留学の機会の提供	質を重視した厳正な学位審査	指導教員以外の教員からの指導	企業など学外者からの高度で実践的な教育を受ける機会	主専攻以外の分野の授業等の履修	チームワークを重視したワークショップやプロジェクト形式による授業や課題	英語による授業	アクティブラーニングなど双方向性のある授業	他の研究機関等との研究交流・共同研究	企業などとの共同授業・研究	文献調査など個人で突き詰めて行う課題や研究	企業などにおいて必要とされる能力や人材ニーズ等の把握・情報提供	大学院修了者の就職率や就職先に関する情報の提供	中長期インターンシップの仲介	指導教員による就職先の紹介	大学院生向けのガイダンスや説明会、個別相談会や企業などとのマッチングの機会	あてはまるものはない	合計
性別	男性	度数	597	265	502	724	343	544	295	260	268	216	114	710	131	206	71	157	143	33	1059
		%	56.4%	25.0%	47.4%	68.4%	32.4%	51.4%	27.9%	24.6%	25.3%	20.4%	10.8%	67.0%	12.4%	19.5%	6.7%	14.8%	13.5%	3.1%	
	女性	度数	429	206	389	581	182	440	205	221	208	165	58	583	125	205	68	170	129	17	828
		%	51.8%	24.9%	47.0%	70.2%	22.0%	53.1%	24.8%	26.7%	25.1%	19.9%	7.0%	70.4%	15.1%	24.8%	8.2%	20.5%	15.6%	2.1%	
設置主体	国立	度数	319	195	315	384	182	326	160	214	145	117	72	390	80	118	57	81	112	15	558
		%	57.2%	34.9%	56.5%	68.8%	32.6%	58.4%	28.7%	38.4%	26.0%	21.0%	12.9%	69.9%	14.3%	21.1%	10.2%	14.5%	20.1%	2.7%	
	公立	度数	44	11	33	55	19	41	26	11	23	16	6	44	15	12	2	10	9	1	76
		%	57.9%	14.5%	43.4%	72.4%	25.0%	53.9%	34.2%	14.5%	30.3%	21.1%	7.9%	57.9%	19.7%	15.8%	2.6%	13.2%	11.8%	1.3%	
	私立	度数	663	265	543	866	324	617	314	256	308	248	94	859	161	281	80	236	151	34	1253
		%	52.9%	21.1%	43.3%	69.1%	25.9%	49.2%	25.1%	20.4%	24.6%	19.8%	7.5%	68.6%	12.8%	22.4%	6.4%	18.8%	12.1%	2.7%	
課程・専門分野別	修士（博士前期）課程・人文科学関係	度数	238	112	196	331	84	235	115	113	115	105	22	333	66	126	28	107	68	13	476
		%	50.0%	23.5%	41.2%	69.5%	17.6%	49.4%	24.2%	23.7%	24.2%	22.1%	4.6%	70.0%	13.9%	26.5%	5.9%	22.5%	14.3%	2.7%	
	修士（博士前期）課程・社会科学関係	度数	482	180	321	509	309	424	246	212	217	122	89	475	120	153	80	83	129	15	762
		%	63.3%	23.6%	42.1%	66.8%	40.6%	55.6%	32.3%	27.8%	28.5%	16.0%	11.7%	62.3%	15.7%	20.1%	10.5%	10.9%	16.9%	2.0%	
	修士（博士前期）課程・その他	度数	52	14	42	71	38	40	34	24	24	17	14	66	12	30	7	30	15	2	95
		%	54.7%	14.7%	44.2%	74.7%	40.0%	42.1%	35.8%	25.3%	25.3%	17.9%	14.7%	69.5%	12.6%	31.6%	7.4%	31.6%	15.8%	2.1%	
	博士後期課程・人文科学関係	度数	118	84	135	178	29	121	35	54	49	59	10	193	22	48	10	55	22	7	251
		%	47.0%	33.5%	53.8%	70.9%	11.6%	48.2%	13.9%	21.5%	19.5%	23.5%	4.0%	76.9%	8.8%	19.1%	4.0%	21.9%	8.8%	2.8%	
	博士後期課程・社会科学関係	度数	117	73	169	189	61	139	61	70	62	68	37	199	30	46	13	42	32	12	256
		%	45.7%	28.5%	66.0%	73.8%	23.8%	54.3%	23.8%	27.3%	24.2%	26.6%	14.5%	77.7%	11.7%	18.0%	5.1%	16.4%	12.5%	4.7%	
	博士後期課程・その他	度数	7	1	17	18	3	14	6	4	3	5	0	16	3	5	1	5	1	0	26
		%	26.9%	3.8%	65.4%	69.2%	11.5%	53.8%	23.1%	15.4%	11.5%	19.2%	0.0%	61.5%	11.5%	19.2%	3.8%	19.2%	3.8%	0.0%	
	5年一貫博士課程・人文科学関係	度数	7	3	6	7	0	8	2	2	3	4	0	7	2	1	0	4	3	1	11
		%	63.6%	27.3%	54.5%	63.6%	0.0%	72.7%	18.2%	18.2%	27.3%	36.4%	0.0%	63.6%	18.2%	9.1%	0.0%	36.4%	27.3%	9.1%	
	5年一貫博士課程・社会科学関係	度数	4	3	4	2	1	3	1	2	3	1	0	4	1	2	0	1	2	0	8
		%	50.0%	37.5%	50.0%	25.0%	12.5%	37.5%	12.5%	25.0%	37.5%	12.5%	0.0%	50.0%	12.5%	25.0%	0.0%	12.5%	25.0%	0.0%	
	5年一貫博士課程・その他	度数	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		%	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
社会人経験の有無	ある（在職又は休職中）	度数	351	98	274	389	225	274	173	145	154	91	60	357	53	66	31	58	53	14	586
		%	59.9%	16.7%	46.8%	66.4%	38.4%	46.8%	29.5%	24.7%	26.3%	15.5%	10.2%	60.9%	9.0%	11.3%	5.3%	9.9%	9.0%	2.4%	
	ある（退職）	度数	167	75	159	194	86	158	79	77	74	58	27	201	38	74	27	62	43	9	295
		%	56.6%	25.4%	53.9%	65.8%	29.2%	53.6%	26.8%	26.1%	25.1%	19.7%	9.2%	68.1%	12.9%	25.1%	9.2%	21.0%	14.6%	3.1%	
	ない	度数	508	298	458	722	214	552	248	259	248	232	85	735	165	271	81	207	176	27	1006
		%	50.5%	29.6%	45.5%	71.8%	21.3%	54.9%	24.7%	25.7%	24.7%	23.1%	8.4%	73.1%	16.4%	26.9%	8.1%	20.6%	17.5%	2.7%	
合計		度数	1026	471	891	1305	525	984	500	481	476	381	172	1293	256	411	139	327	272	50	1887
		%	54.4%	25.0%	47.2%	69.2%	27.8%	52.1%	26.5%	25.5%	25.2%	20.2%	9.1%	68.5%	13.6%	21.8%	7.4%	17.3%	14.4%	2.6%	

⑪修了した大学院・研究科においてもっと充実していてほしかったと考えること

			修了した大学院・研究科において、もっと充実していてほしかったと考えること																	
			専門ばかりではない幅広い分野の知識等を身に付けられるカリキュラム	海外留学の機会の提供	質を重視した厳正な学位審査	指導教員以外の教員からの指導	企業など学外者からの高度で実践的な教育を受ける機会	主専攻以外の分野の授業等の履修	チームワークを重視したワークショップやプロジェクト形式による授業や課題	英語による授業	アクティブラーニングなど双方向性のある授業	他の研究機関等との研究交流・共同研究	企業などとの共同授業・研究	文献調査など個人で突き詰めて行う課題や研究	企業などにおいて必要とされる能力や人材ニーズ等の把握・情報提供	大学院修了者の就職率や就職先に関する情報の提供	中長期インターンシップの仲介	指導教員による就職先の紹介	大学院生向けのガイダンスや説明会、個別相談会や企業などとのマッチングの機会	あてはまるものはない	合計
性別	男性	度数	232	271	168	201	309	158	240	226	171	371	328	117	324	349	248	290	285	135	1059
		%	21.9%	25.6%	15.9%	19.0%	29.2%	14.9%	22.7%	21.3%	16.1%	35.0%	31.0%	11.0%	30.6%	33.0%	23.4%	27.4%	26.9%	12.7%	
	女性	度数	218	261	141	155	328	146	228	193	188	370	289	81	299	363	239	293	308	71	828
		%	26.3%	31.5%	17.0%	18.7%	39.6%	17.6%	27.5%	23.3%	22.7%	44.7%	34.9%	9.8%	36.1%	43.8%	28.9%	35.4%	37.2%	8.6%	
設置主体	国立	度数	110	175	70	115	171	87	139	124	110	213	181	50	171	179	153	163	153	71	558
		%	19.7%	31.4%	12.5%	20.6%	30.6%	15.6%	24.9%	22.2%	19.7%	38.2%	32.4%	9.0%	30.6%	32.1%	27.4%	29.2%	27.4%	12.7%	
	公立	度数	16	17	12	15	25	12	15	13	8	30	30	8	24	22	19	23	20	13	76
		%	21.1%	22.4%	15.8%	19.7%	32.9%	15.8%	19.7%	17.1%	10.5%	39.5%	39.5%	10.5%	31.6%	28.9%	25.0%	30.3%	26.3%	17.1%	
	私立	度数	324	340	227	226	441	205	314	282	241	498	406	140	428	511	315	397	420	122	1253
		%	25.9%	27.1%	18.1%	18.0%	35.2%	16.4%	25.1%	22.5%	19.2%	39.7%	32.4%	11.2%	34.2%	40.8%	25.1%	31.7%	33.5%	9.7%	
課程・専門分野別	修士（博士前期）課程・人文科学関係	度数	136	126	76	91	181	83	104	87	86	179	144	46	176	210	141	167	188	50	476
		%	28.6%	26.5%	16.0%	19.1%	38.0%	17.4%	21.8%	18.3%	18.1%	37.6%	30.3%	9.7%	37.0%	44.1%	29.6%	35.1%	39.5%	10.5%	
	修士（博士前期）課程・社会科学関係	度数	169	191	112	143	261	118	195	170	161	290	299	77	268	241	208	204	210	82	762
		%	22.2%	25.1%	14.7%	18.8%	34.3%	15.5%	25.6%	22.3%	21.1%	38.1%	39.2%	10.1%	35.2%	31.6%	27.3%	26.8%	27.6%	10.8%	
	修士（博士前期）課程・その他	度数	19	18	14	14	39	13	26	18	18	34	30	6	32	34	16	21	26	7	95
		%	20.0%	18.9%	14.7%	14.7%	41.1%	13.7%	27.4%	18.9%	18.9%	35.8%	31.6%	6.3%	33.7%	35.8%	16.8%	22.1%	27.4%	7.4%	
	博士後期課程・人文科学関係	度数	57	86	55	43	62	39	66	56	35	117	50	31	65	103	45	84	81	35	251
		%	22.7%	34.3%	21.9%	17.1%	24.7%	15.5%	26.3%	22.3%	13.9%	46.6%	19.9%	12.4%	25.9%	41.0%	17.9%	33.5%	32.3%	13.9%	
	博士後期課程・社会科学関係	度数	54	93	42	51	75	38	62	69	49	100	77	28	70	104	66	91	75	31	256
		%	21.1%	36.3%	16.4%	19.9%	29.3%	14.8%	24.2%	27.0%	19.1%	39.1%	30.1%	10.9%	27.3%	40.6%	25.8%	35.5%	29.3%	12.1%	
	博士後期課程・その他	度数	10	12	6	7	11	8	9	10	4	14	10	3	7	10	6	8	7	0	26
		%	38.5%	46.2%	23.1%	26.9%	42.3%	30.8%	34.6%	38.5%	15.4%	53.8%	38.5%	11.5%	26.9%	38.5%	23.1%	30.8%	26.9%	0.0%	
	5年一貫博士課程・人文科学関係	度数	1	5	3	3	4	1	3	4	3	3	3	4	1	5	3	4	3	1	11
		%	9.1%	45.5%	27.3%	27.3%	36.4%	9.1%	27.3%	36.4%	27.3%	27.3%	27.3%	36.4%	9.1%	45.5%	27.3%	36.4%	27.3%	9.1%	
	5年一貫博士課程・社会科学関係	度数	2	1	1	2	2	2	1	3	1	2	2	2	2	3	2	2	1	0	8
		%	25.0%	12.5%	12.5%	25.0%	25.0%	25.0%	12.5%	37.5%	12.5%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	37.5%	25.0%	25.0%	12.5%	0.0%	
	5年一貫博士課程・その他	度数	2	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2	0	2	2	0	2
		%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	
社会人経験の有無	ある（在職又は休職中）	度数	130	126	73	122	174	98	124	90	112	209	188	54	134	142	97	120	109	85	586
		%	22.2%	21.5%	12.5%	20.8%	29.7%	16.7%	21.2%	15.4%	19.1%	35.7%	32.1%	9.2%	22.9%	24.2%	16.6%	20.5%	18.6%	14.5%	
	ある（退職）	度数	74	83	49	76	104	50	78	68	62	142	107	42	110	117	83	98	82	23	295
		%	25.1%	28.1%	16.6%	25.8%	35.3%	16.9%	26.4%	23.1%	21.0%	48.1%	36.3%	14.2%	37.3%	39.7%	28.1%	33.2%	27.8%	7.8%	
	ない	度数	246	323	187	158	359	156	266	261	185	390	322	102	379	453	307	365	402	98	1006
		%	24.5%	32.1%	18.6%	15.7%	35.7%	15.5%	26.4%	25.9%	18.4%	38.8%	32.0%	10.1%	37.7%	45.0%	30.5%	36.3%	40.0%	9.7%	
合計		度数	450	532	309	356	637	304	468	419	359	741	617	198	623	712	487	583	593	206	1887
		%	23.8%	28.2%	16.4%	18.9%	33.8%	16.1%	24.8%	22.2%	19.0%	39.3%	32.7%	10.5%	33.0%	37.7%	25.8%	30.9%	31.4%	10.9%	

⑫所属していた研究科・専攻の教員の質に関する満足度

			A. 所属していた研究科・専攻の教員の質				合計
			とても満足している	ある程度満足している	あまり満足していない	全く満足していない	
性別	男性	度数	604	376	59	20	1059
		%	57.0%	35.5%	5.6%	1.9%	100.0%
	女性	度数	429	316	62	21	828
		%	51.8%	38.2%	7.5%	2.5%	100.0%
設置主体	国立	度数	347	173	33	5	558
		%	62.2%	31.0%	5.9%	0.9%	100.0%
	公立	度数	35	35	5	1	76
		%	46.1%	46.1%	6.6%	1.3%	100.0%
	私立	度数	651	484	83	35	1253
		%	52.0%	38.6%	6.6%	2.8%	100.0%
課程・専門分野別	修士（博士前期）課程・人文科学関係	度数	263	168	32	13	476
		%	55.3%	35.3%	6.7%	2.7%	100.0%
	修士（博士前期）課程・社会科学関係	度数	401	306	45	10	762
		%	52.6%	40.2%	5.9%	1.3%	100.0%
	修士（博士前期）課程・その他	度数	45	41	6	3	95
		%	47.4%	43.2%	6.3%	3.2%	100.0%
	博士後期課程・人文科学関係	度数	143	85	17	6	251
		%	57.0%	33.9%	6.8%	2.4%	100.0%
	博士後期課程・社会科学関係	度数	158	75	15	8	256
		%	61.7%	29.3%	5.9%	3.1%	100.0%
	博士後期課程・その他	度数	12	10	3	1	26
		%	46.2%	38.5%	11.5%	3.8%	100.0%
	5年一貫博士課程・人文科学関係	度数	6	4	1	0	11
		%	54.5%	36.4%	9.1%	0.0%	100.0%
	5年一貫博士課程・社会科学関係	度数	5	3	0	0	8
		%	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%	100.0%
	5年一貫博士課程・その他	度数	0	0	2	0	2
		%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
社会人経験の有無	ある（在職又は休職中）	度数	309	222	43	12	586
		%	52.7%	37.9%	7.3%	2.0%	100.0%
	ある（退職）	度数	151	111	26	7	295
		%	51.2%	37.6%	8.8%	2.4%	100.0%
	ない	度数	573	359	52	22	1006
		%	57.0%	35.7%	5.2%	2.2%	100.0%
合計		度数	1033	692	121	41	1887
		%	54.7%	36.7%	6.4%	2.2%	100.0%

⑬所属していた研究科・専攻のカリキュラムの内容に関する満足度

			B. 所属していた研究科・専攻のカリキュラムの内容				合計
			とても満足している	ある程度満足している	あまり満足していない	全く満足していない	
性別	男性	度数	381	527	129	22	1059
		%	36.0%	49.8%	12.2%	2.1%	100.0%
	女性	度数	262	443	102	21	828
		%	31.6%	53.5%	12.3%	2.5%	100.0%
設置主体	国立	度数	224	258	65	11	558
		%	40.1%	46.2%	11.6%	2.0%	100.0%
	公立	度数	23	43	9	1	76
		%	30.3%	56.6%	11.8%	1.3%	100.0%
	私立	度数	396	669	157	31	1253
		%	31.6%	53.4%	12.5%	2.5%	100.0%
課程・専門分野別	修士（博士前期）課程・人文科学関係	度数	152	256	55	13	476
		%	31.9%	53.8%	11.6%	2.7%	100.0%
	修士（博士前期）課程・社会科学関係	度数	256	417	79	10	762
		%	33.6%	54.7%	10.4%	1.3%	100.0%
	修士（博士前期）課程・その他	度数	27	48	18	2	95
		%	28.4%	50.5%	18.9%	2.1%	100.0%
	博士後期課程・人文科学関係	度数	90	121	33	7	251
		%	35.9%	48.2%	13.1%	2.8%	100.0%
	博士後期課程・社会科学関係	度数	106	101	38	11	256
		%	41.4%	39.5%	14.8%	4.3%	100.0%
	博士後期課程・その他	度数	5	17	4	0	26
		%	19.2%	65.4%	15.4%	0.0%	100.0%
	5年一貫博士課程・人文科学関係	度数	5	5	1	0	11
		%	45.5%	45.5%	9.1%	0.0%	100.0%
	5年一貫博士課程・社会科学関係	度数	2	5	1	0	8
		%	25.0%	62.5%	12.5%	0.0%	100.0%
	5年一貫博士課程・その他	度数	0	0	2	0	2
		%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
社会人経験の有無	ある（在職又は休職中）	度数	191	313	70	12	586
		%	32.6%	53.4%	11.9%	2.0%	100.0%
	ある（退職）	度数	101	143	42	9	295
		%	34.2%	48.5%	14.2%	3.1%	100.0%
	ない	度数	351	514	119	22	1006
		%	34.9%	51.1%	11.8%	2.2%	100.0%
合計		度数	643	970	231	43	1887
		%	34.1%	51.4%	12.2%	2.3%	100.0%

⑭研究テーマと指導教員の専門性の一致に関する満足度

			C. あなたの研究テーマと指導教員の専門性の一致				合計
			とても満足している	ある程度満足している	あまり満足していない	全く満足していない	
性別	男性	度数	541	391	106	21	1059
		%	51.1%	36.9%	10.0%	2.0%	100.0%
	女性	度数	405	309	80	34	828
		%	48.9%	37.3%	9.7%	4.1%	100.0%
設置主体	国立	度数	295	199	47	17	558
		%	52.9%	35.7%	8.4%	3.0%	100.0%
	公立	度数	35	34	6	1	76
		%	46.1%	44.7%	7.9%	1.3%	100.0%
	私立	度数	616	467	133	37	1253
		%	49.2%	37.3%	10.6%	3.0%	100.0%
課程・専門分野別	修士（博士前期）課程・人文科学関係	度数	227	177	60	12	476
		%	47.7%	37.2%	12.6%	2.5%	100.0%
	修士（博士前期）課程・社会科学関係	度数	360	319	66	17	762
		%	47.2%	41.9%	8.7%	2.2%	100.0%
	修士（博士前期）課程・その他	度数	50	30	11	4	95
		%	52.6%	31.6%	11.6%	4.2%	100.0%
	博士後期課程・人文科学関係	度数	134	79	25	13	251
		%	53.4%	31.5%	10.0%	5.2%	100.0%
	博士後期課程・社会科学関係	度数	153	79	18	6	256
		%	59.8%	30.9%	7.0%	2.3%	100.0%
	博士後期課程・その他	度数	12	10	3	1	26
		%	46.2%	38.5%	11.5%	3.8%	100.0%
	5年一貫博士課程・人文科学関係	度数	6	3	1	1	11
		%	54.5%	27.3%	9.1%	9.1%	100.0%
	5年一貫博士課程・社会科学関係	度数	4	3	1	0	8
		%	50.0%	37.5%	12.5%	0.0%	100.0%
	5年一貫博士課程・その他	度数	0	0	1	1	2
		%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	100.0%
社会人経験の有無	ある（在職又は休職中）	度数	274	233	62	17	586
		%	46.8%	39.8%	10.6%	2.9%	100.0%
	ある（退職）	度数	141	110	33	11	295
		%	47.8%	37.3%	11.2%	3.7%	100.0%
	ない	度数	531	357	91	27	1006
		%	52.8%	35.5%	9.0%	2.7%	100.0%
合計		度数	946	700	186	55	1887
		%	50.1%	37.1%	9.9%	2.9%	100.0%

⑮専攻の規模や学生数に関する満足度

			D. 専攻の規模や学生数				合計
			とても満足している	ある程度満足している	あまり満足していない	全く満足していない	
性別	男性	度数	371	471	177	40	1059
		%	35.0%	44.5%	16.7%	3.8%	100.0%
	女性	度数	282	396	117	33	828
		%	34.1%	47.8%	14.1%	4.0%	100.0%
設置主体	国立	度数	231	245	71	11	558
		%	41.4%	43.9%	12.7%	2.0%	100.0%
	公立	度数	28	34	12	2	76
		%	36.8%	44.7%	15.8%	2.6%	100.0%
	私立	度数	394	588	211	60	1253
		%	31.4%	46.9%	16.8%	4.8%	100.0%
課程・専門分野別	修士（博士前期）課程・人文科学関係	度数	157	241	60	18	476
		%	33.0%	50.6%	12.6%	3.8%	100.0%
	修士（博士前期）課程・社会科学関係	度数	237	359	136	30	762
		%	31.1%	47.1%	17.8%	3.9%	100.0%
	修士（博士前期）課程・その他	度数	39	43	12	1	95
		%	41.1%	45.3%	12.6%	1.1%	100.0%
	博士後期課程・人文科学関係	度数	102	101	36	12	251
		%	40.6%	40.2%	14.3%	4.8%	100.0%
	博士後期課程・社会科学関係	度数	103	102	42	9	256
		%	40.2%	39.8%	16.4%	3.5%	100.0%
	博士後期課程・その他	度数	6	11	6	3	26
		%	23.1%	42.3%	23.1%	11.5%	100.0%
	5年一貫博士課程・人文科学関係	度数	5	6	0	0	11
		%	45.5%	54.5%	0.0%	0.0%	100.0%
	5年一貫博士課程・社会科学関係	度数	4	4	0	0	8
		%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	5年一貫博士課程・その他	度数	0	0	2	0	2
		%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
社会人経験の有無	ある（在職又は休職中）	度数	199	276	92	19	586
		%	34.0%	47.1%	15.7%	3.2%	100.0%
	ある（退職）	度数	90	146	44	15	295
		%	30.5%	49.5%	14.9%	5.1%	100.0%
	ない	度数	364	445	158	39	1006
		%	36.2%	44.2%	15.7%	3.9%	100.0%
合計		度数	653	867	294	73	1887
		%	34.6%	45.9%	15.6%	3.9%	100.0%

⑯大学院修了後の進路や就職先に関する満足度

			E. 大学院修了後の進路や就職先				合計
			とても満足している	ある程度満足している	あまり満足していない	全く満足していない	
性別	男性	度数	293	461	207	98	1059
		%	27.7%	43.5%	19.5%	9.3%	100.0%
	女性	度数	205	369	168	86	828
		%	24.8%	44.6%	20.3%	10.4%	100.0%
設置主体	国立	度数	178	244	97	39	558
		%	31.9%	43.7%	17.4%	7.0%	100.0%
	公立	度数	16	37	16	7	76
		%	21.1%	48.7%	21.1%	9.2%	100.0%
	私立	度数	304	549	262	138	1253
		%	24.3%	43.8%	20.9%	11.0%	100.0%
課程・専門分野別	修士（博士前期）課程・人文科学関係	度数	114	208	104	50	476
		%	23.9%	43.7%	21.8%	10.5%	100.0%
	修士（博士前期）課程・社会科学関係	度数	198	363	145	56	762
		%	26.0%	47.6%	19.0%	7.3%	100.0%
	修士（博士前期）課程・その他	度数	23	48	16	8	95
		%	24.2%	50.5%	16.8%	8.4%	100.0%
	博士後期課程・人文科学関係	度数	62	100	55	34	251
		%	24.7%	39.8%	21.9%	13.5%	100.0%
	博士後期課程・社会科学関係	度数	88	91	48	29	256
		%	34.4%	35.5%	18.8%	11.3%	100.0%
	博士後期課程・その他	度数	6	12	5	3	26
		%	23.1%	46.2%	19.2%	11.5%	100.0%
	5年一貫博士課程・人文科学関係	度数	3	5	2	1	11
		%	27.3%	45.5%	18.2%	9.1%	100.0%
	5年一貫博士課程・社会科学関係	度数	4	3	0	1	8
		%	50.0%	37.5%	0.0%	12.5%	100.0%
	5年一貫博士課程・その他	度数	0	0	0	2	2
		%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
社会人経験の有無	ある（在職又は休職中）	度数	148	273	114	51	586
		%	25.3%	46.6%	19.5%	8.7%	100.0%
	ある（退職）	度数	60	136	64	35	295
		%	20.3%	46.1%	21.7%	11.9%	100.0%
	ない	度数	290	421	197	98	1006
		%	28.8%	41.8%	19.6%	9.7%	100.0%
合計		度数	498	830	375	184	1887
		%	26.4%	44.0%	19.9%	9.8%	100.0%